

厚生労働科学研究費補助金
エイズ対策政策研究事業

MSM に対する有効な HIV 検査提供と
ハイリスク層への介入方法の開発に関する研究

－令和元年度 総括・分担研究報告書－

研究代表者
金子 典代

名古屋市立大学

令和 2 (2020) 年 3 月

目 次

I. 総括研究報告

- MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究……………1
研究代表者 金子典代 (名古屋市立大学看護学部)

II. 分担研究報告

1. 自己検査キットを活用したハイリスク MSM 対象の検査機会の拡大……………15
研究分担者 岩橋恒太 (特定非営利活動法人 akta)、他
2. 地方における新たな検査機会の開発 - 医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善 - ……33
研究分担者 健山正男 (琉球大学大学院医学研究科)、他
3. 地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡大……………39
研究分担者 和田秀穂 (川崎医科大学血液内科学)、他
4. 地方都市での陽性者の検査・予防サービスの接点に関する調査……………57
研究代表者 金子典代 (名古屋市立大学看護学部)、他
5. よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討 ……83
研究分担者 塩野徳史 (大阪青山大学健康科学部)、他

- III. 研究成果の刊行に関する一覧表・刊行物……………115

MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究

研究代表者：金子典代（名古屋市立大学大学院看護学研究科 准教授）

研究要旨

研究 1. 自己検査キットを活用したハイリスク MSM 対象の検査機会の拡大

akta にて 2019 年 12 月末までに開始から累計で 2,087 キットを配布、沖縄 mabui では総計 55 件の配布を行った。検体はすべて ACC に郵送され総計 1,756 件のスクリーニング検査を実施した。検体送付者の 99% は結果をウェブで閲覧しており、研究期間全体での陽性割合は 3.83% であった（なお複数回受検者は N=1 としてカウントした）。検査結果と配布会場で実施する行動調査のリンクも 97% の対象者から同意を得た。全配布機会ですべし東京の相談員が常駐し、全受け取り者の 23% が利用した。akta でのキット受け取り者の 24.8% が本検査が生涯初検査機会と回答していた。都市部でのハイリスク層が利用する検査であることが示された。今後、継続可能性のある方法を検討する必要がある。

研究 2. 地方における新たな検査機会の開発 - 医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善 -

沖縄県で HIV 検査提供が可能な民間の医療機関を開拓し、同病院のウェブサイトの HIV 検査に関する案内文を、また沖縄県のホームページに「HIV 検査を実施している医療機関」として保健所と併記して掲載した。mabui が発行するコミュニティペーパーにも同病院事業を掲載、同病院の HIV 検査外来実施後、一ヶ月後には HIV 陽性者を診断することができた。nankr によるホームページ宣伝を開始することで、1.5 倍の受検者の向上を認めている。73 名の受検者を認め、陽性者も 1 名出ている。また 2019 年 6 月に行政による MSM 向け HIV と梅毒検査をコミュニティセンター mabui において実施し、上限枠を超える利用者 20 名が来場した。

研究 3. 地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡大 -

中四国地域の MSM への検査勧奨のため、MSM 向けクリニックでの検査提供を行政とクリニックと NGO が協働して実施した。2019 年 8 月 19 日～9 月 30 日において、MSM 向けの HIV・梅毒検査を目的とする「岡山県もんげ～性病検査第 9 弾」と「せとうち性病クリニック検査」を同時実施した。前者の実施クリニックは、岡山市 3 施設、倉敷市 3 施設であり、受検者総数は 31 人で、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性者 3 人を新規に診断した。後者では、福山市 2 施設、松山地区 2 施設、高松市 1 施設が参加し、受検者総数は 26 人で、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性 2 人を新規に診断した。

研究 4. 地方都市での陽性者の検査・予防サービスの接点に関する調査

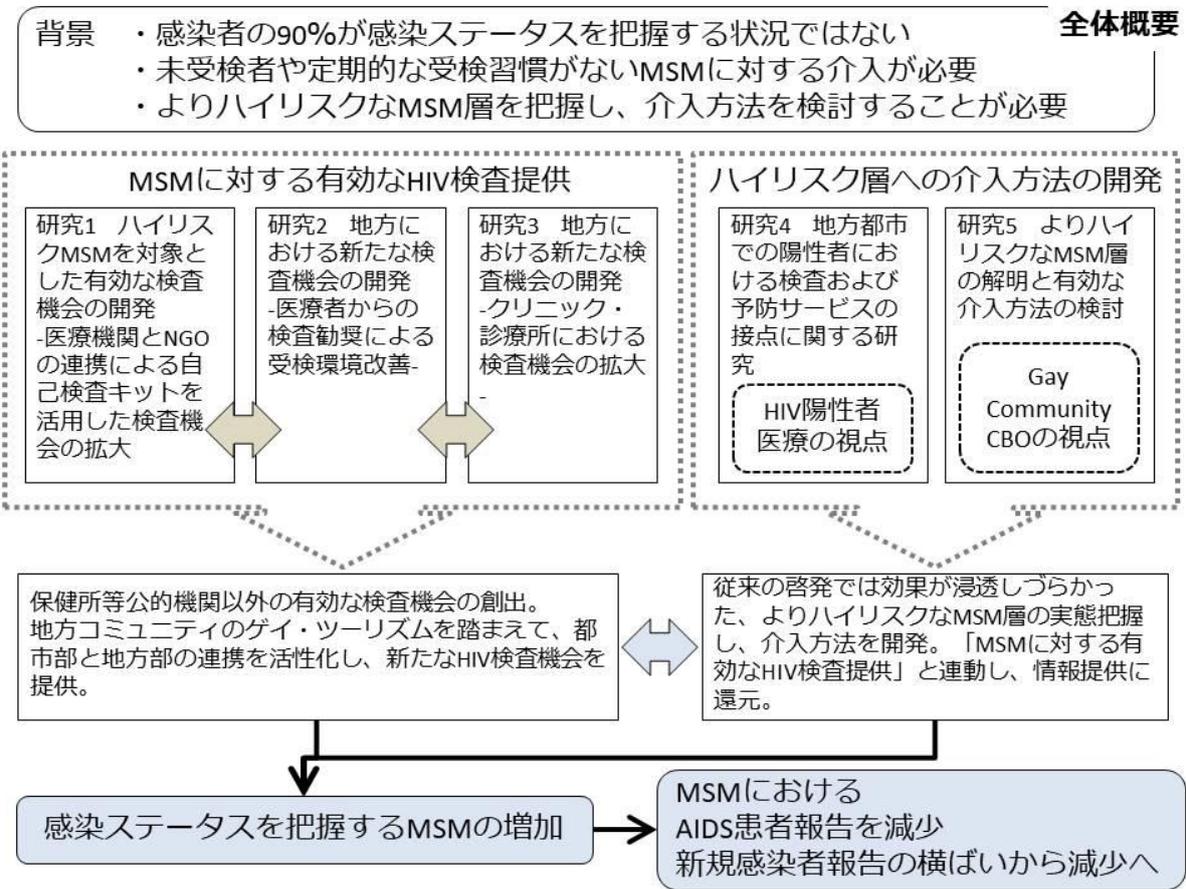
地方都市拠点病院 2 病院で調査用紙を配布し、60 件の過去 5 年以内に陽性が判明した陽性者よりデータを収集した。陽性判明前に HIV 検査を受けたものは 35% にとどまること、HIV 急性期症状が出た 92% が医療機関受診をし、そのうち HIV 検査勧奨を受けた割合は 28% であった。性感染症罹患時の治療を受けた医療機関で HIV 検査を勧奨されたものの割合が 40% にとどまっていることが明らかとなった。

研究 5. よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討

初年度には仙台、横浜、中国、四国、沖縄で、2 年度目には東京、愛知、大阪で調査を実施し、

3年度目に統合し質問紙調査データ（商業施設調査 N=981、インターネット調査 N=328）のコミュニティセンター認知別解析を行った。コミュニティセンター認知割合は商業施設調査で45%、インターネット調査で63%であった。HIV抗体検査受検経験ではコミュニティセンター認知群が82%（インターネット調査）-78%（商業施設調査）、非認知群では67%（インターネット調査）-58%（商業施設調査）であり、有意差がみられた。性感染症既往歴でもコミュニティセンター認知群が55%（インターネット調査）-47%（商業施設調査）、非認知群では33%（インターネット調査）-35%（商業施設調査）であり、有意差がみられた。また本年度は成人前期（20歳代）MSMにおけるHIV予防・認識と性行動に関する面接調査研究を実施し、若年層における出会い、セーフセックス、検査、予防情報の入手についての実態に関する詳細なデータを収集した。

研究分担者
 岩橋 恒太
 （特定非営利活動法人 akta 理事長）
 健山 正男
 （琉球大学大学院医学研究科 准教授）
 和田 秀穂
 （川崎医科大学血液内科学 教授）
 塩野 徳史
 （大阪青山大学健康科学部看護学科 講師）



A. 研究目的

本研究の目的は次の3点である。

1. 医療機関と NPO akta が連携して開発した自己検体採取キットの配布と検査、結果通知がパッケージ化されたシステムを活用し、ハイリスク MSM の検査推進を図る。また受検者の HIV 感染ステータスと行動データをリンクさせた血清行動疫学調査を実施する。
2. 地方都市で、公的機関以外の医療機関等を活用した新たな HIV 検査の提供体制を整備し、対面型の接触を避ける MSM への検査促進を行う。
3. 当事者 NGO が協働し、従来の予防介入が届きにくかったハイリスク MSM の実態把握と有効な介入を方法の検討を行う。

B. 研究方法

研究 1. 医療機関と NGO の連携による自己検査キットを活用したハイリスク MSM 対象の検査機会の拡大

研究分担者 岩橋恒太

医療機関(国立国際医療研究センター:ACC)と NPO が連携した検査「HIVcheck.jp」を活用して実施する。本検査の流れは下記のとおりである。①コミュニティセンターなど MSM コミュニティ内のベニューにて NGO スタッフが対面で検査の流れを説明しキットを配布、自記式質問紙調査への回答を依頼する。②同意した受検者は後日自己穿刺血したろ紙を ACC に郵送する。③ACC でのスクリーニング検査の結果は、受検者固有の ID とパスワードを専用 WEB サイトに入力することで結果ページにアクセスを可能とする。④スクリーニング検査で要確認となった場合は、指定の医療機関の予約と受診につなぎ、さらに確定検査で陽性の場合には HIV 専門医療機関を紹介する。⑤専用 WEB サイトには検査・相談・医療に関する情報サイト HIV マップ等をリンクし、支援環境を周知する。血清行動疫学分析として、受検者の検査結果と自記式質問紙調査のデータをリンクして分析す

る。陽性者の背景分析、有病割合と推定罹患率を算出する。

検査キットはコミュニティセンターakta、東京都内の MSM 向け商業施設(ハッテン場)で配布する。沖縄 mabui, 都内のゲイ向けクラブイベントでも配布する。

研究 2. 地方における新たな検査機会の開発 - 医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善 -

研究分担者 健山正男

沖縄県で HIV 検査が早期かつ適切に提供できる体制を医療、行政、NGO の連携により整備する。令和元年度は、HIV 罹患率の高い MSM が利用しやすい保健所以外の検査機関(病院)を確保する。施設要件としては、①受付から診療まで MSM に対してフレンドリーであること、②平日以外も HIV 検査が実施できること、とした。那覇市行政による検査を mabui で実施、MSM が利用しやすい検査機関を開拓する。

研究 3. 地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡大 -

研究分担者 和田秀穂

岡山県での医療機関を活用した MSM 向け検査モデルを中四国ブロックにて普及させ、受検者動向調査、コミュニティベース調査により評価を行う。

調査地域:岡山県、愛媛県、広島県、その他中四国ブロック

令和元年度は新たに香川県での民間医療機関を開拓し、MSM にむけて二期に分けて検査提供を実施する。またインターネットを活用した CBO の広域広報により本プログラムの中四国全体への浸透・定着を図る。受検者への質問紙調査、行政への検査機関別 HIV/AIDS 報告件数、コミュニティでの横断調査により効果評価を行うものとする。

研究 4. 地方都市での陽性者の検査・予防サー

ビスの接点に関する調査

研究分担者 金子典代

横断型自記式質問紙調査により、拠点病院等に通院する HIV 陽性者を対象に、感染判明前の検査、医療機関の利用、予防啓発との接点を把握し、地方都市での早期検査勧奨の考案、ハイリスク MSM の実態把握と有効な介入の考案に活用する。令和元年度は中四国、九州ブロックそれぞれの拠点病院において質問紙の配布回収を終え、解析を実施する。

研究 5. よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討

研究分担者 塩野徳史

全国の 7 NGO と連携し、横断型自記式質問紙調査を実施する。ミーティングにより調査手法の検討を行い、よりハイリスクな層を意識した質問紙調査を実施する。NGO が持つコミュニティ内のネットワークにより集めたハイリスク MSM に対し、性行動、予防行動、HIV/AIDS に関する意識を分析し、有効な介入を考案する。

また本年度は成人前期 (20 歳代) MSM における HIV 予防・認識と性行動に関するグループ面接調査研究を実施する。

調査地域：東北、首都圏、横浜、東海、大阪、中四国、沖縄

(倫理面への配慮)

研究計画については、研究者が所属または外部委託する研究機関において倫理審査を受けて実施する。本研究は血液検査が含まれており、協力依頼時には訓練された専門のスタッフが書面および口頭によって説明し、研究主体、研究目的、調査参加の任意性、予想されるメリット、デメリット、厳密な個人情報の保護、不参加の際に不利益を受けないこと、途中で中止の自由について十分に理解を得たのちに同意を得たうえで実施する。

C. 研究結果

研究 1. 自己検査キットを活用したハイリスク MSM 対象の検査機会の拡大

平成 29 年度末 (2 月 26 日) よりコミュニティセンターakta での検査キットの配布を開始した。令和元年度は東京都内のクラブイベント (台風にてイベントがキャンセル)、また沖縄コミュニティセンターmabui でも 2 回目の配布を行った。本研究機関で累計 2,087 キットの配布を行った (ハッテン場では 49 キット、沖縄では令和 1-2 年度 2 回で 55 キットを配布)。2,087 件の配布キットのうち、84.1% の検体が ACC に郵送された。いずれの配布時にも相談支援の専門家が常駐しており、キット受け取り者の 23% に相談利用があった。外国籍者の利用が全体のうち 10% であった。本研究では、行動調査とスクリーニング検査をリンクさせる血清疫学行動調査を実施しているが、全体の 97% からリンクの同意を得た。キット受け取り者の属性は、平均年齢は 32.7 歳、全体の 24.8% がこれまでの検査経験がないものであった。ACC での 1,756 件の回収済検体のうち、スクリーニング検査で 45 名陽性が判明している。そのうち、医療機関受診を確認できたものは 21 件 (46.7%) であった。ゲイ向け商業施設であるハッテン場配布由来の検体の陽性割合は、コミュニティセンター配布由来検体より高かった。

研究 2. 地方における新たな検査機会の開発 - 医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善 -

沖縄県で HIV 検査提供が可能な民間の医療機関を開拓し、広報として、同病院のウェブサイト上の HIV 検査に関する案内文を作成した。また沖縄県のホームページに「HIV 検査を実施している医療機関」として保健所と併記して掲載された：<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/chiikihoken/kekkaku/hivaid.html>。MSM 向けの広報強化のため、mabui が発行するコミュニティペーパーにも同病院事

業を掲載、MSM向けのサイトに広告を掲載した。同病院の HIV 検査外来実施後、一ヶ月後には HIV 陽性者を診断することができた。また行政のホームページ、nankr でも宣伝を行い、1.5 倍の受検者の向上を認めている。73 名の受検者を認め、陽性者も 1 名出ている。

2019 年 6 月に行政による MSM 向け HIV と梅毒検査をコミュニティセンター mabui において実施した。上限枠を超える利用者 20 名が来場した。広報は NGO が担当した。

研究 3. 地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡大 -

中四国地域の MSM への検査勧奨のため、MSM 向けクリニックでの検査提供を行政とクリニックと NGO が協働して実施した。2019 年 8 月 19 日～9 月 30 日において、MSM 向けの HIV・梅毒検査を目的とする「岡山県もんげ～性病検査第 9 弾」と「せとうち性病クリニック検査」を同時実施した。前者の実施クリニックは、岡山市 3 施設、倉敷市 3 施設であり、受検者総数は 31 人で、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性者 3 人を新規に診断した。後者では、福山市 2 施設、松山地区 2 施設、高松市 1 施設が参加し、受検者総数は 26 人で、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性 2 人を新規に診断した。

研究 4. 地方都市での陽性者の検査・予防サービスの接点に関する調査

地方都市拠点病院 2 病院で調査用紙を配布し、60 件の過去 5 年以内に陽性が判明した陽性者よりデータを収集した。陽性判明前に HIV 検査を受けたものは 35%にとどまること、HIV 急性期症状が出た 92%が医療機関受診をし、そのうち HIV 検査勧奨を受けた割合は 28%であった。性感染症罹患時の治療を受けた医療機関で HIV 検査を勧奨されたものの割合が 40%であり、検査を勧められたものの 87%は検査を受検していた。また陽性判明前 1 年間の商業施設利用については、ゲイバーよりハッテン場

(41.2%)の方が利用割合が高かった。

研究 5. よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討

全国の NGO と協働し、よりハイリスクな層を明確化するために、インターネット利用に関する項目、TasP、PrEP に関する知識について尋ねる質問項目も加え、新たな質問紙を作成し調査を実施した。初年度には仙台、横浜、中国、四国、沖縄で、2 年度目には東京、愛知、大阪で実施し、3 年度目に統合し質問紙調査データ（商業施設調査 N=981、インターネット調査 N=328）のコミュニティセンター認知別解析を行った。コミュニティセンター認知割合は商業施設調査で 45%、インターネット調査で 63%であった。HIV 抗体検査受検経験ではコミュニティセンター認知群が 82%（インターネット調査）-78%（商業施設調査）、非認知群では 67%（インターネット調査）-58%（商業施設調査）であり、有意差がみられた。性感染症既往歴でもコミュニティセンター認知群が 55%（インターネット調査）-47%（商業施設調査）、非認知群では 33%（インターネット調査）-35%（商業施設調査）であり、有意差がみられた。

また本年度は成人前期（20 歳代）MSM における HIV 予防・認識と性行動に関する面接調査研究を実施し、若年層における出会い、セーフセックス、検査、予防情報の入手についての実態に関する詳細なデータを収集した。

20 歳代のセックス相手との出会いは、多様であるが、その時々アプリ等ネットツールやリアル場の状況を見つつ、マメな使い分けや組み合わせた使い方をしている。どのように出会っているのかを常に把握し続けながら、HIV や性感染症の情報支援や介入をしていく効果的な場を求める必要がある。

中学校・高校での HIV や性感染症の授業で学んだことは、その後 20 代に至っても記憶に残っており、また教科書はネット情報に比べてより信頼されている。シャワ浣やセックス前の

準備なども含め、20代のセックスについての情報は口コミや各自の経験から模索しているところも大きい。また「不特定多数」に代表されるように、用語の意味がわからず各々が自己解釈している場合も少なくない。HIVや性感染症に限らず、セックスについての情報提供をしたり、セックスについての意見交換をする場を設けるとよりよいとも思われた。HIVやSTI検査機会の充実・拡大は20歳代でも要望されていた

D. 考察

研究1は、akta以外の場所でも配布を実施し、3年間ではほぼ計画通りに実施を行った。2月末までACCにて検体の受付は行い中間集計ではあるが、2.5%を越す陽性割合となっている。スクリーニング陽性者の確認検査へのつなぎを向上できるよう、医療機関受診予約から受診への流れのビデオを作成、キット配布時の説明強化を行った。2019年8月から無料匿名での確認検査へとつなぐべく東京都からもスクリーニング陽性者の検査の受け入れ先として協力を得た。しかし、中間時点ではあるが、陽性者の医療へのつなぎの捕捉率は50%を切っており、この点で課題を残した。

研究2については、医療とMSMコミュニティが連携し、開拓した民間医療でのHIV検査の広報を行い、急性感染期の患者の早期発見へとつながった。

研究3は毎年新しくクリニックを開拓し、計画通り拡大展開を実施できた。「せとうち性病クリニック検査」での受検者アンケート調査では、29歳以下の若年層で初受検者の割合が71.4%と高かったのが特徴であり、「もんげ〜性病検査」の広報の認知度も高く、CBOとの協働が重要であることが改めて示された。

研究4では、過去5年に感染が判明した地方都市陽性者MSMの感染前のHIV検査機会や利用した商業施設についての把握が可能となった。急性感染期や性感染症罹患時に医療機関に

受診しているにもかかわらず適切にHIV検査勧奨がなされていないことが示された。

研究5では、全国NGOと協働し、質問紙調査結果に基づき、検査未受検層、ハイリスク層を明確化することができた。コミュニティセンター認知群は感染リスクが最も高い層であり、検査経験の高さや啓発資材の浸透度より予防介入が届いていると考えられた。コミュニティセンター認知群は、性感染症既往歴は高いが、コンドーム使用および啓発資材の浸透度は約半数であるため、継続的な予防介入が必要である層と考えられる。一方で、コミュニティセンター非認知群において、先行研究に比べ感染の拡大が示唆されており、啓発資材の浸透度は低い。今後はコミュニティセンターより発信される情報を、コミュニティ全体にさらに広げるような手立てを考えていく必要がある。また20歳代の若者は、複数のSNSサービス、アプリ、サイトを使い分けながら相手とも出会っており、商業施設ベースのみならず、ネットを介した出会いが増えていることが示された。出会いの状況を把握し続け、効果的な予防啓発の場を探ることが急務であることが示された。

1) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

わが国では未達成である「90%の陽性者が自身の感染ステータスを把握する状況」の到達のためにも、self-testingの手法の一つである「HIVcheck.jp」がMSMコミュニティにて浸透しうるかを検証する試みは社会的にも意義が高い。コミュニティベースに展開する「HIVcheck.jp」での陽性割合は従来の保健所の陽性割合より8倍以上高く、受け取り者の20%以上は生涯初の検査機会となっていること、ハッテン場由来の検体の陽性割合が高いことから、ハイリスクなMSMへの検査としては有用であることが示された。

地方都市では、急性感染期の医療機関の早期受診の促進、医療者からの適切な時期に検査勧

奨を行うことはきわめて重要であることが示された。医療とコミュニティが協働し、医療者、MSMコミュニティ双方に働きかける社会的意義は大きい。NGO、行政、医療の連携による民間クリニックを活用した MSM への HIV 検査の事業化に成功したモデル事例を周辺県にも拡大させることは、他の地方都市にもモデルになっている。従来の商業施設ベース型の介入が届きにくかったハイリスク MSM の実態把握や介入開発は日本では未実施であり社会的意義は高い。

2) 研究の達成度について

達成度について、研究 1 の「HIVcheck.jp」は、akta 以外での配布も実施してきており、今年度はゲイ向けクラブイベントでの配布も計画したがイベント当日に大型台風が来たためイベントがキャンセルとなり、特定日、特定場所での単回の配布プログラムに伴う課題が示された。また外国籍 MSM の利用も全体の 10%を超えており、検査ニーズがあることが示された。研究 2、3 の地方都市での検査拡大については、研究者、NGO、行政の協働により検査、効果評価が予定通りに進行した。研究 4 では、地方都市における検査機会の少なさや性感染症罹患時、急性期症状を呈して医療機関に受診しているにもかかわらず HIV 検査が実施されていない状況を示した。研究 5 については、全国 NGO による研究チームが構成され解析が進行した。

3) 今後の展望について

本研究の成果により、新たな検査の手法の事業化や MSM 向けの検査機会拡大、全国での地方都市の検査体制の整備、介入の展開につないでいくことが期待される。

E. 結論

UNAIDS の 90-90-90 の初めの段階である「90%の陽性者が自身の感染ステータスを把握する状況」の到達には、MSM への更なる検査

拡充が必須である。今回の「HIVcheck.jp」、地方都市での検査促進についても、いずれも NGO と行政と医療との協働による取り組みが必須となる。また従来の商業施設ベースの予防介入が届きにくかったハイリスク MSM にも情報を届ける仕組みを作り、よりハイリスクな層へのアウトリーチへとつなげる必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

研究代表者

金子典代

1. 学会発表（国内）

- 1) ○金子典代：MSM における HIV 検査受検、定期検査受検のハードルを下げるための試み。日本エイズ学会シンポジウム、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 2) ○金子典代：MSM に対する検査提供と予防介入の実践と変遷。シンポジウム 4、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 3) 高橋良介、石田敏彦、藤浦裕二、岩崎 誠、今橋真弓、金子典代：東海地域におけるゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした性感染症検査会の NGO による広報とその効果。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 4) ○金子典代、太田 貴、荒木 順、岩橋恒太、石田敏彦、宮田りりい、塩野徳史、玉城祐貴：コミュニティセンター来場者におけるセンターでの情報入手や相談経験、HIV 検査行動、新しい知識の浸透。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 5) ○岩橋恒太、金子典代、高野 操、岡 慎一、本間隆之、健山正男、玉城祐貴、市川誠一、荒木 順、木南拓也、生島 嗣、佐藤郁夫、福原寿弥、林田庸総、中山保世、小日向弘雄、今村顕史：MSM を対象とした郵送検査キット用いた HIV 検査「HIVcheck.jp」のベニューの拡大の試行。第 33 回日本エイズ学

- 会学術集会・総会、熊本、2019.
- 6) 宮田りりい、塩野徳史、金子典代: MSM (Men who have sex with men) に包摂される女装者たちの性行動や HIV 感染症に対する意識. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 7) Michiko Takaku, Myagmardorj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Davaalkham Jagdagsuren, Seiichi Ichikawa, Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Shinichi Oka : Studies evaluating NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia: Results of the internet surveys in FY 2013, 2014, 2017 and 2018. The 33rd Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Kumamoto, 2019.
- 8) ○林田庸総、柏木恵莉、土屋亮人、高野 操、青木孝弘、瀧永博之、菊池 嘉、岩橋恒太、金子典代、岡 慎一: 乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 郵送検査の性質についての検討. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 9) 岩橋恒太、金子典代、荒木 順、木南拓也、鈴木敦大、堅多敦子、今村顕史: MSM を対象とする、2018 年の A 型肝炎の拡大の注意喚起に関する効果評価調査. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 10) 今村顕史、堅多敦子、岩橋恒太、荒木 順、金子典代、生島 嗣、西浦 博、齋藤涼平: MSM における A 型肝炎流行への対策と効果についての検討. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 11) 金子典代: MSM に対する支援 何が必要か. シンポジウム 1、第 68 回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第 66 回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会、仙台、2019.

2. 学会発表 (国外)

- 1) ○Kota Iwahashi, Noriyo Kaneko, Misao Takano, Shinichi Oka, Takayuki Honma,

Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa, Jun Araki, Takuya Kinami, Yuzuru Ikushima, Ikuo Sato, Toshiya Fukuhara, Tsunefusa Hayashida, Nakayama Yasuyo, Hiroo Obinata, Akifumi Imamura: Dry Blood Spot-Based HIV Testing 'HIVcheck.jp' is a New Testing Opportunity for Men who have Sex with Men in Tokyo, Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.

- 2) Kinami T, Fujiwara K, Suzuki A, Abe J, Araki J, Iwahashi K, Kaneko N, Honma T: The Outreach Programme "Delivery Health Project" as the Best Practice of HIV Prevention for MSM in Tokyo Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.

研究分担者

岩橋恒太

1. 学会発表 (国内)

- 1) ○岩橋恒太: NGO の視点からみた新しい確認検査法への期待 ~コミュニティセンターakta での HIVcheck.jp の経験から. シンポジウム 2、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 2) 本間隆之、岩橋恒太、生島 嗣、貞升健志、長島真美、市川誠一、今村顕史: MSM に向けた HIV 検査相談会「快速あんしん検査上野駅」3 年間の取り組み. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 3) ○金子典代、太田 貴、荒木 順、岩橋恒太、石田敏彦、宮田りりい、塩野徳史、玉城祐貴: コミュニティセンター来場者におけるセンターでの情報入手や相談経験、HIV 検査行動、新しい知識の浸透. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 4) ○岩橋恒太、金子典代、高野 操、岡 慎一、本間隆之、健山正男、玉城祐貴、市川誠一、荒木 順、木南拓也、生島 嗣、佐藤郁夫、福原寿弥、林田庸総、中山保世、小日向

- 弘雄、今村顕史：MSM を対象とした郵送検査キット用いた HIV 検査「HIVcheck.jp」のベニューの拡大の試行. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 5) ○林田庸総、柏木恵莉、土屋亮人、高野 操、青木孝弘、瀧永博之、菊池 嘉、岩橋恒太、金子典代、岡 慎一：乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 郵送検査の性質についての検討. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 6) 佐野貴子、近藤真規子、土屋菜歩、須藤弘二、星野慎二、井戸田一朗、清水茂徳、生島嗣、岩橋恒太、今井光信、加藤真吾、市川誠一、白阪琢磨、今村顕史：ウェブサイト「HIV 検査・相談マップ」を用いた HIV 検査相談情報の提供とサイト利用状況の解析. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 7) 岩橋恒太、金子典代、荒木 順、木南拓也、鈴木敦大、堅多敦子、今村顕史：MSM を対象とする、2018 年の A 型肝炎の拡大の注意喚起に関する効果評価調査. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 8) 今村顕史、堅多敦子、岩橋恒太、荒木 順、金子典代、生島 嗣、西浦 博、齋藤涼平：MSM における A 型肝炎流行への対策と効果についての検討. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
2. 学会発表 (国外)
- 1) ○Kota Iwahashi, Noriyo Kaneko, Misao Takano, Shinichi Oka, Takayuki Honma, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa, Jun Araki, Takuya Kinami, Yuzuru Ikushima, Ikuo Sato, Toshiya Fukuhara, Tsunefusa Hayashida, Nakayama Yasuyo, Hiroo Obinata, Akifumi Imamura: Dry Blood Spot-Based HIV Testing ‘HIVcheck.jp’ is a New Testing Opportunity for Men who have Sex with Men in Tokyo, Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.
- 2) Kinami T, Fujiwara K, Suzuki A, Abe J, Araki J, Iwahashi K, Kaneko N, Honma T: The Outreach Programme “Delivery Health Project” as the Best Practice of HIV Prevention for MSM in Tokyo Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.
- 健山正男
1. 学会発表 (国内)
- 1) 健山正男：トキゾプラズマ症の現況と課題. シンポジウム 5、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 2) 上原 仁、諸見牧子、与那覇房子、前田サオリ、宮城京子、石郷岡美穂、大城市子、辺士名優美子、仲村秀太、健山正男、藤田次郎、中村克徳：ラルテグラビル 1200 mg とプロトンポンプ阻害薬との併用による有害事象が疑われた一例. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 3) ○岩橋恒太、金子典代、高野 操、岡 慎一、本間隆之、健山正男、玉城祐貴、市川誠一、荒木 順、木南拓也、生島 嗣、佐藤郁夫、福原寿弥、林田庸総、中山保世、小日向弘雄、今村顕史：MSM を対象とした郵送検査キット用いた HIV 検査「HIVcheck.jp」のベニューの拡大の試行. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 4) 前田サオリ、宮城京子、仲村秀太、名嘉山賀子、健山正男、上原 仁、石郷岡美穂、大嶺千代美、藤田次郎：HIV 感染および肺結核が判明した外国人母子の療養支援. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 5) 蜂谷敦子、佐藤かおり、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、岡 慎一、瀧永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、椎野禎一郎、須藤弘二、加藤真吾、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌秀、太田康男、茂呂 寛、渡邊珠代、松田昌和、重見 麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、小島洋子、森 治代、藤

井輝久、高田清式、中村麻子、南 留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎、杉浦 互、吉村和久、菊池 正：国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

- 6) 饒平名聖、石原美紀、島袋末美、渡嘉敷良乃、名護珠美、上原 仁、宮城京子、前田サオリ、仲村秀太、健山正男、前田士郎：当院における HIV-1 インテグラーゼ薬剤耐性検査の検出状況報告. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 7) 仲村秀太、健山正男、名嘉山賀子、上原 仁、前田サオリ、宮城京子、藤田次郎：一次結核を発症した生後 7 ヶ月の HIV 陽性乳児において TDM によるラルテグラビル投与量設定が奏功した 1 例. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

2. 学会発表 (国外)

- 1) OKota Iwahashi, Noriyo Kaneko, Misao Takano, Shinichi Oka, Takayuki Honma, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa, Jun Araki, Takuya Kinami, Yuzuru Ikushima, Ikuo Sato, Toshiya Fukuhara, Tsunefusa Hayashida, Nakayama Yasuyo, Hiroo Obinata, Akifumi Imamura: Dry Blood Spot-Based HIV Testing 'HIVcheck.jp' is a New Testing Opportunity for Men who have Sex with Men in Tokyo, Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.

和田秀穂

1. 論文発表

- 1) 和田秀穂. : HIV 感染症の過去・現在・未来. 臨床病理 67 (補冊) : 5, 2019.
- 2) 安井 晴之進, 橋本 誠也, 林 茂樹, 横井 桃子, 松本 誠司, 廣瀬 匡, 竹内 麻子, 徳永 博俊, 近藤 敏範, 近藤 英生, 和田 秀穂. : R-MPV 療法が奏効した HIV 関連 PCNSL の

1 例. 臨床血液 60(5) : 515, 2019.

- 3) Nakagiri I, Tasaka T, Okai M, Nakai F, Bunya R, Nagai S, Yoshida T, Tokunaga H, Kondo E, Wada H. : Screening for human immunodeficiency virus using a newly developed fourth generation lateral flow immunochromatography assay. J. Virol. Methods. 274 :113746, 2019.

2. 学会発表 (国内)

- 1) ○和田秀穂：地方における性病クリニック検査の事業化と今後の展望. シンポジウム 4、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 2) 野村直幸、松井綾香、飯塚暁子、藤原千尋、門田悦子、木梨貴博、村上由佳、齊藤誠司、坂田達朗、和田秀穂：HIV 感染症治療における院外処方への移行の推進に向けた薬剤師の取り組みと課題. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 3) 松井綾香、野村直幸、村上由佳、藤原千尋、飯塚暁子、木梨貴博、門田悦子、齊藤誠司、坂田達朗、和田秀穂：HIV 感染症治療における院外処方移行促進のための病院 - 保険薬局間での情報共有に対する取り組み. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 4) 近藤陽介、安井晴之進、福田寛文、竹内麻子、徳永博俊、近藤英生、和田秀穂：大量メトトレキサート併用化学療法が奏功した HIV 関連リンパ腫の 2 例. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 5) 西田拓洋、中尾 綾、中村美保、川田通子、海面 敬、臼井麻子、池谷千恵、吉川由香、武内世生、窪田良次、尾崎修治、佐藤 穰、千酌浩樹、和田秀穂、山下 光、山之内純、高田清式：中国四国地方における HIV 関連神経認知障害に関する研究 - 体制構築 - . 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 6) 飯塚暁子、藤原千尋、村上由佳、門田悦子、三笠かおる、大島瑞穂、松井綾香、野村直幸、

木梨貴博、齊藤誠司、坂田達朗、和田秀穂：
当院の HIV 感染症通院患者における精神科受
診の現状と課題. 第 33 回日本エイズ学会学
術集会・総会、熊本、2019.

塩野徳史

1. 学会発表（国内）

1) 塩野徳史：長期療養時代の医療・行政・コ
ミュニティの協働態勢の構築. 共催シンポジ
ウム 1、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総
会、熊本、2019.

2) ○金子典代、太田 貴、荒木 順、岩橋恒
太、石田敏彦、宮田りりい、塩野徳史、玉城
祐貴：コミュニティセンター来場者における
センターでの情報入手や相談経験、HIV 検査
行動、新しい知識の浸透. 第 33 回日本エイズ
学会学術集会・総会、熊本、2019.

3) 宮田りりい、塩野徳史、金子典代：MSM (Men
who have sex with men) に包摂される女装
者たちの性行動や HIV 感染症に対する意識.
第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊
本、2019.

4) Michiko Takaku, Myagmardorj Dorjgotov,
Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjams,
Davaalkham Jagdagsuren, Seiichi Ichikawa,
Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Shinichi
Oka : Studies evaluating NGOs' HIV
prevention interventions targeting MSM
community in Mongolia: Results of the
internet surveys in FY 2013, 2014, 2017
and 2018. The 33rd Annual Meeting of the
Japanese Society for AIDS Research,
Kumamoto, 2019.

5) ○塩野徳史：MSM におけるセクシュアルヘ
ルス (HIV 検査行動、新しい知識) に関する
現状. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総
会、熊本、2019.

6) 戸ヶ里泰典、井上洋士、高久陽介、大島 岳、
阿部桜子、細川陸也、塩野徳史、米倉佑貴、
片倉直子、山内麻江、河合 薫、若林チヒロ、

大木幸子：日本人 HIV 陽性者におけるストレ
ス関連成長の実態とその特徴. 第 33 回日本
エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

7) 宮階真紀、塩野徳史、要友紀子、宮田りりい、
松下修三：セックスワーカーにおけるセク
シュアルヘルスに関する現状. 第 33 回日本
エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

自己検査キットを活用したハイリスク MSM 対象の検査機会の拡大

研究分担者:岩橋恒太(特定非営利活動法人 akta 理事長)

研究協力者:金子典代(名古屋市立大学看護学研究科)

高野操、岡慎一、林田庸総(国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター)

本間隆之(山梨県立大学看護学部)

健山正男、宮城京子、金崎慶大(琉球大学医学部)

荒木順子、木南拓也、藤原孝大、Diego Tavares Vasques、小山輝道、鈴木敦大(特定非営利活動法人 akta/community center akta)

浅沼智也(カラフル@はーと/community center akta)

生島嗣、佐藤郁夫、福原寿弥(特定非営利活動法人ふれいす東京)

玉城祐貴、赤嶺友紀、兼城将(nankr 沖縄 / コミュニティセンターmabui)

中山保世、小日向弘雄(東新宿こころのクリニック)

今村顕史(がん・感染症センター 都立駒込病院)

根岸潤(東京都福祉保健局)

城所敏英(東京都南新宿検査・相談室)

高久道子(岐阜保健大学看護学部)

市川誠一(金城学院大学消費生活科学研究所)

研究要旨

我が国の HIV 新規感染報告者数の 7 割は男性同性間の性的接触による感染であり、ゲイ・バイセクシュアル男性は HIV 感染の早期発見のための検査受検勧奨の重要なターゲット層となっている。UNAIDS(国連エイズ合同計画)は以下の 3 つを達成できれば、2030 年にはエイズは公衆衛生上の脅威ではなくなることを示し、90-90-90 戦略として打ち出している。その 3 つとはすなわち、①HIV 感染者のうち 90%が診断されていること、②診断された感染者のうち 90%が治療を受けていること、③治療を受けているもののうちウイルス量が抑制されている患者数が 90%であることである。日本では、②、③はほぼ到達できていることが先行研究等により示されているが、我が国の男性と性行為を行う男性(Men who have sex with men:MSM)では感染者の 90%が感染ステータスを把握する状況には未到達である。今後のわが国での新規 HIV 感染者とエイズ患者の報告を減少させるためには、従来の公的機関や医療機関にて提供される検査以外の手法も検討し、MSM の検査機会を拡大させる必要がある。

本研究では、コミュニティセンターや MSM をサポートする NGO、そして医療機関とが連携し、検査キットを活用したハイリスク MSM 層の受検推進とこのコミュニティベースの DBS 法を用い

た HIV 検査の事業化に向けた検討を図る。また本検査手法を用いて、受検者の HIV 感染ステータスと行動データをリンクさせた血清行動疫学調査を実施する。

なお、本研究の前身となる取り組みが平成 26 年度から平成 28 年度にかけて国際医療研究開発費疾病研究分野「UNAIDS が掲げる臨床評価指標 90-90-90 達成のための男性同性愛者に対する新しい HIV 検査システムの構築に関する研究(研究代表者:岡慎一)」として実施された。平成 27 年 8 月から平成 28 年 12 月までに 1,702 件の検査キットを配布し、1,403 件(陽性 34 件)の回収実績を得ている。本研究はこの先行研究をもとに、HIV 検査の hard to reach 層を指定し、更に検査キットの配布場所と配布対象者を拡大する。新宿地域での配布に加え、沖縄など他地域の地方のコミュニティセンターでの配布の試行、さらにハッテン場(性行為を目的とした MSM の出会いの場)等での出張配布、英語であれば説明文章の理解とコミュニケーションをとることが可能な外国籍 MSM を対象者に加え、拡大する。また、研究参加者の検査結果と自記式質問紙調査データを研究 ID により連結させた血清行動疫学調査を実施する。

A. 研究目的

コミュニティセンターや MSM をサポートする NGO、そして医療機関とが連携し、検査キットを活用した HIV 検査を MSM に提供し、MSM の有病割合を明らかにする。また受検者の HIV 感染ステータスと行動データをリンクさせた血清行動疫学調査を実施し、本研究が MSM の HIV 検査促進に寄与したかどうかを評価するとともに、陽性者の検査行動、リスク行動の特性を明らかにする。

B. 研究方法

指先の血液を絞り出し、ろ紙に垂らす。乾燥させたろ紙血を国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター(ACC)へ郵便で送付する。ACC ラボで HIV 一次スクリーニング検査を実施する。一次スクリーニング検査で陽性または判定保留となった検体は、国立国際医療研究センター中央検査部にて二次スクリーニング検査を実施し、両者の結果をもとに総合判定を行う。研究参加者は本研究のホームページにて検査結果照会画面にアクセスし、検査キットに付された研究 ID およびパスワードを用いてログイン後、自身の検査結果を確認する。スクリーニング検査で判定保留または陽性となった研究参加者に対して

は、「確認検査が必要です」と結果を表示し、本研究の協力医療機関へ受診するよう促す(結果画面から協力医療機関の受診予約が可能)。研究参加の同意取得は無記名で行い、DBS によるスクリーニング検査の結果参照まで無料・匿名で実施する。確認検査のために医療機関を受診した時点から一般診療(非匿名、有料)として扱う。

研究の主要評価項目

(1) HIV 検査キットを利用した MSM の HIV 感染症 有病割合

研究の副次的評価項目

- (1) 検査キット配布地域、配布場所別の HIV 感染症有病割合
- (2) 検査キット利用者のうち、過去 1 年以上 HIV 検査を受けていない MSM の割合
- (3) 検査キット利用者のうち、生涯に HIV 検査を受けたことがない MSM の割合
- (4) 検査キット配布地域、配布場所別受検者の検査行動、リスク行動
- (5) HIV 感染が判明した MSM の検査行動、リスク行動の特性

対象

以下の条件を全て満たすものを本研究の対象者とする。

- (1) 20 歳以上で、男性と性行為経験のある男性 (MSM)
- (2) 日本語または英語を理解できる者
- (3) 研究説明同意文書を読み、研究参加の意思を示した者

研究期間

倫理委員会承認後(2018年2月)～2020年3月

東京都内の保健所および公的 HIV 検査所で実施されている HIV 検査件数は年間約 20,000 件であり、そのうち MSM の受検者の割合は「エイズ予防のための戦略研究」の結果から 6.6%～12.4%と考えられる。仮に MSM 受検者の割合を 10%と推定した場合、都内の保健所等で HIV 検査を受ける MSM は年間約 2,000 件である。

本研究では、保健所および公的 HIV 検査所における年間 MSM 受検者数の約半数に相当する MSM(年間 1,500 件)に対して、本研究の検査を提供することを目標として実施する。

研究ホームページ「HIVcheck.jp」の構築

本研究は不特定多数の MSM を対象とするため、本研究に係るホームページを開設し、研究内容の周知を図る。本研究の概要、検査の流れ、検査キット受け取り方法、結果の受け取り方、検査に関する Q&A、その他支援情報等を掲載する。ホームページはスマートフォン、パソコン対応とする。サイトには下記情報を含むものとする。

- ①研究の概要(対象、研究期間、研究組織、問い合わせ先)
- ②本研究での検査キットを活用した検査の流れ
- ③検体採取の方法(動画を含む)

④HIV 検査に関する Q&A(ウィンドウピリオド、結果の解釈など)

⑤HIV 感染症に関する Q&A(早期検査の意義、陽性判明後の治療や生活など)

⑥支援情報(利用可能な電話相談、HIV 検査情報、HIV の基礎情報や陽性後判明後の治療や生活について情報提供している Web サイトの紹介)

⑦具体的な研究参加の手順と検査キット受け取りの流れ

- 参加基準に合致するかの確認
- 研究参加への同意
- 質問紙調査への協力をお願い
- 質問紙調査の結果と血液検査の結果を連結することについての同意
- 検査キットの配布
- 相談員による対面相談の提供
- 本研究に関する問い合わせ先

⑧スクリーニング検査結果照会画面

各検査キットに封入された検査カードには、検査キット固有の研究 ID と検査結果閲覧に必要なパスワードが記載されている。検査結果照会画面にこの研究 ID とパスワードを入力し、検査結果を参照できる。検査結果の表示には以下の内容が含まれる。

- 結果の解釈に関する情報
- 結果に関する問い合わせ先
- 相談窓口

⑨確認検査受診申し込み

スクリーニング検査の結果が陽性判定または判定保留となった場合は、確認検査が必要なため、結果画面に引き続き、確認検査を受けることが出来る医療機関を明示する。受検者は同 Web サイトより、受診を希望する医療機関(国立国際医療研究センター エイズ治

療・研究開発センター、東新宿こころのクリニック、都立駒込病院、琉球大学病院、東京都南新宿検査・相談室)と日時を選択する。予約確定後、当該医療機関宛の情報提供書が発行される。

ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした広報

MSMを対象にHIVの予防啓発を行っているNGOと連携し、検査キット配布地域のゲイコミュニティに対して、本研究で実施するHIV検査の内容や研究ホームページ、検査キットの配布場所を広報する。

具体的には、ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした出会い系ソーシャルネットワークサイトにおいてバナー広告を設置し、研究ホームページにリンクする。また、ゲイバーやクラブイベントにおけるチラシの配布、ゲイショップにおける折り込みチラシ、ハッテン場におけるチラシの設置など、本研究の広報を段階的に拡大する。

検査キットの配布と自記式質問紙調査の実施

研究参加希望者は、新宿やその他の地域に設置されたコミュニティセンターakta(厚生労働省の事業費で設置されているMSMのHIV予防啓発拠点)、またはゲイ向け商業施設内に設置する出張ブースに来場する。訓練を受けたコミュニティセンターのスタッフが、研究参加者の適格基準を確認する。本検査は研究として実施している検査である事、血液の採取方法、結果の受け取り方、陽性となった場合の医療機関への受診の流れ、問い合わせ先等、説明文書に沿って説明し、研究参加について同意を得る。同意を得た研究参加者に対してHIV検査キットを配布する。また同時に、自記式質問紙調査への回答協力を依頼する。自記式質問紙調査は無記名で行うが、検

査結果との連結に同意した参加者の質問紙には、検査キットに付された研究IDラベルを貼付する。

血液の採取と検査申込み

研究参加者は検査キットを自宅などに持ち帰り、検査キットに同封された検体採取の説明書を参考にして、ランセットを用いて自身の指先を穿刺し、ろ紙に血液をしみこませる。検体(血液をしみこませたろ紙)、使用済ランセットを返送用封筒に入れて、国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センターラボに送付する。なお、ランセットは、1回のみ使用できる器具で試し打ちは出来ないようになっている。針は、穿刺後自動的に格納される。受検者は検査キットに同封された検査キット固有の研究IDと仮パスワード(研究参加者自身が何度でも変更が可能である)が記載されたカードを保管する。

検査キットを持ち帰ったものの、研究参加を取りやめ、検査キットが不要になった場合は、各自が居住する自治体のルールに従って廃棄する。廃棄の方法が不明である場合は、国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センターラボに送付しても構わない。

検査の受付と HIV スクリーニング検査の実施

ACCラボにて検体を受領後、検査担当者は、検査受付(ID登録)を行い、スクリーニング検査を実施する。スクリーニング検査で陽性となった検体は、国立国際医療研究センター 中央検査部にて二次検査を実施し、HIV感染の有無を判定する。結果を検査システムに入力する。

検査結果の通知

研究参加者は、研究ホームページの検査結果照会画面より、検査カードに記載されたキ

ット固有の研究 ID、パスワードを入力してログインし、検査結果を閲覧する。

検体がラボに到着していない場合は「未到着」、結果が出ていない場合は、「検査中」と表示する。スクリーニング検査陰性の場合には「陰性」、判定保留または陽性の場合には「確認検査が必要です」と表示する。検体量が不足するなど検査ができなかった場合は、「判定不能」と表示する。

検査結果照会画面には陰性または要確認検査の意味、結果の解釈を表示する。また、HIV 検査に関する疑問や不安が生じた際の相談窓口を明示する。

確認検査の実施(研究結果の取り扱いと医療の提供)

HIV スクリーニング検査陽性または判定保留となった研究参加者に対しては、「確認検査が必要です」という結果表示に引き続き、確認検査を受けることが出来る医療機関を同研究ウェブサイト上で明示する。受診希望の医療機関を選択後、受診希望日、時間を選択する。また、同サイトから当該医療機関宛の情報提供書を発行する。

確認検査が必要となった者は、選択した日時に予約医療機関を受診する。他の医療機関または保健所での確認検査を希望する者に対しても、関係機関宛の情報提供書を発行し、受診の際には、情報提供書を持参するよう促す。

スクリーニング検査陽性または判定保留者に対する診療は一般診療であり、通常の医療機関受診と同じく、有料、実名診療となる。確認検査にて陽性が確定した場合には、各医療機関で告知を行い、必要に応じて専門医療機関を紹介する。感染症法に基づく発生届の作成と提出は、確認検査実施施設にて行う。

支援情報の提供

研究ホームページには、検査・相談・医療に関する情報サイトをリンクし、支援環境の周知に留意する。本研究の実施に関する相談窓口、検査や検査結果受領後の不安に関する相談窓口を明記する。

本研究で用いる検査

HIV スクリーニング検査キットの内容：
検査説明書、検査カード(ID/パスワード控え、支援情報等)、返信用封筒、穿刺血採取キット(ランセット、消毒綿、絆創膏、ろ紙)

HIV 検査の流れと判定基準

HIV 検査手順は、米国 CDC が推奨する HIV 検査手順 (2014 年 6 月 27 日改訂)4) に準じ、第四世代の HIV-1/2 スクリーニングを行い、その後、別の検査試薬を用いて HIV 感染の有無を判定する。

- ①ろ紙にしみこんだ乾燥血液をパンチで打ち抜き、リン酸バッファー液(PBS) 600 μ L にて溶出。
- ②この溶出液 200 μ L を検体として富士レビオ社のルミパルスOR HIV Ag/Ab キット(第 4 世代キット)を用いて HIV-1 および HIV-2 のスクリーニング検査を行う。
- ③陰性の場合には、この段階で陰性の判定。
- ④陽性の場合には、国立国際医療研究センター中央検査部にてシスメック社のヒスクル HIVAg/Ab(第 4 世代検査キット)を用いて二次検査を行い、最終判定する。判定保留例と陽性例は、研究ホームページ上で「確認検査が必要です」と表示する。
- ⑤検体量が不十分、もしくは何らかの理由で検査が出来なかった場合には、もう一度自己穿刺血の再送を促す。

HIV スクリーニング検査の結果表示に対する説明

①陰性:今回の検査では HIV 感染は認められませんでした。HIV 陰性と判定いたします。なお、今後も年 2 回の検査をお勧めいたします。

②確認検査が必要です:より精密な検査(確認検査)が必要です。下記提携医療機関では、精密検査(確認検査)を実施しています。いずれかの医療機関を選択し、確認検査予約画面に進んで下さい。医療機関を受診する際には、予約確定後に表示される情報提供書を印刷して持参して下さい。当日は保険証をご持参ください。他の医療機関または保健所での検査をご希望の場合も、情報提供書を印刷して持参することをお勧めします。

③判定不能:今回送っていただいた血液では、量が不十分、もしくは何らかの理由で検査ができませんでした。再度検査キットを受け取り、検査していただきますようお願いいたします。

倫理面への配慮

本研究については、名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会により実施の承認を得ている(2017年12月12日承認、ID番号17017-3)。あわせて、国立研究開発法人国立国際医療研究センター倫理委員会により実施の承認を得ている(2018年2月9日承認、承認番号NCGM-G-002463-00)。

また本研究計画は対象者リクルート前に UMIN に登録し、公開を行っている(UMIN 試験 ID:UMIN000031460、受付番号:R000035885、試験名:MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究「自己検査キットによる検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施」)。

①検査キットを受け取りに来場した者(研究参加希望者)に対して、十分な訓練を受けたコミュニティセンターのスタッフが、説明同意文書の内容に沿って本研究の説明を行う。検査結果と自記式質問紙の回答内容との連結については、研究参加者の任意とし、拒否する場合も本研究の検査の参加を妨げない。研究参加希望者は、自由意思に基づき研究参加の意思を決定する。説明同意文書末尾に設けられた同意欄にチェックが入った場合、研究参加の同意が得られたものとする。本研究は匿名で実施することから、署名は不要とする。説明同意文書の原本は名古屋市立大学が保管し、控えを研究参加者に手渡す。

日本語は読めないが、英語で理解が可能な外国籍の MSM に対しては、英語の説明同意文書を用いて、研究参加者の求めに応じて英語で口頭にて説明し、研究参加の意思を確認する。そのため、検査キット配布会場に英語が話せるスタッフを配置する。検査キットの使い方説明書は日本語と英語で準備し、結果参照画面は日本語と英語の併記でホームページを作成する。

②プライバシーの保護と研究参加者の識別

研究参加の同意から検査キットの配布、検査結果の通知まですべて匿名で実施する。そのため、対応表は存在しない。検査結果は検査キットに付された研究 ID で管理され、受検者は研究 ID とパスワードで結果の閲覧を行う。

研究参加者に対する自記式質問紙調査では、性的指向や年齢、居住地域を収集するが、名前や住所、連絡先など個人を特定できる情報は収集しない。研究で収集したデータはすべて研究 ID で管理する。研究で収集したデータを取扱うのは本研究に参加する研究者のみとし、本研究以外の目的には使用しない。研究者は、データの取扱いに十分注意

し、研究代表者および研究協力者は適切な取扱いがなされるよう必要な対応を行う。

なお、本研究のホームページにアクセスした人の IP アドレスは研究終了後適切に削除する。

③収集データおよび試料の保管と廃棄

本研究の参加同意書および自記式質問紙の原本、本研究で収集したデータは、研究終了の報告後少なくとも5年間は名古屋市立大学看護学部で保管する。廃棄する場合は、印刷資料、電子媒体データなど、いずれの資料も物理的に内容の読み取りが不可能な状態にした後で廃棄する。書き換え不可能な電子媒体のデータは、読み取り不可能な状態まで物理的に破壊した上で適切に廃棄する。書き換え可能な電子媒体のデータは、読み取り不可能な状態まで物理的に電子媒体を破壊して廃棄するか、ダミーデータを複数回上書きして、元のデータを復元不可能な状態にする。

研究参加者から受領したろ紙の残血液は、研究終了の報告後少なくとも5年間は国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センターラボにて保管する。保管期限を過ぎたろ紙を廃棄する場合は、通常の血液検体と同様の方法で廃棄する。溶出液は検査後感染性廃棄物として廃棄する。検体を本研究以外の目的に使用することはない。

④研究参加者からの相談等への対応

本研究に係る問い合わせ先および研究代表者の情報を研究ホームページ、説明同意文書、検査キットに明記し、研究参加者などからの相談に対応する。

C. 研究結果

1. 検査キットの配布および相談支援

平成30年2月26日より、毎週月曜日の19-22時まで、コミュニティセンターaktaの場で検査キットの配布を行った。配布時に、ふれいす東京の専門相談員が同時間、コミュニ

ティセンターaktaに控えている。相談を希望する研究参加者には相談員を紹介し、相談支援を行っている。

コミュニティセンターaktaでの通常の配布は、平成31年4月1日から令和2年12月23日までに、39回実施した。検査キットの配布数は948個で、相談は235件だった。なお今年度実施した、クラブイベントでの配布1回、コミュニティセンターmabuiでの配布1回の合計は、検査キットの配布数が49個、相談が21件だった。そのため、今年度の総計は検査キットの配布数が997個、相談が249件だった。研究開始からの総数は配布数が2087件、相談数が490件となった。

2. スクリーニング検査の検体受付と検査の実施

HIVcheck.jpでは、研究参加者が自宅等で採血をし、検査キットの中にある返送用封筒を使用して、国立国際医療研究センターACCのラボに郵送を行う。ラボに届いた検体は順次検査を実施し、平均で到着後2~3日の間には、研究参加者に検査結果を戻している。

平成31年4月から令和2年3月末までの総数での検体の回収数は909個であり、研究開始より1756検体を回収した。そのため、検査キットの回収割合は84.1%となった。なお、コミュニティセンターakta以外での配布基点について紙幅の関係上、今年度は分けての報告は行わないが、ろ紙にマークを付すなどして区別が可能となるようにしている。

今年度のスクリーニング陽性の件数は25件であり、前年度と合わせると合計45件となった。暫定陽性割合は2.56%だった(ただし、すでにこの研究期間にHIVcheck.jp自体を定期的に利用している研究参加者が含まれるため、陽性割合の検討には更なるデータ分析が必要とされる)。今年度回収した検体のうち、検査を実施できなかったものは1件だった。

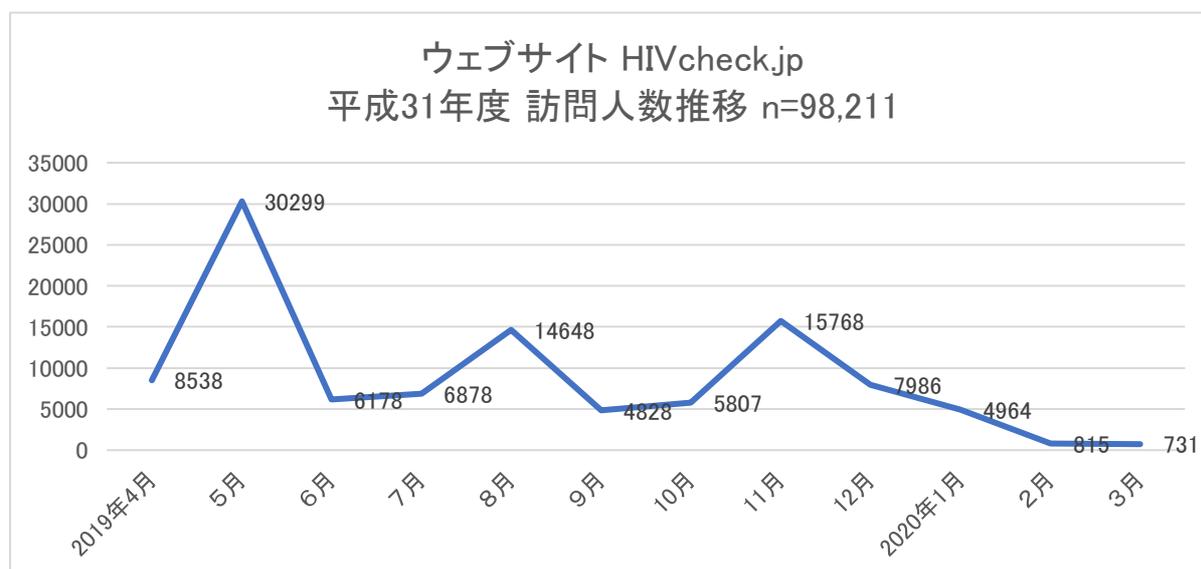
ろ紙に着けられた血液量が極度に足りないもの、また返送時に消毒綿とろ紙を一緒に回収用の袋に入れてしまい、血液がろ紙に拡散してしまっただけのものがあった。

3. 研究ホームページ「HIVcheck.jp」の運営とゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした広報・啓発

HIVcheck.jpの広報・啓発はコミュニティセンターaktaの啓発機能を活用し、新宿二丁目や首都圏にあるゲイ向け商業施設へ啓発資材の配布を行ったり、ゲイ・バイセクシュアル男性の間で特に活用されているGPS機能付き出会い系アプリ、ウェブサイト、また全国紙であるゲイ雑誌と連携して広報を実施した。HIVcheck.jpの大規模キャンペーンは、今年度、令和元年5月と8月、11月に実施した。それぞれキャンペーンテーマを設定し、「はじめてでもひさしぶりでも」、「令和の夏、新宿二丁目」、「HIVcheckは12月23日(月)ファイナル!」とした。5月に実施したキャンペーンテーマでは、HIVcheckの受検者アンケートの分析から、陽性になる人たちの傾向として生涯初受検のみではなく、既受検の者でも前回の受検から期間が空いている者が多い傾向から、こうしたメッセージを展開した。

平成31年度のウェブサイト「HIVcheck.jp」のユーザー数について、98,211人となった。なお分析には、google analyticsを用いた。キャンペーンを実施した5月、8月、11月には、顕著にアクセス数が伸びている。また、使用しているデバイスは、スマートフォンが93.5%、PCが4.1%、タブレットが2.4%と、スマートフォンに注力した啓発、ウェブ施策が必要ことがわかった。ユーザーがアクセスする際の地域でみると、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県で59.2%だった。一方で、大阪府(16.3%)、愛知県(4.6%)からのアクセスもみられた。

HIVcheck.jpのコンテンツでは、「よくある質問集」が最も多くみられており、「検査キットをすぐに受け取りたい」、「サポート情報」がそれに続いた。今年度はウェブ上での支援情報の追加を図った。スクリーニング陽性という結果を受け取り、HIV感染症の初診までの流れを伝える、ウェブムービーの公開をした。また、増える外国語話者の利用者を念頭に、日本語と英語を用いて、コミュニティセンターaktaにどのように検査キットを取りに行き、どんな流れで検査キットを渡され、採血に至るかを説明したウェブムービーも作成した。



4. 自記式質問紙調査の実施（資料2）

HIVcheck.jpでは、検査キット配布時に研究参加同意書とともに5分間程度のアンケートの記入を研究参加者に依頼している。また、同意書にて同意した参加者にのみ、検査のIDが掲載しているバーコードシールを質問紙に貼り、血清疫学調査を実施している。本報告での分析対象者は、研究開始(2018年2月)から2020年3月末日までに検査キットを受け取った者に限定した(なお複数回利用者は初回データに限定して分析を行っている)。分析対象となった回答者数は、1,176件であった。20歳代が500件(42.5%)、30歳代が390件(33.2%)、40歳以上が286件(24.3%)だった。以下では検査経験別にみていく。

検査キットを受け取ってから検査ラボに検体を送付は1756件で、82%がラボに検体を送付していた。国籍については、全体で116件(9.8%)が日本国籍以外の者だった。居住地は、全体で東京都が813件(69.1%)、神奈川県が132件(11.2%)、埼玉県が101件(8.6%)、千葉県が64件(5.4%)だった。

コミュニティセンターaktaの認知については、全体で「来たことがある」が394件(33.5%)、「知っていたが、来たことがなかった」が464件(39.5%)、「今まで知らなかった」が318件(27.0%)だった。「今まで知らなかった」について受検経験別にみると、生涯受検経験ありが21.5%、受検経験なしが43.8%だった。

HIVcheckを受けるきっかけ(複数回答)は、全体で「定期検査として」が68.5%と最も多く、「リスク行為があった」28.7%、「友人知人の勧め」14.1%、「新しいパートナーができた」13.2%と続いた。受検経験別にみると、「友人知人の勧め」は、生涯受検経験ありが11.0%、受検経験なしが23.6%だった。「体調不良があった」は、生涯受検経験ありが2.8%、受検経験なしが6.2%だった。

保健所や検査所、クリニックなど既存の検査施設ではなく、HIVcheckを選んだ理由(複数回答)は、「自分の都合の良い時に受けられる」が77.0%と最も多く、「検査場所に行かなくてよい」が49.1%、「ゲイに理解のある相談員がいる」が18.5%、「信用できそう」が17.9%、「コミュニティセンターaktaでやっている検査だから」が15.1%、「人と会う回数が少ない」が14.4%、「aktaでやっている検査だから」が13.8%と続いた。受検経験別にみると、「場所を選ばない」が生涯受検経験ありが52.4%、受検経験なしが39.4%だった。「自分の都合の良い時に受けられる」は生涯受検経験ありが79.5%、受検経験なしが69.5%だった。一方で、「検査やHIVについて相談できる」は生涯受検経験ありが5.2%、受検経験なしが9.2%だった。「信頼できそう」は生涯受検経験ありが16.4%、受検経験なしが22.6%だった。

一番最近HIV検査を受けた場所では、「保健所・保健センター」が45.6%と最も多く、「病院・診療所・クリニック」が19.4%、「南新宿検査・相談室」が13.1%、「HIVcheck.jp」が11.0%と続いた。なお、市販の郵送検査については4.8%だった。

5. 沖縄地域でのHIVcheckの試行

コミュニティセンターakta以外のコミュニティセンターにて、HIVcheck.jpを実施できるかのフィージビリティを測る試行を、令和2年1月10日(金)に沖縄県那覇市にあるコミュニティセンターmabuiで実施した。

実施にあたり、琉球大学医学部およびnankr沖縄/コミュニティセンターmabuiと検討を重ね、沖縄地域に合った形式での実施計画を練った。なお沖縄地域でスクリーニング陽性という結果を受け取った場合は、琉球大学医学部附属病院が確認検査の受け入れ機関となった。

前年度の試行をふまえ、ゲイバーなどコミュ

ニティに人の集まりやすい金曜日の夜に時間を設定し、時間の設定を深夜まで広げて展開した。事前の検査の予約制も導入した。また、検査広報のビジュアルについて、mabui のメンバーが主体的に企画・デザインを行った。

同日 1 月 10 日にはコミュニティセンター mabui にて、沖縄県における保健所等 HIV 検査従事者を対象とした研修会を共催し、その場で HIVcheck.jp について報告を行っている。

コミュニティセンター mabui での検査キット配布は、2020 年 1 月 10 日(金)の 19 時~24 時に実施した。検査キットの受け取りは 33 名、相談利用は 14 名だった。20 歳~50 歳代の幅広い層が受け取った。

6. コミュニティセンター以外での HIVcheck の試行

コミュニティセンター akta には HIV 検査を受け取りに来られない人、また、たまたまそのベニューにいた人で HIV 検査受検を希望する人を対象に配布をできる場所の検討と試行を実施した。

前年度に実施したハッテン場での展開をふまえ、別の店舗のオーナーとの協議を進めた。オーナーからはスポット的に配布スタッフが来て配布するよりも、恒常的にハッテン場で手に入れられるサービスとしての検査の構想を求められた。そのため、今年度は他のベニューを企画することとした。

なお、ハッテン場での恒常的な検査機会の提供については、2019 年 9 月に、英国ブライトンで行われている、自動販売機を用いた検査キット配布の取り組みの視察と意見交換を行い、日本での試行について計画を行った。

今年度は、ゲイ向けクラブイベントでの検査キットの配布を実施した。2019 年 10 月 13 日(日)に計画をしていたが、台風 19 号の影響でイベント自体がキャンセルとなった。翌日に当該のクラブイベントのオーガナイザーの好意

により、別イベントでの検査キットを配布した。検査キットの受け取りは 16 名だった。

D. 考察

我が国の MSM において、エイズ施策の指標であるケア・カスケードの第一段階である、HIV に感染している者の 90%が感染ステータスを知る状況には達していない。また、MSM に対して HIV 検査の定期的な受検勧奨が、現場レベルで地道な実践がなされているものの、他国のように政策的に根拠をもったかたちで行われていない。更なる検査の促進が必要とされる。

本研究では、保健所等公的機関など、既存の施設での HIV 検査以外の検査手法、すなわちコミュニティベースの Dried Blood Spots (DBS) 法を用いた HIV 検査を提供する。さらに、コミュニティセンターを基点とした検査キットの配布が、地域に居住する MSM の受検促進に有効な手法になり得るかを明らかにしている。また、検査キットを用いた検査であることから持つ、HIVcheck のモビリティの高さを活かし、akta 以外の地域、特に地方のコミュニティセンターや、セックスの現場に近いハッテン場、またクラブイベント等の MSM の利用するベニューでの検査機会の提供を試行することができる。

そして、本研究では検査キットを配布した地域・ベニューにより、MSM の HIV 有病割合が異なるのかを評価することができる。さらに、検査キット配布時に行う、自記式質問紙調査の回答内容と、感染ステータスをリンクさせた、血清疫学調査を実施することにより、配布地域、ベニューによる MSM の検査行動やリスク行動に違いがあるのかだけではなく、HIV スクリーニング陽性 MSM の検査行動、リスク行動の特性を検討し、明らかにすることができる。

E. 結論

平成 30 年 2 月 26 日より、毎週月曜日の 19

- 22時まで、コミュニティセンターakta の場で検査キットの配布を行い、平成30年2月26日から令和2年12月23日までに、97回実施した(沖縄mabuiが2回、ハッテン場が2回、クラブイベントが1回)。検査キットの配布数は2087個で、相談は490件だった。

検査ラボにおける、平成30年2月から令和2年3月末までの総数での検体の回収数は1756個であり、今年度の検査キットの回収割合は84.1%となった。また同期間のスクリーニング陽性の件数は45件であり、暫定陽性割合は2.56%だった。

HIVcheck.jpの広報・啓発はコミュニティセンターaktaの啓発機能を活用し、新宿二丁目や首都圏にあるゲイ向け商業施設へ啓発資材の配布を行ったり、ゲイ・バイセクシュアル男性の間で特に活用されているGPS機能付き出会い系アプリ、ウェブサイト、また全国紙であるゲイ雑誌と連携して広報を実施した。HIVcheck.jpの大規模キャンペーンは令和元年5月、7月、11月に実施した。それぞれキャンペーンテーマを設定し、「はじめてでもひさしぶりでも」、「令和の夏、新宿二丁目」、「HIVcheckは12月23日(月)ファイナル!」とした。

平成31年度のウェブサイト「HIVcheck.jp」のユーザー数について、98,211人となった。キャンペーンを実施した5月と7月、11月には、顕著にアクセス数が伸びていた。ユーザーがアクセスする際の地域で見ると、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県で60%程度だった。HIVcheck.jpのコンテンツでは、「よくある質問集」が最も多くみられており、「サポート情報」がそれに続いた。

今年度は、ウェブ上での支援情報の追加を図った。スクリーニング陽性という結果を受け取り、HIV感染症の初診までの流れを伝える、ウェブムービーの公開をした。また、増える外国語話者の利用者を念頭に、日本語と英語を用い

て、コミュニティセンターaktaにどのように検査キットを取りに行き、どんな流れで検査キットを渡され、採血に至るかを説明したウェブムービーの企画、撮影を実施した。

検査キット配布時に研究参加同意書とともに5分間程度のアンケートの記入を研究参加者に依頼しており、同意書にて同意した参加者にのみ、検査のIDが掲載しているバーコードシールを質問紙に貼り、血清疫学調査を実施した。本報告での分析対象者は、1,176件であった。20歳代が500件(42.5%)、30歳代が390件(33.2%)、40歳以上が286件(24.3%)だった。国籍については、全体で116件(9.8%)が日本国籍以外の者だった。今後更なる分析を進めていく。

今年度は、沖縄県にあるコミュニティセンターmabuiにて、地域の医療機関、行政、そしてNGOやコミュニティと連携して配布会を実施した。またハッテン場でのHIVcheckを検討し、クラブイベントでの配布を1回実施した。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 岩橋恒太: 公衆衛生上の脅威としてのエイズの終結を、本気で目指す—新宿二丁目のコミュニティセンターaktaの立場から. 公衆衛生, 2020, 84(2)
- 2) 岩橋恒太: HIV予防におけるPrEPとは何か—日本のコミュニティへの導入の課題について考える. 日本HIV陽性者ネットワークジャンププラスニュースレター, 2020, 3月号

2. 学会発表(国内)

- 1) ○岩橋恒太: NGOの視点からみた新しい確認検査法への期待—コミュニティセンターaktaでのHIVcheck.jpの経験から. シンポジウム2、第33回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

- 2) 本間隆之、岩橋恒太、生島 嗣、貞升健志、長島真美、市川誠一、今村顕史：MSM に向けた HIV 検査相談会「快速あんしん検査上野駅」3年間の取り組み. 第33回日本エイズ学会学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 3) ○金子典代、太田 貴、荒木 順、岩橋恒太、石田敏彦、宮田りりい、塩野徳史、玉城祐貴：コミュニティセンター来場者におけるセンターでの情報入手や相談経験、HIV 検査行動、新しい知識の浸透. 第33回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 4) ○岩橋恒太、金子典代、高野 操、岡 慎一、本間隆之、健山正男、玉城祐貴、市川誠一、荒木 順、木南拓也、生島 嗣、佐藤郁夫、福原寿弥、林田庸総、中山保世、小日向弘雄、今村顕史：MSM を対象とした郵送検査キット用いた HIV 検査「HIVcheck.jp」のベニューの拡大の試行. 第33回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 5) ○林田庸総、柏木恵莉、土屋亮人、高野 操、青木孝弘、湯永博之、菊池 嘉、岩橋恒太、金子典代、岡 慎一：乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 郵送検査の性質についての検討. 第33回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 6) 佐野貴子、近藤真規子、土屋菜歩、須藤弘二、星野慎二、井戸田一朗、清水茂徳、生島嗣、岩橋恒太、今井光信、加藤眞吾、市川誠一、白阪琢磨、今村顕史：ウェブサイト「HIV 検査・相談マップ」を用いた HIV 検査相談情報の提供とサイト利用状況の解析. 第33回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 7) 岩橋恒太、金子典代、荒木 順、木南拓也、鈴木敦大、堅多敦子、今村顕史：MSM を対象とする、2018年のA型肝炎の拡大の注意喚起に関する効果評価調査. 第33回日本エイズ

学会学術集会・総会、熊本、2019.

- 8) 今村顕史、堅多敦子、岩橋恒太、荒木 順、金子典代、生島 嗣、西浦 博、齋藤涼平：MSM における A 型肝炎流行への対策と効果についての検討. 第33回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

3. 学会発表 (国外)

- 1) ○Kota Iwahashi, Noriyo Kaneko, Misao Takano, Shinichi Oka, Takayuki Honma, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa, Jun Araki, Takuya Kinami, Yuzuru Ikushima, Ikuo Sato, Toshiya Fukuhara, Tsunefusa Hayashida, Nakayama Yasuyo, Hiroo Obinata, Akifumi Imamura: Dry Blood Spot-Based HIV Testing ‘HIVcheck.jp’ is a New Testing Opportunity for Men who have Sex with Men in Tokyo, Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.
- 2) Kinami T, Fujiwara K, Suzuki A, Abe J, Araki J, Iwahashi K, Kaneko N, Honma T: The Outreach Programme “Delivery Health Project” as the Best Practice of HIV Prevention for MSM in Tokyo Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

資料 1

平成 31 年度 HIVcheck. jp 研究行程表

※毎週月曜日 19～22 時、community center akta での検査キットの配布を継続

4 月

東京レインボープライドパレードでの HIVcheck の広報の実施

5 月

HIVcheck 認知向上キャンペーン④実施

YouTube「HIV 診療を受けるまで

HIVcheck シミュレーション・ムービー」

公開

6 月

ハッテン場オーナーとの意見交換開始

7 月

クラブイベントオーガナイザーとのミーティング開始

HIVcheck 認知向上キャンペーン⑤実施

8 月

新宿二丁目祭りでの HIVcheck の広報の実施

9 月

Fast Track Cities in London での口演
英国で行われている、自販機での HIV 検査キットのアウトリーチの見学

南新宿検査相談室 協力施設として参加開始

10 月

クラブイベントでの HIVcheck 台風 19 号の影響で中止。翌日、小規模に配布。

ガイダンスに iPad 活用を導入

11 月

YouTube「【Guide of getting HIV testing kit】HIV check シミュレーション・ムービー MR GAY JAPAN Shogo さんが解説！」公開

日本エイズ学会口演

HIVcheck 認知向上キャンペーン⑥実施

12 月

akta での HIVcheck キット配布終了

(12/23)

1 月

平成 31 年度 沖縄県における保健所の HIV 検査従事者等関係者のためのエイズ専門研修会共催(コミュニティセンター mabui)

HIVcheck. jp in 沖縄(コミュニティセンター mabui)

ACC での検体受付、1 月末日で終了

2 月

研究班班会議

3 月

ウェブサイト HIVcheck. jp、3 月末日で閉鎖

資料2 受検者アンケート集計（1）

検体送付者のHIV検査の経験別の対象者の属性（複数回利用者は初回データのみを使用）									
		ない N=292		ある N=884		全体 N=1176		有意差	
Q1_年齢									
20歳代		181	62.0%	319	36.1%	500	42.5%	0.000	
30歳代		62	21.2%	328	37.1%	390	33.2%		
40歳以降		49	16.8%	237	26.8%	286	24.3%		
Q2_あなたはどれにあてはまりますか？									
ゲイ		205	70.2%	764	86.6%	969	82.5%	0.000	
バイセクシュアル		79	27.1%	115	13.0%	194	16.5%		
その他		8	2.7%	2	0.2%	10	0.9%		
Q3_あなたの国籍は？									
日本		259	88.7%	801	90.6%	1060	90.1%	0.356	
その他		33	11.3%	83	9.4%	116	9.9%		
Q4_あなたのお住まいは？									
東京都		176	60.3%	637	72.1%	813	69.1%	0.004	
神奈川県		43	14.7%	89	10.1%	132	11.2%		
埼玉県		32	11.0%	69	7.8%	101	8.6%		
千葉県		23	7.9%	41	4.6%	64	5.4%		
その他		18	6.2%	48	5.4%	66	5.6%		
Q5_あなたの現在の職業でもっとも近いのは？									
正規雇用		168	57.5%	613	69.4%	781	66.5%	0.000	
非正規雇用（パート・アルバイト・ 自由業・自営業・経営		43	14.7%	101	11.4%	144	12.3%		
学生		56	19.2%	64	7.2%	120	10.2%		
働いていない		6	2.1%	11	1.2%	17	1.4%		
その他		3	1.0%	5	0.6%	8	0.7%		
Q6_過去6か月間に、次のゲイタウンを利用しましたか？									
いずれもない		76	26.0%	173	19.6%	249	21.2%	0.021	
新宿二丁目		189	64.7%	657	74.3%	846	71.9%	0.002	
上野浅草		43	14.7%	172	19.5%	215	18.3%	0.080	
渋谷		24	8.2%	58	6.6%	82	7.0%	0.354	
新橋		32	11.0%	176	19.9%	208	17.7%	0.001	
横浜		12	4.1%	36	4.1%	48	4.1%	1.000	
その他		14	4.8%	36	4.1%	50	4.3%	0.616	
Q7_過去6か月の間に、日本で利用した商業施設は？									
どれも利用していない		28	9.6%	45	5.1%	73	6.2%	0.008	
ゲイバー		147	50.3%	580	65.6%	727	61.8%	0.000	
クラブ		58	19.9%	264	29.9%	322	27.4%	0.001	
有料ハッテン場		122	41.8%	434	49.1%	556	47.3%	0.031	
野外ハッテン場		9	3.1%	52	5.9%	61	5.2%	0.068	
出会い系ウェブ		34	11.6%	164	18.6%	198	16.8%	0.007	
出会い系スマホアプリ		187	64.0%	590	66.7%	777	66.1%	0.433	

受検者アンケート集計 (2)

	ない N=292	ある N=884	全体 N=1176	有意差
Q8_今回を除き、あなたはこれまで「コミュニティセンターakta」に来たことがありますか?				
来たことがある	42 14.4%	352 39.8%	394 33.5%	0.000
aktaを知っていたが、来たことがな	122 41.8%	342 38.7%	464 39.5%	
今まで知らなかった	128 43.8%	190 21.5%	318 27.0%	
Q9_今回を除き、2018年2月以降、「HIVcheck.jp」を利用したことがありますか?				
今回が初めて	292 100.0%	863 98.0%	1155 98.4%	0.000
受け取ったが、郵送せず	0 0.0%	18 2.0%	18 1.5%	
Q10_「HIVcheck.jp」をどこで知りましたか?				
ゲイバー	24 8.2%	83 9.4%	107 9.1%	0.561
有料ハッテン場	8 2.7%	27 3.1%	35 3.0%	0.846
akta	32 11.0%	102 11.5%	134 11.4%	0.832
出会い系スマホアプリ	132 45.2%	446 50.5%	578 49.1%	0.121
知り合い	55 18.8%	167 18.9%	222 18.9%	1.000
Facebook/twitter	62 21.2%	148 16.7%	210 17.9%	0.094
その他	24 8.2%	68 7.7%	92 7.8%	0.802
Q11_今回、HIVcheckを受けるきっかけは何ですか?				
定期検査として	146 50.0%	660 74.7%	806 68.5%	0.000
新しいパートナーができた	47 16.1%	108 12.2%	155 13.2%	0.091
リスク行為があった	91 31.2%	247 27.9%	338 28.7%	0.297
STIにり患した	4 1.4%	8 0.9%	12 1.0%	0.506
体調不良があった	18 6.2%	25 2.8%	43 3.7%	0.012
HIV陽性者と性交渉をした	1 0.3%	21 2.4%	22 1.9%	0.042
友達知人の勧め	69 23.6%	97 11.0%	166 14.1%	0.000
周囲の人の感染が判明した	9 3.1%	24 2.7%	33 2.8%	0.838
Q12_今回、保健所や検査所、クリニックではなく「HIVcheck.jp」を選んだ理由は?				
自分の都合の良い時に受けれる	203 69.5%	703 79.5%	906 77.0%	0.001
場所を選ばない	115 39.4%	463 52.4%	578 49.1%	0.000
人と会う回数が少ない	51 17.5%	118 13.3%	169 14.4%	0.084
検査やHIVについて相談できる	27 9.2%	46 5.2%	73 6.2%	0.017
ゲイに理解のある相談員がいる	59 20.2%	158 17.9%	217 18.5%	0.385
陽性の時相談できる場所が明確	19 6.5%	53 6.0%	72 6.1%	0.778
信用できそう	66 22.6%	145 16.4%	211 17.9%	0.018
aktaでやっている検査だから	28 9.6%	134 15.2%	162 13.8%	0.018
陽性の時かかる医療機関が明確	14 4.8%	39 4.4%	53 4.5%	0.871
友達や知人の勧め	51 17.5%	114 12.9%	165 14.0%	0.053
Q13_自分のセクシュアリティについて、カミングアウトした人は何人くらいいますか?				
いない	83 28.6%	206 23.3%	289 24.6%	0.003
1人	34 11.7%	69 7.8%	103 8.8%	
2～5人	88 30.3%	263 29.8%	351 29.9%	
6人以上	84 29.0%	345 39.1%	429 36.6%	

受検者アンケート集計 (3)

	ない N=292		ある N=884		全体 N=1176		有意差
Q14_ これまでに男性とセックスをしたことがありますか?							
ない	8	2.7%	7	0.8%	15	1.3%	0.016
ある	284	97.3%	877	99.2%	1161	98.7%	
Q15_ 過去6か月間に男性とアナルセックスをしましたか?							
しなかった	55	18.8%	98	11.1%	153	13.0%	0.000
した	234	80.1%	783	88.8%	1017	86.6%	
Q16_ 過去6か月間に男性とのアナルセックスでコンドームをどのくらい使いましたか?							
過去6か月アナルセックスはしなかった	2	0.9%	7	0.9%	9	0.9%	0.450
コンドームを必ず使った	88	37.4%	270	34.1%	358	34.9%	
使うことが多かった	102	43.4%	325	41.1%	427	41.6%	
使わないことが多かった	28	11.9%	133	16.8%	161	15.7%	
使わなかった	15	6.4%	56	7.1%	71	6.9%	
Q17_ 過去6か月間のセックスでの併用品							
いずれも使用無し	195	80.2%	607	75.1%	802	76.3%	0.103
ぼっき薬 (バイアグラなど)	33	13.6%	157	19.4%	190	18.1%	0.046
ラッシュ	7	2.9%	24	3.0%	31	2.9%	1.000
5MEO-DIPT (ゴメオ、フォクシー)	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%	1.000
スピード・エクスタシー (MDMA)	1	0.4%	2	0.2%	3	0.3%	1.000
上記以外のセックスドラッグ (合ドラ)	1	0.4%	1	0.1%	2	0.2%	0.409
静脈注射のドラッグ	3	1.2%	3	0.4%	6	0.6%	0.140
マリファナ・コカイン	1	0.4%	3	0.4%	4	0.4%	1.000
Q18_ 過去6か月間に、相手からお金をもらって セックスをしたことがありますか?							
ない	265	95.0%	854	97.7%	1119	97.1%	0.025
ある	14	5.0%	20	2.3%	34	2.9%	
Q19_ これまでにHIV検査を受けたいと思ったことがありますか?							
ない	36	12.5%	6	0.7%	42	3.6%	0.000
ある	252	87.5%	868	99.3%	1120	96.4%	
Q22_ 一番最近に受けたHIV検査の種類 (場所) はどれですか? (検査経験者のみ)							
保健所・保健センター	2	11.8%	399	45.2%	401	44.6%	0.000
病院、診療所、クリニック	0	0.0%	175	19.8%	175	19.4%	
手術前・入院時の検査	1	5.9%	10	1.1%	11	1.2%	
南新宿検査・相談室	0	0.0%	118	13.4%	118	13.1%	
HIVcheck.jp	9	52.9%	90	10.2%	99	11.0%	
郵送検査	0	0.0%	43	4.9%	43	4.8%	
イベントHIV検査会	0	0.0%	20	2.3%	20	2.2%	
その他	5	29.4%	28	3.2%	33	3.7%	
Q23_ 一番最近に受けたHIV検査の結果は知っていますか?							
結果を聞いた	6	60.0%	877	99.4%	883	99.0%	0.000
結果を聞かなかった	4	40.0%	5	0.6%	9	1.0%	

受検者アンケート集計 (4)

	ない N=292		ある N=884		全体 N=1176		有意差
Q24_あなたはHIV検査を定期的に受けていますか?							
6か月またはそれより短いペースで受	0	0.0%	174	19.7%	174	17.3%	0.000
おおよそ1年に一度のペースで受けてい	4	3.3%	232	26.2%	236	23.5%	
特にペースは決めていない	118	96.7%	478	54.1%	596	59.2%	
Q25_これまでに次の性感染症にかかったことがありますか?							
どれもなし	242	83.2%	601	68.1%	843	71.8%	0.000
梅毒	5	1.7%	91	10.3%	96	8.2%	0.000
A型肝炎	2	0.7%	14	1.6%	16	1.4%	0.383
B型肝炎	3	1.0%	54	6.1%	57	4.9%	0.000
C型肝炎	1	0.3%	4	0.5%	5	0.4%	1.000
淋病	8	2.7%	74	8.4%	82	7.0%	0.001
クラミジア	12	4.1%	107	12.1%	119	10.1%	0.000
HIV感染症	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%	1.000
その他	11	3.8%	31	3.5%	42	3.6%	0.856
Q26_過去1年間に次の性感染症にかかったことがありますか?							
どれもなし	263	90.7%	811	91.8%	1074	91.6%	0.544
梅毒	2	0.7%	19	2.2%	21	1.8%	0.128
A型肝炎	1	0.3%	6	0.7%	7	0.6%	0.689
B型肝炎	0	0.0%	5	0.6%	5	0.4%	0.341
C型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
淋病	3	1.0%	16	1.8%	19	1.6%	0.436
クラミジア	4	1.4%	20	2.3%	24	2.0%	0.476
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
その他	7	2.4%	6	0.7%	13	1.1%	0.022
Q27_自分が今HIV陽性である可能性はどの程度だと考えていますか?							
高いと思う	4	1.4%	10	1.1%	14	1.2%	0.047
五分五分くらいだと思う	25	8.7%	70	7.9%	95	8.1%	
低いと思う	153	52.9%	550	62.2%	703	59.9%	
わからない	107	37.0%	251	28.4%	358	30.5%	
すでにHIV陽性の診断を受けている	0	0.0%	3	0.3%	3	0.3%	

地方における新たな検査機会の開発

-医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善-

研究分担者：健山正男（琉球大学大学院医学研究科 准教授）
研究協力者：宮城京子、前田サオリ（琉球大学医学部附属病院看護部）、
仲村秀太（琉球大学大学院医学研究科）

研究要旨

研究者は、平成 26 年度～平成 28 年度の当研究者が実施した先行研究の検討から男性同性間感染者（Men who have sex with men：MSM）における HIV 陽性者は、MSM コントロール群に比して下記の特徴があると下記の仮説を提唱した。令和元年度は下記の帰無仮説を検証した。

仮説 1：「医療側が HIV 急性感染期に受診している患者に HIV 検査を誘導できている」

仮説 2：「医療側が性感染症の診療時に適切に HIV 検査を勧奨できている」

対象者：2015 年以降に HIV 陽性が新規に判明し琉球大学に通院している MSM 患者。

結果：対象患者の 60 名に対して、46 名（76.7%）に調査用紙を配布し、30 名が回答した（回収率 65.2%）。

30 名中急性感染症状を記憶し、医療機関を受診した 17 名（56.7%）中、13 名（86.7%）が HIV 検査に誘導されていなかった。性行為感染症（Sexually Transmitted Infections：STI）では 30 名中 20 名（66.7%）が罹患時には受診していたが、12 名（60%）は医療者より HIV 検査を勧められていなかった。仮説 1 は棄却された（pearson $p=0.001$ ）。仮説 2 は棄却できなかった。

A. 研究の目的

仮説 1：「医療側が HIV 急性感染期に受診している患者に HIV 検査を誘導できている」

仮説 2：「医療側が性感染症の診療時に適切に HIV 検査を勧奨できている」

上記を検証する。

B. 研究方法

2015～2019 年末までに新規で HIV 陽性と判明し琉球大学に通院している患者を対象とした。調査用紙の受け取りを承諾した患者に、調査用紙を渡し、院外で匿名自記式調査用紙に記入後、主任研究者の名古屋市立大学看護学部宛てに投函する。統計的解析はロジスティック解析をおこなった（SPSS バージョン 19）。

C. 研究結果

対象患者の 60 名に対して、46 名に調査用紙を配布し、30 名が回答した（回収率 65.2%）。

1. HIV 検査の勧奨について（ $n=30$ 名）

回答した 30 名中、急性 HIV 感染症状を記憶した 17 名（56.7%）のうち（図 1-1）、医療機関を受診した者は 15 名（88.2%）であった（図

1-2）。そのうち HIV 検査に誘導されたのは 1 名（6.7%）で 86.7% は有意に HIV 検査に誘導されなかった（pearson $p=0.001$ ）。1 名は HIV 検査を勧奨されたが断った（図 1-3）。

2. 性行為感染症（Sexually Transmitted Infections：STI）時の HIV 検査の勧奨について
30 名中 20 名（66.7%）が罹患し受診していたが、12 名（60%）は医療者より HIV 検査を勧められていなかった（図 2-1、2-2）。

3. HIV 陽性告知を受けた機関（ $n=30$ 名）

病院が 70%、保健所・検査センター 23.3%、医院・クリニックと郵送検査がともに 3.3%であった（図 3）。定期的自主検査として受検したのは 2 名（6.7%）であった。

4. 陽性判明前の受検経験（ $n=30$ 名）

有り 46.7%、無し 53.3%。有りと回答した 14 人中、最終受検時期は 1 年以内と回答したのは 3 名（21.4%）、1 年以上前は 2 名（14.3%）、2 年以上前は 8 名（57.1%）であった（図 4-1、4-2）。

5. 受検のきっかけ (n=30名 複数回答)

体調不良が最多で 70.0%、次いで HIV 関連の自覚症状 36.7%、術前検査、性感染症などが多く、本人の自主的検査はわずか 6.7%であった (図 5)。

6. 受検しなかった理由 (n=16名 複数回答)

結果を知るのが怖かった者は 14名 (87.5%)、面倒だった 8名 (50.0%) であった。恐怖感と受検率には有意な相関を認めた $p=0.028$ 。

(図 6)

7. 陽性判明前の情報の認知度

a) 「治療による生命予後が非感染者と同じに改善する」

b) 「治療費の医療補助制度の存在」

a) を認知していたのは 17名 (56.7%)、b) を知っていたのは 9名 (30.3%) であった。

a) と b) の知識の共有率は有意に相関を認めた ($P=0.042$)。

受検率に及ぼす a) および b) の知識の認知度については有意な関連は認めなかった。

8. 感染する可能性の自覚と受検率 (n=30名)

感染する可能性について、全く無かった者が 12名 (40%)、強く自覚していた者が 2名 (6.7%)、であった。感染自覚の高さと受検率には有意な相関は認めなかった。

9. 陽性判明前のコミュニティセンターの認知度

知らなかった者は 13名 (43.3%)、訪問有りは 1名 (3.3%)、知っていたが訪問無し 16名 (53.3%)。コミュニティペーパーの認知度は 9名 (30.0%) であった。

D. 考察

研究対象者のリクルートの精度は、対象患者の 76.7% にアンケートを配布して有効回収率は 30名 (65.2%) と高い精度で施行出来た。

急性 HIV 感染症を自覚した者は 88.2% と高い頻度で医療機関を受診しているが、医師より HIV 検査を勧奨されたのは 2名 (13.3%) のみで、86.7% の感染者が個人的診断の機会および公衆衛生的伝播防止の機会を喪失していたことが明らかとなった。

性病の診断時にも同様のことが指摘出来、60.0% が HIV 検査を勧奨されなかった。2019 年より梅毒の届出時には HIV 検査の有無を記載する欄が追記されたので、改善されることが期待される。

陽性告知を受けた機関は、当県では保健所が 7名 (23.3%) と高いが、詳細をみると無症候性でセクシャルヘルスの観点から定期的自主検査として受検したのは 2名 (6.7%) と低く、検査機会が少ない地方では、クリニックや病院検査の代替として保健所検査を利用していることが判明した。

受検勧奨に有用と思われる知識・情報の認知度は受検率に影響しなかった。しかしながら陽性への恐怖感を受検率の低下に有意に影響したことを検討すると、HIV 感染は社会、コミュニティからの孤立あるいは人生設計からの離脱に対する恐怖感が主であり、今後の研究では「質問内容も恐怖感を緩和するキーワード」を検証することが重要と考えられた。

E. 結論

仮説 1 は棄却された。仮説 2 は棄却出来なかった。受検の向上に結びつく情報を明らかにすることが重要である。

F. 研究発表

1. 学会発表 (国内)

1) 健山正男：トキゾプラズマ症の現況と課題。シンポジウム 5、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019。

2) 上原 仁、諸見牧子、与那覇房子、前田サオリ、宮城京子、石郷岡美穂、大城市子、辺士名優美子、仲村秀太、健山正男、藤田次郎、中村克徳：ラルテグラビル 1200 mg とプロトンポンプ阻害薬との併用による有害事象が疑われた一例。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019。

3) ○岩橋恒太、金子典代、高野 操、岡 慎一、本間隆之、健山正男、玉城祐貴、市川誠一、荒木 順、木南拓也、生島 嗣、佐藤郁夫、福原寿弥、林田庸総、中山保世、小日向弘雄、今村顕史：MSM を対象とした郵送検査キット用いた HIV 検査「HIVcheck.jp」のベニューの拡大の試行。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019。

4) 前田サオリ、宮城京子、仲村秀太、名嘉山賀子、健山正男、上原 仁、石郷岡美穂、大嶺千代美、藤田次郎：HIV 感染および肺結核が判明した外国人母子の療養支援。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019。

5) 蜂谷敦子、佐藤かおり、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、岡 慎一、湯永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、椎野禎一郎、須藤弘二、加藤真吾、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀

場昌秀、太田康男、茂呂 寛、渡邊珠代、松田昌和、重見 麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、小島洋子、森 治代、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南 留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎、杉浦 互、吉村和久、菊池 正：国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向. 第33回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

6) 饒平名聖、石原美紀、島袋末美、渡嘉敷良乃、名護珠美、上原 仁、宮城京子、前田サオリ、仲村秀太、健山正男、前田士郎：当院におけるHIV-1インテグラーゼ薬剤耐性検査の検出状況報告. 第33回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

7) 仲村秀太、健山正男、名嘉山賀子、上原 仁、前田サオリ、宮城京子、藤田次郎：一次結核を発症した生後7ヶ月のHIV陽性乳児においてTDMによるラルテグラビル投与量設定が奏功した1例. 第33回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

3. 学会発表 (国外)

1) ○Kota Iwahashi, Noriyo Kaneko, Misao Takano, Shinichi Oka, Takayuki Honma, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa, Jun Araki, Takuya Kinami, Yuzuru Ikushima, Ikuo Sato, Toshiya Fukuhara, Tsunefusa Hayashida, Nakayama Yasuyo, Hiroo Obinata, Akifumi Imamura: Dry Blood Spot-Based HIV Testing 'HIVcheck.jp' is a New Testing Opportunity for Men who have Sex with Men in Tokyo, Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

無し

2. 実用新案登録

無し

3. その他

無し

図1-1. HIVの急性期症状の有無(n=30)

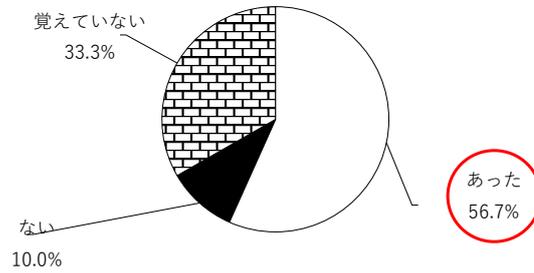


図1-2. 急性期症状をきっかけに受診したか (n=17)

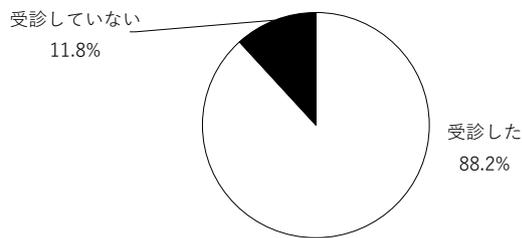


図1-3. 急性期症状による受診時にHIV検査を勧められたか(n=15)

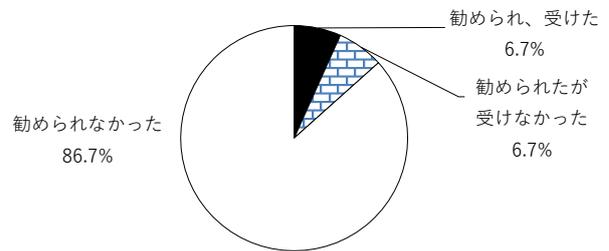


図2-1. 性病罹患による受診時にHIV検査を勧められたか(n=20)

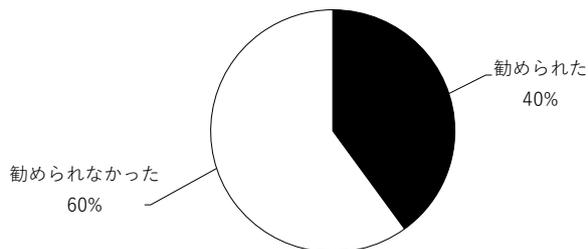


図2-2. 勧められた検査を受けたか(n=9)

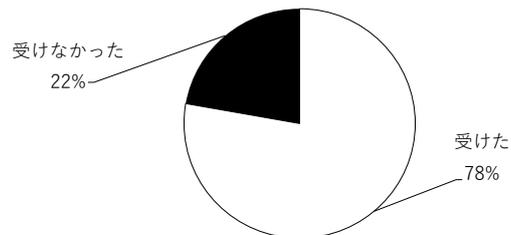


図3. 陽性の告知を受けた機関(n=30)

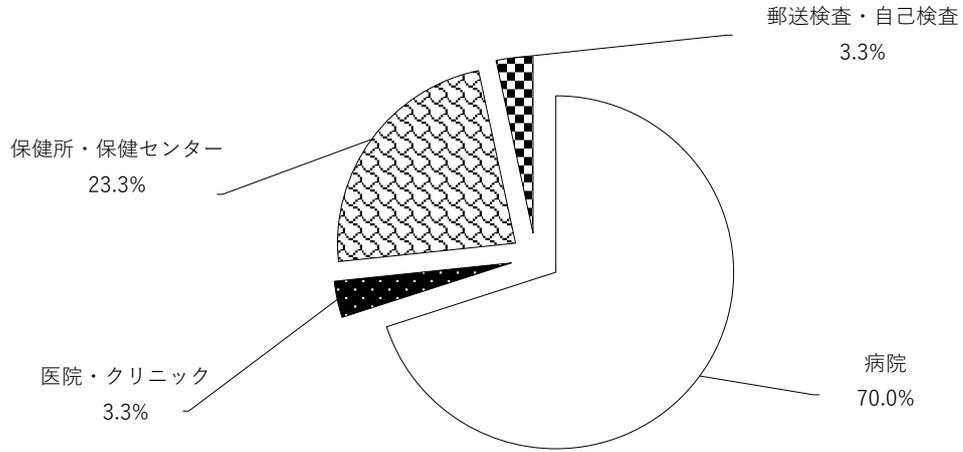


図4-1.陽性判明前の受検経験(n=30)

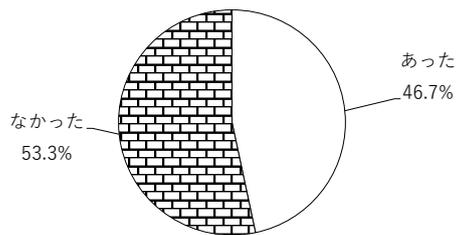


図4-2. 陽性判明前の最終受検時期(n=14)

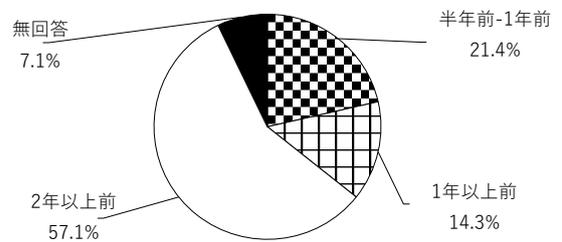


図5. 受検のきっかけ（複数回答）（n=30）

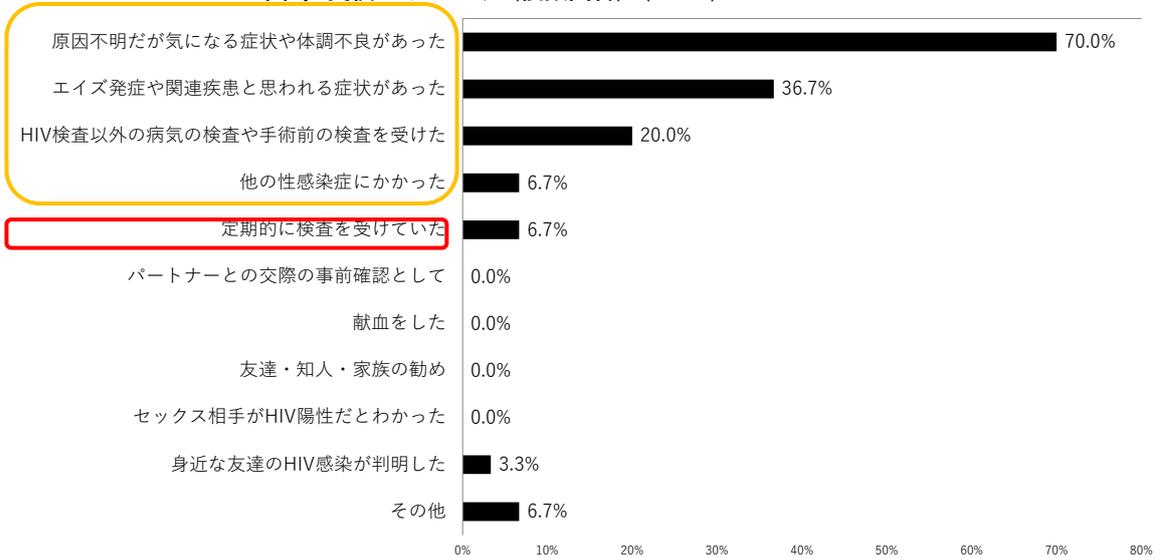
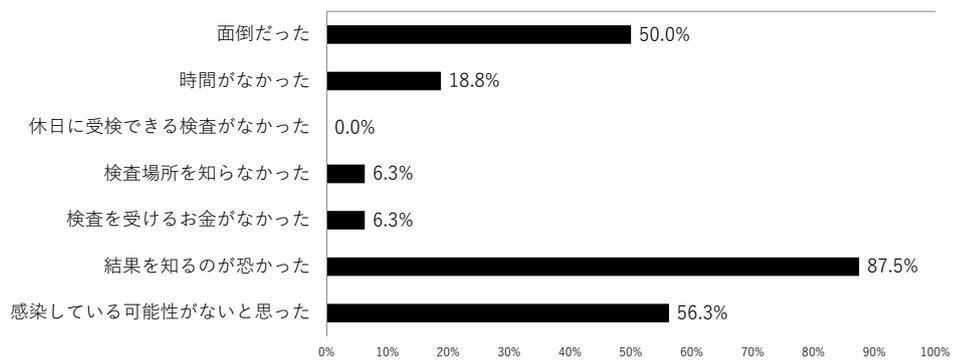


図6. 受検しなかった理由（複数回答）（n=16）



地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡大 -

研究分担者：和田秀穂（川崎医科大学血液内科学 教授）
研究協力者：高田清式（愛媛大学医学部）、新山 賢（HaaT えひめ）、
塩野徳史（大阪青山大学健康科学部）

研究要旨

地方都市において、感染リスクがあるが対面型の接触を避ける MSM に対し、クリニック・診療所を活用した新たな HIV 検査機会の拡大によって早期受療促進体制を整備した。岡山県で実施した MSM への民間医療機関を活用した検査促進と受療促進をモデルケースとして確立したうえで、近隣の中国四国地方に応用し、検査機会の拡大につながるプログラムとして展開した。

1. 岡山県における MSM を対象としたクリニック検査の継続

MSM 限定の令和元年度「岡山県もんげ～性病検査」は第 9 弾は受検者 31 人、HIV 陽性が 1 件、梅毒陽性が 3 件であった。第 10 弾は受検者 33 人、HIV 陽性が 0 件、梅毒陽性が 6 件であった。

2. 愛媛県、広島県(福山市)、香川地区における MSM を対象としたクリニック検査の拡大実施

岡山県近隣の瀬戸内地域において、「せとうち性病クリニック検査」の事業化に向け、愛媛県内の行政、医療機関と協議し協力医療機関を令和元年度も実施した。さらに新たに香川県でも 1 施設を開拓し追加した。今年度は最終年度であるため、検査は 1 期のみで実施した。受検者 26 人、HIV 陽性が 1 件、梅毒陽性が 2 件であった。

A. 研究目的

エイズ発生動向によると、地方都市の中でも中国四国地域は、AIDS 患者の占める割合が高い都道府県が多く認められる。中国四国の地方都市で、地域性に配慮した形で公的機関以外の医療機関等を活用した HIV 検査の提供体制を整備し、対面型の接触を避ける MSM への検査促進を行う。

HIV 検査機会を拡大する。

医療機関・検査受検へのハードルを下げる取り組みとして、実績のある「岡山県もんげ～性病検査」に合わせて、広島県、愛媛県、さらに香川県に拡大した「せとうち性病クリニック検査」を同時開催し、HIV 感染症および梅毒の早期発見を行った。またクリニック検査では受検者アンケートも実施した。

B. 研究方法

CBO(Community Based Organization)、行政、医療機関の連携により公的機関以外での MSM への HIV 検査提供の事業化に成功した岡山県での先行事例を解析し、その結果を踏まえ、岡山県の近隣県でも連携した形で、中国四国地域における医療機関等を活用した新たな

C. 研究結果

2017-2018 年度に実施した中国四国地域の MSM 向け商業施設クライアントの調査データの分析を行い啓発戦略策定に活用している。ゲイバー顧客調査(2017-2018 実施)の結果から、地方都市では生涯に検査を受けたことのある割合は都市部より 10%程度低く、啓発

が肝要だが、ゲイ NGO の活動基盤も脆弱であり広域連携など工夫が必要である。コミュニティセンターもなく、NGO の人材が著しく少ないこともあり、インターネットやゲイ向けアプリに掲示できるバナーを活用し地方都市をカバー展開することが可能な予防啓発を行った。

CBO(HaaT えひめ)、行政(愛媛県保健福祉部 健康衛生局健康増進課 感染症対策係)、医療機関(愛媛大学医学部附属病院)、福山市の民間医療機関、香川県の民間医療機関と連携し、令和元年度は、「せとうち性病クリニック検査」を企画、実施した。

検査は令和元年8月19日～9月30日において、MSM 向けの HIV・梅毒検査を目的とする「岡山県もんげ～性病検査」および「せとうち性病クリニック検査」を同時期に実施した。前者の実施クリニックは、岡山市3施設、倉敷市3施設であり、受検者総数は31人で、HIV 陽性者が1人、梅毒陽性者が3人新規に診断された。後者の実施クリニックは、福山地区2施設、松山地区2施設、新たに開拓した香川地区1施設であり、受検者総数は26人で、HIV 陽性者は1人、梅毒陽性が2人新規に診断され医療に繋げることができた。

岡山県では平成27年度から夏季、冬季の年2回、期間限定でMSMを対象としたクリニック検査を開始してきている。令和元年度末までで合計10回のクリニック検査が施行された。

D. 考察

MSM 限定のクリニック検査において、HIV 感染症と梅毒を同時に検査する方法は有効であった。全国的に梅毒の報告数が著しく増加してきているため、梅毒検査の受検希望を契機として、HIV 感染症の検査を受けることにつながった例も少なくないと思われた。

クリニック検査では、受検者のうち30歳未満では71.4%が、また30歳以上では36.0%がこれまでに1回もHIV検査を受けたことが

ないものであった。今回のMSM限定のクリニック検査が初めてのHIV検査受検の機会になり、検査機会の拡大につながるものがさらに期待される。

近隣県として愛媛県、広島県福山市、香川県に拡大して、クリニック検査を導入し、「せとうち性病クリニック検査」として広報、広域検査を展開した。このような新しい検査のコミュニティ内の定着にはさらに時間を要することが考えられる。商業施設クライアントの調査からもまだ検査情報が届いていない層を明確にしたうえで広報を展開していくことが必要である。

これまでの実績をまとめた報告書(巻末資料)もアップデートして作成し、関係者、行政者に成果を共有している。

E. 結論

「せとうち性病クリニック検査」が中四国に拡大していく中で、クリニックが若年層MSMにとっても利用しやすい(29歳以下の若年層で初受検者の割合が71.4%)ことが明らかになった。地方地域でのクリニック検査の活用は潜在的にニーズが高いと考えられ、それぞれの地域での事業化が望まれる。

今後も中四国MSMの検査未受検層の特性を把握しつつ、効果的なMSM限定のクリニック性病検査を広域に展開していく必要がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 和田秀穂. : HIV 感染症の過去・現在・未来. 臨床病理 67(補冊):5, 2019.
- 2) 安井 晴之進, 橋本 誠也, 林 茂樹, 横井 桃子, 松本 誠司, 廣瀬 匡, 竹内 麻子, 徳永 博俊, 近藤 敏範, 近藤 英生, 和田 秀穂. :R-MPV 療法が奏効した HIV 関連 PCNSL の1例. 臨床血液 60(5):515, 2019.
- 3) Nakagiri I, Tasaka T, Okai M, Nakai F, Bunya R, Nagai S, Yoshida T, Tokunaga H, Kondo E, Wada H. : Screening for human

immunodeficiency virus using a newly developed fourth generation lateral flow immunochromatography assay. J. Virol. Methods. 274 :113746, 2019.

2. 学会発表 (国内)

- 1) ○和田秀穂:地方における性病クリニック検査の事業化と今後の展望. シンポジウム4、第33回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 2) 野村直幸、松井綾香、飯塚暁子、藤原千尋、門田悦子、木梨貴博、村上由佳、齊藤誠司、坂田達朗、和田秀穂:HIV感染症治療における院外処方への移行の推進に向けた薬剤師の取り組みと課題. 第33回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 3) 松井綾香、野村直幸、村上由佳、藤原千尋、飯塚暁子、木梨貴博、門田悦子、齊藤誠司、坂田達朗、和田秀穂:HIV感染症治療における院外処方移行促進のための病院 - 保険薬局間での情報共有に対する取り組み. 第33回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 4) 近藤陽介、安井晴之進、福田寛文、竹内麻子、徳永博俊、近藤英生、和田秀穂:大量

メトトレキサート併用化学療法が奏功したHIV関連リンパ腫の2例. 第33回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

- 5) 西田拓洋、中尾 綾、中村美保、川田通子、海面 敬、臼井麻子、池谷千恵、吉川由香、武内世生、窪田良次、尾崎修治、佐藤 穰、千酌浩樹、和田秀穂、山下 光、山之内純、高田清式:中国四国地方における HIV 関連神経認知障害に関する研究 - 体制構築 -. 第33回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 6) 飯塚暁子、藤原千尋、村上由佳、門田悦子、三笠かおる、大島瑞穂、松井綾香、野村直幸、木梨貴博、齊藤誠司、坂田達朗、和田秀穂:当院の HIV 感染症通院患者における精神科受診の現状と課題. 第33回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

MSMに対する有効なHIV検査提供と
ハイリスク層への介入方法の開発に関する研究

地方における新たな検査機会の開発
—クリニック・診療所における検査機会の拡大—
事業・研究概要





HIV/AIDSへの取組み～地方におけるMSMへの対策の重要性

市川 誠一（名古屋市立大学 名誉教授・金城学院大学 消費生活科学研究所 教授）

厚生労働省エイズ動向調査によれば、2017年末までのHIV感染者は19,896人、エイズ患者は8,936人、合計28,832人が報告されています。このうち、日本国籍は24,250人（84%）を占めています。日本では、1990年代からHIV感染者、エイズ患者（以下、HIV/AIDS）ともに増加が続きました。その多くが男性同性間の性的接触による感染で、MSM（男性とセックスする男性）に向けた予防啓発、検査・医療・相談支援の提供が重要な対策となっています。

近年、HIV/AIDSの報告数はおよそ1,500人で推移しています。しかし、その大半が男性同性間の性的接触による感染である状況は変わっていません。東京、大阪、名古屋の都市部では減少あるいは横ばいとなったのに対して、中国・四国地域などの他の地域では増加傾向にあります。またこれらの地域ではエイズ患者として報告される割合が高いため、発症前にHIV検査を受けるように啓発することが必要となっています。

同性愛者等で構成するCBO（地域ボランティア団体）は、厚生労働省の研究班に参加してMSMへのHIV感染対策に取り組んでいます。CBOが研究班で行った調査によれば、地方在住のMSMは都市部のMSMに比べて、HIV抗体検査の受検経験割合が低いことが示されています。この理由として、東京・大阪・名古屋以外の地域は、公的なHIV検査機関が少ないこと、同性愛者やHIV陽性者に対するNGOによる相談支援が少ないことなどが考えられます。

こうした状況に対して、岡山県では、県・市の自治体とCBO・HaaTえひめが共同し、複数のクリニックとエイズ拠点病院である川崎医科大学・和田秀穂先生の協力を得て、MSM向けに「クリニック検査キャンペーン・もんげ～性病検査」を実施しました。これは、自治体とCBOがクリニックやHIV診療の専門医が、それぞれの専門性を連携して、MSM向けにHIV、性感染症の検査を提供する環境をつくっていく取り組みです。そして、2018年からは、岡山県での取り組みの経験をいかし、「せとうち性病クリニック検査」として、中国・四国の他の地域にも広げています。この冊子では、自治体、CBO、クリニック、HIV診療専門医の連携を紹介しています。地方におけるMSMへのHIV感染対策の一つのモデルとして参考にしていただければと思います。



地方における新たな検査機会の開発—クリニック・診療所における検査機会の拡大— 和田 秀穂（川崎医科大学血液内科学 主任教授）

中国・四国地域の地方都市である岡山県では、2010年のエイズ発生動向調査において、22名のHIV陽性者のうち11名がエイズ患者として報告されました。人口10万人当たりのエイズ患者報告数は、実に全国第4位という結果でした。これを受け、2012年から県内の保健所および拠点病院でのHIV検査受検者数を増加させることを目標に、行政・医療機関が一丸となって「検査広報カードの作成」などを行い検査体制の充実に取り組みました。しかし、2014年までの3年間の成果として検査件数は3,430件に増加しましたが、HIV陽性率は0.26%程度にとどまりました。そこで、よりHIV検査を必要としている方に検査機会を提供するために、2015年からMSM（男性とセックスする男性）を対象としたクリニック検査を県・市の自治体とCBO・HaaTえひめが共同して事業化をすることになりました。地方都市という地域性を配慮し、公的機関以外の医療機関等を活用したHIV検査の提供体制を整備し、対面型の接触を避

けるMSMへの検査促進を行うのが狙いであります。具合的には、岡山県もんげ～性病検査として、予約不要、本名は任意、HIVと梅毒検査をセットで一律1,000円の3つの特色を掲げ、期間限定のクリニック検査を始めました。2015年からの4年間で、計8回の期間限定クリニック検査を行いました。198名の受検者から、HIV陽性5名(2.53%)、梅毒検査陽性30名(15.15%)を新規に診断し、全員を医療機関に繋げることができています。

この岡山県での先行事例をもとに、岡山県の近隣県でも連携した形で、中国・四国地域における医療機関等を活用した新たなHIV検査機会を拡大することを目的に、2018年から岡山県もんげ～性病検査と同時期開催で、せとうち性病クリニック検査を始めています。これは、厚生労働省エイズ対策政策研究事業の研究課題「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究」の分担研究であり、課題名は「地方における新たな検査機会の開発—クリニック・診療所における検査機会の拡大—」であります。2018年は、愛媛県、広島県東部(福山地区)から4施設の参加、さらに2019年からは香川県内にクリニック検査施設を拡充していく予定です。本冊子で紹介するこれらの取り組みが、地方都市におけるMSMのHIV感染対策の一つのモデル事業として参考になりましたら幸いです。



高田 清式(愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター 教授)

愛媛県は、毎年8~10名の新規HIV感染者・エイズ患者の報告があります。その特徴の1つに他県に比しエイズ患者での報告の割合が多いことが注目されています。進行した状態で明らかな症状がでて初めて医療機関を受診するケースが多く、実際には残念ながら一部では治療を行ってもエイズに罹患した疾患の後遺症が残り社会復帰に支障をきたす場合も見受けられています。そのため、より早期に検査を受診され自ら健康管理をすることが望まれています。保健所での無料検診を積極的に利用されることが重要ですが、検査日が指定され仕事の都合で受診がなかなか困難な場合もあることと思います。2018年度から厚生労働省エイズ対策研究班の取り組みとして、受診日の都合の解決方法の1つとして、クリニック・診療所における検査機会の拡大を目的に、愛媛県においても「せとうち性病クリニック検査」と名付けて、2か所の医療機関ですが、クリニックでのHIV検査を気軽に曜日の指定なく行える試みを実施しています。今後も医療機関・行政・HaaTえひめなどNGOと連携しながら受けやすい検査環境を整えていきます。



金子 典代(名古屋市立大学 看護学部 国際保健看護学 准教授)

2017~2019年度の厚生労働省エイズ対策研究班では、中四国地域では川崎医大の和田先生が研究分担者となり、「HaaTえひめ」、民間クリニックと協力しゲイバイセクシュアル男性のHIV検査受検促進のための取り組みせとうち性病クリニック検査を行うことになりました。岡山県で、HaaTえひめ、岡山県、川崎医大、民間クリニックの協働によるもんげ～性病検査の事業化に成功しており、この取り組みを中四国に広げることとなります。多くの地方都市から注目されている取り組みです。

MSMの検査行動を進めるためには、NGOの力が不可欠です。「HaaTえひめ」は当事者ネットワークを培い、行政へ働きかけ医療とも連携しながら、エイズ予防活動を10年にわたり展開してきました。非常に限られた人的・社会的資源の中、ここまでの活動ができるNGOはなかなかなく、本当に貴重です。

本報告書では、2018年度までのクリニック検査の取り組みをまとめております。ぜひ参考にいただければと思います。また取り組みは2019年度も続きますので、引き続きご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

岡山県クリニック検査キャンペーン 「もんげ～性病検査」の背景～行政事業～

■おかやまエイズ感染防止作戦

岡山県内の新規HIV感染者・AIDS患者の発生年代は20～40代が中心で、2010年にはAIDSを発症してから見つかる患者が5割を占めるなど「いきなりエイズ」が多い状況でした。岡山県では、(1) 受けやすい検査、(2) 戦略的な普及啓発、(3) 関係者の連携強化、を3つの柱とし、全県を挙げて感染防止に取り組む機運を醸成・関係者一丸となって作戦を推進、HIV感染防止と「いきなりエイズ」防止に取り組む、「おかやまエイズ感染防止作戦」を2013年度から実施しています。



■岡山もんげ～性病検査

この「おかやまエイズ感染防止作戦」の一環として、2015年から岡山県と中四国地方でMSMに対してHIV予防啓発活動をおこなっていたCBO HaaTえひめ、そして厚労省エイズ対策研究班（MSM研究班）などが連携し、MSM研究班で先行研究のあるMSMを対象としたクリニックでのHIV検査勧奨を岡山で実施しました。



■岡山県庁担当者より



永田さん

岡山県では、検査機会の拡大を図るとともに、HIV・梅毒感染者等の早期発見・早期治療、ひいてはエイズのまん延防止につなげるため、期間限定・MSM限定で、身近な診療所等で、検査の機会を提供する必要があると考え、2015年度からクリニック検査をスタートさせました。事業の実施にあたっては、行政だけでは難しく、ゲイ向け性感染症予防啓発団体のHaaTえひめ、MASH大阪、あうとぴーち等の御協力を得て、連携しながら進めております。おかげさまで、3クリニックでスタートしたクリニック検査事業も今年度は、6クリニックとなり、受検者数、HIV陽性率も増え、効果が顕著に

現れ嬉しく思っております。また今年度からは、「せとうち性病クリニック検査」とタイアップして進めており、今後、ますますクリニック検査が拡大し、早期発見・早期治療につながっていくことを願っております。

■中四国地域のHIV・AIDS

HIV感染者・AIDS患者報告数の上位10位の自治体（厚生省エイズ動向委員会）										中国・四国
2016年										
HIV感染者上位自治体					AIDS患者上位自治体					
自治体	報告数	自治体	人口10万対	自治体	報告数	自治体	報告数	自治体	人口10万対	
1 東京都	370	1 東京都	2.716	1 東京都	97	1 福岡県	0.901			
2 大阪府	140	2 大阪府	1.585	2 大阪府	48	2 佐賀県	0.725			
3 愛知県	70	3 沖縄県	1.181	3 福岡県	46	3 東京都	0.712			
4 神奈川県	57	4 岐阜県	0.989	4 愛知県	32	4 高知県	0.555			
5 福岡県	46	5 愛知県	0.932	5 神奈川県	26	5 大阪府	0.543			
6 千葉県	31	6 福岡県	0.901	6 北海道	19	6 群馬県	0.458			
7 埼玉県	25	7 山梨県	0.843	6 千葉県	19	7 愛知県	0.426			
8 北海道	23	8 徳島県	0.800	8 埼玉県	15	8 愛媛県	0.364			
9 岐阜県	20	9 熊本県	0.789	8 兵庫県	15	9 北海道	0.355			
9 兵庫県	20	10 高知県	0.693	10 群馬県	9	10 沖縄県	0.347			
http://www.aids-chushi.or.jp/center/block/houkoku/h29/vol2/h29vol2.pdf										
2017年										
HIV感染者上位自治体					AIDS患者上位自治体					
自治体	報告数	自治体	人口10万対	自治体	報告数	自治体	報告数	自治体	人口10万対	
1 東京都	382	1 東京都	2.638	1 東京都	97	1 東京都	0.707			
2 大阪府	124	2 沖縄県	1.594	2 大阪府	50	2 大阪府	0.567			
3 神奈川県	57	3 大阪府	1.405	3 愛知県	26	3 沖縄県	0.554			
4 福岡県	54	4 福岡県	1.057	4 神奈川県	25	4 富山県	0.473			
5 愛知県	41	5 岡山県	0.839	5 福岡県	24	5 福岡県	0.470			
6 千葉県	34	6 香川県	0.724	6 千葉県	17	6 鹿児島県	0.431			
7 埼玉県	25	7 鹿児島県	0.677	7 北海道	15	7 高知県	0.420			
7 兵庫県	25	8 宮崎県	0.643	8 兵庫県	11	8 香川県	0.414			
9 沖縄県	23	9 神奈川県	0.622	9 京都府	10	9 徳島県	0.404			
9 北海道	19	10 熊本県	0.567	10 埼玉県	9	10 京都府	0.385			
http://api-net.jfap.or.jp/status/2017/17nenpo/h29gaiyo.pdf										
2018年										
HIV感染者上位自治体					AIDS患者上位自治体					
自治体	報告数	自治体	人口10万対	自治体	報告数	自治体	報告数	自治体	人口10万対	
1 東京都	351	1 東京都	2.54	1 東京都	72	1 徳島県	0.82			
2 大阪府	116	2 大阪府	1.32	2 大阪府	41	2 高知県	0.71			
3 愛知県	76	3 愛知県	1.01	3 福岡県	33	3 大分県	0.70			
4 神奈川県	53	4 沖縄県	0.90	4 神奈川県	26	4 福岡県	0.65			
5 福岡県	39	5 岡山県	0.79	4 愛知県	26	5 東京都	0.52			
6 千葉県	36	6 福岡県	0.76	6 千葉県	15	6 沖縄県	0.48			
7 北海道	21	7 佐賀県	0.73	7 埼玉県	14	7 大阪府	0.47			
7 兵庫県	21	8 岐阜県	0.70	8 静岡県	13	8 岐阜県	0.45			
9 埼玉県	18	9 神奈川県	0.58	8 広島県	11	9 三重県	0.39			
10 岡山県	15	10 千葉県	0.58	10 岐阜県	9	10 広島県	0.39			
http://api-net.jfap.or.jp/status/2017/17nenpo/h30gaiyo.pdf										

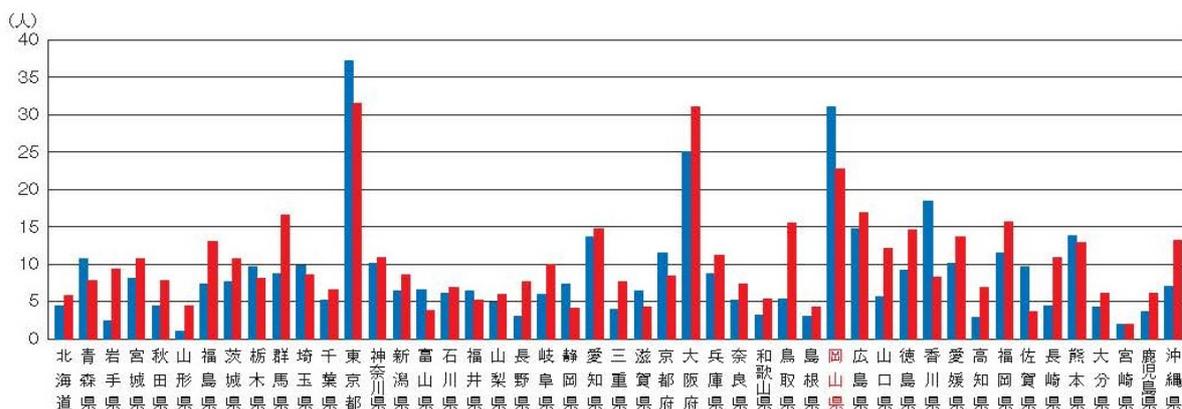
中国・四国ブロックの人口10万対の累積報告数

	HIV感染者	AIDS患者	AIDS率
鳥取県	2.632	2.982	0.531
島根県	2.754	1.159	0.296
岡山県	7.520	3.969	0.345
広島県	7.896	3.983	0.335
山口県	4.591	1.578	0.256
徳島県	5.467	2.933	0.349
香川県	6.276	4.835	0.435
愛媛県	5.673	4.291	0.431
高知県	5.548	3.883	0.412
中国・四国ブロック	6.112	3.493	0.364
全国	14.906	6.715	0.311

<http://www.aids-chushi.or.jp/center/block/houkoku/h29/vol2/h29vol2.pdf>

都道府県別梅毒発生状況

梅毒第3四半期比較 (2017-2018年) 人口100万人あたり報告数*



人口100万あたり報告数*上位10位の自治体

2017年第3四半期			2018年第3四半期		
順位	自治体	人口100万あたり報告数*	順位	自治体	人口100万あたり報告数*
1	東京都	37.22	1	東京都	31.67
2	岡山県	31.20	2	大阪府	31.19
3	大阪府	25.20	3	岡山県	22.88
4	香川県	18.43	4	広島県	16.85
5	広島県	14.74	5	群馬県	16.73
6	熊本県	14.00	6	福岡県	15.68
7	愛知県	13.67	7	鳥取県	15.68
8	福岡県	11.56	8	愛知県	14.74
9	京都府	11.49	9	徳島県	14.55
10	青森県	10.70	10	愛媛県	13.72

*人口は2015年国勢調査を使用 岡山県健康推進課作成

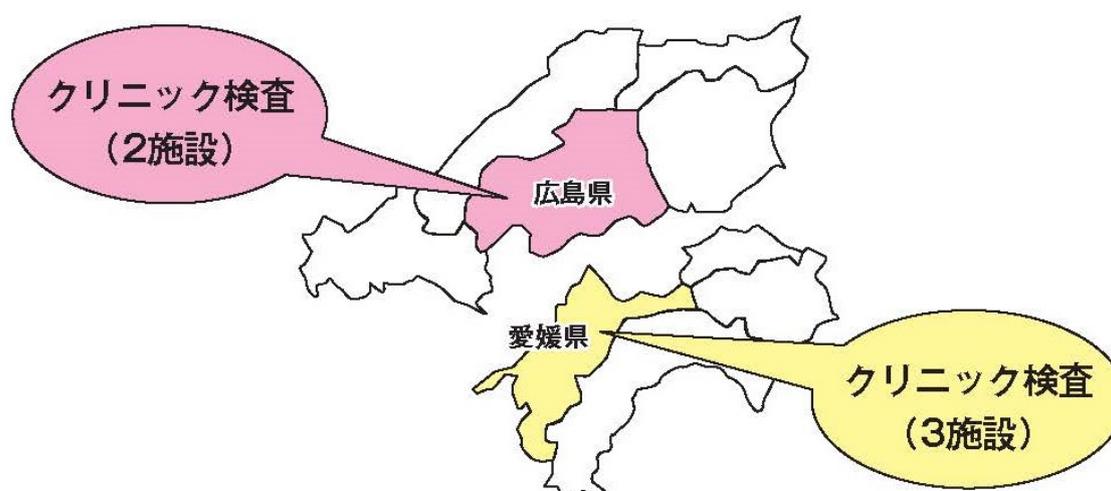
せとうち性病クリニック検査～研究～

■研究目的

地方都市で、地域性に配慮した形で公的機関以外の医療機関等を活用したHIV検査の提供体制を整備し、対面型の接触を避けるMSMへの検査促進を行う。

■研究方法

岡山県の先行事例をもとに、岡山県の近隣県でも連携した形で、中四国地域における医療機関等を活用した新たなHIV検査機会を拡大する。受検者へのアンケート調査、行政への検査機関別HIV/AIDS報告件数、コミュニティでの横断調査により効果評価を行う。



■体制図



■実施の流れ



■実施クリニック (せとうち+もんげ〜同時開催)

<p>たなか内科診療所 岡山市北区田中 183-102 ☎ 086-259-1551</p> <p>先主からのひとこと 精進寺のみなさん、おはようございます。HIVについて皆さんの機会に、ぜひ参加してみませんか。日程も調整しています。</p> <p>診療時間 ● 月曜～12時、15時30分～18時20分 ● 土曜 9時～12時、日曜は9時～12時 ● 水曜、木曜、日曜、月曜の前日の日曜は休診</p> <p>検査場所 ● 結核/有 (5台) ● JR北高野駅から徒歩10分、徒歩20分程度</p>	<p>よこやま腎泌尿器科クリニック 岡山市北区今 2-7-1 KUⅡビル ☎ 086-241-3322</p> <p>先主からのひとこと 当院は、岡山市内で高野駅西口徒歩で行けます。駐車場スペースあり。予約も特に必要ありませんので、気軽にご参加ください。</p> <p>診療時間 ● 月曜～12時、13時～18時 ● 土曜 9時～12時、日曜 9時～12時 ● 水曜、木曜、日曜、月曜は休診</p> <p>検査場所 ● 結核/有 (11台) ● JR大宮駅から徒歩15分、高野駅から徒歩20分程度</p>	<p>腎・泌尿器科のざきクリニック 岡山市東区西大寺中野 928-6 ☎ 086-201-1036</p> <p>先主からのひとこと 新築の、最近設備が整ったクリニックとして設備しています。プライバシー、整った設備に安心して参加をお願いします。</p> <p>診療時間 ● 午前9時～12時30分、午後3時～6時 ● 日曜、祝日、木曜・土曜は休診</p> <p>検査場所 ● 結核/有 (10台) ● JR西大寺駅、大野駅から約2km</p>	<p>医療法人 イマイクリニック 倉敷市能芳 109-1 ☎ 086-464-2000</p> <p>先主からのひとこと JR倉敷駅から車で30分、日曜も自衛隊クリニックです。HIVや梅毒へ感染しているかどうかを知らずには、検査をしてもらう方が良いのではないかと、当院の医師は感じています。専門の医師を紹介します。</p> <p>診療時間 ● 月曜～12時、15時～18時30分 ● 水曜、木曜、土曜、日曜は休診</p> <p>検査場所 ● 結核/有 (20台) ● JR中野駅から徒歩15分</p>
<p>ふちもとクリニック 倉敷市幸町 5-41 ☎ 086-434-0088</p> <p>先主からのひとこと パートナーと自分自身の両方にこの機会に検査を受けてみてはいかがでしょうか。当院の専門スタッフが丁寧なサポートをさせていただきます。</p> <p>診療時間 ● 月曜～12時、13時～18時 ● 土曜 9時～12時、日曜 9時～12時 ● 水曜、木曜、日曜、月曜は休診</p> <p>検査場所 ● 結核/有 (10台) ● JR倉敷駅から徒歩10分、徒歩20分程度</p>	<p>じょう泌尿器科クリニック 倉敷市松島 1154-2 アオキビル2F 201号室 ☎ 086-461-1688</p> <p>先主からのひとこと 倉敷市の駅にあるマルカマスカットビル2階まで徒歩5分で行けます。予約も必要ありません。お気軽にご参加ください。</p> <p>診療時間 ● 午前9時～12時、午後13時～17時 ● 水曜、土曜、日曜、月曜は休診</p> <p>検査場所 ● 結核/有 (10台) ● JR川崎駅から徒歩10分</p>	<p>アイネス内科クリニック 福山市東区1-1 アイネスフヤマ2階 ☎ 084-973-1125</p> <p>先主からのひとこと 当院は夜間まで診療しています。水曜は休診日。予約の必要はありません。お気軽にご参加ください。お待ちしております。</p> <p>診療時間 ● 10～14時、16～20時 ● 土曜、日曜、祝日、月曜は休診</p> <p>検査場所 ● 結核/有 (10台) ● JR福山駅から徒歩10分</p>	<p>ふくやま北泌尿器科内科クリニック 福山市御幸町下岩成 338 ☎ 084-961-3520</p> <p>先主からのひとこと 平成28年8月に福山市御幸町で泌尿器科・内科クリニックを開業しました。当院の医師がクリニックを自営しています。お気軽にご参加ください。</p> <p>診療時間 ● 9時～13時、16～19時 ● 日曜、水曜、土曜は休診</p> <p>検査場所 ● 結核/有 (5台) ● JR御幸町駅から徒歩3分</p>
<p>ほこいし医院 松山市柳井町 1-14-8 ☎ 089-931-5811</p> <p>先主からのひとこと 不安を抱えているより検査して確認して安心してください。万が一感染していてもきちんと治療すれば安心な心を取り戻すことができます。多くの患者様で喜んで選んで仕事をしています。</p> <p>診療時間 ● 月曜～12時30分、15時～18時30分 ● 日曜、水・土曜は休診</p> <p>検査場所 ● 結核/有 (5台) ● 伊予松山駅から徒歩10分</p>	<p>武智泌尿器科・内科 松山町東久美 711 ☎ 089-960-3555</p> <p>先主からのひとこと 医師2名で、泌尿器科(男)と内科で診療しております。今回のプロジェクトは、機会とさせていただきます。</p> <p>診療時間 ● 月曜～12時30分、15時～17時30分 ● 日曜、水・土曜は休診</p> <p>検査場所 ● 結核/有 (70台) ● 伊予松山駅から徒歩10分</p>	<p>松木泌尿器科医院 高松市前田西町 1080-7 ☎ 087-847-1121</p> <p>先主からのひとこと 当院は、HIV、梅毒の方もたくさん来院して見えています。性感染症に関する相談も受け付けています。</p> <p>診療時間 ● 午前9時～12時30分(土曜13時まで) ● 午後10時～18時(日曜13時まで) ● 水曜(午後)、土曜(午後)、日曜、祝日</p> <p>検査場所 ● 結核/有 (51台) ● 高松中央駅から徒歩10分、高松ICより約10分</p>	

広報資材

■紙資材

中四国地方のゲイ商業施設など約60か所に配布



■WEBサイト

<https://www.dista.osaka/setouchi/>

最近、身体の調子どう? SAFER SEX info

気になる時はここでチェック!

ゲイ・バイセクシュアル男性限定

せとらち

性病クリニック検査

HIV・梅毒検査が予約不要・1,000円!

2019年 8月19日～9月30日

検査エリア

岡山県 (6か所) | 広島県 福山市 (2か所)

愛媛県 松山市 (2か所) | 香川県 高松市 (1か所)

診療所・クリニック一覧

検査力ード	HIV/エイズに感染する人は、毎年増え続けています。2017年に新たに感染がわかった人のうち、7割以上はセックスを通じての感染でした。
1,000円検査キャンペーンとは?	いまでは、感染していることが早めに分かれば症状の有無に関わらず、専門の医療機関で通院しながら暮らし続けることができるようになりました。
検査の流れ	HIV/エイズに関わるいろいろなことを一緒に考えて支えてくれるNPO法人、団体もあります。
検査の豆知識	今回のキャンペーンではHIV・梅毒の検査を受けられます。自分が感染しているかどうかは検査を受けることでわかります。

この機会に検査を受けてみませんか?

【キャンペーン実施期間】

2019年 8月19日 (月) ～ 2019年 9月30日 (月)

最近、身体の調子どう? SAFER SEX info

気になる時はここでチェック!

ゲイ・バイセクシュアル男性限定

せとらち

性病クリニック検査

HIV・梅毒検査が予約不要・1,000円!

2019年 8月19日～9月30日

検査エリア

岡山県 (6か所) | 広島県 福山市 (2か所)

愛媛県 松山市 (2か所) | 香川県 高松市 (1か所)

診療所・クリニック一覧

検査力ード	HIV/エイズに感染する人は、毎年増え続けています。2017年に新たに感染がわかった人のうち、7割以上はセックスを通じての感染でした。
1,000円検査キャンペーンとは?	いまでは、感染していることが早めに分かれば症状の有無に関わらず、専門の医療機関で通院しながら暮らし続けることができるようになりました。
検査の流れ	HIV/エイズに関わるいろいろなことを一緒に考えて支えてくれるNPO法人、団体もあります。
検査の豆知識	今回のキャンペーンではHIV・梅毒の検査を受けられます。自分が感染しているかどうかは検査を受けることでわかります。

この機会に検査を受けてみませんか?

【キャンペーン実施期間】

2019年 8月19日 (月) ～ 2019年 9月30日 (月)

成果

■岡山県もんげ～性病検査（クリニック検査）受検者数推移

H27年度（受検者31名）	
第1弾（8/17～9/30）	受検者：15人（HIV陽性者1人、梅毒陽性3人）
第2弾（1/12～2/29）	受検者：16人（HIV陽性者0人、梅毒陽性1人）
H28年度（受検者46名：1.48倍）	
第1弾（8/17～9/30）	受検者：33人（HIV陽性者0人、梅毒陽性4人）
第2弾（1/10～2/28）	受検者：13人（HIV陽性者0人、梅毒陽性0人）
H29年度（受検者56名：1.81倍）	
第1弾（8/17～9/30）	受検者：31人（HIV陽性者1人、梅毒陽性4人）
第2弾（1/09～2/28）	受検者：25人（HIV陽性者0人、梅毒陽性5人）

HIV陽性率 **1.50%** 梅毒感染率 **12.8%**

H30年度（受検者95名）		
岡山県もんげ～性病検査 （岡山市3施設、倉敷市3施設）	第1弾 （8/17～9/30）	受検者：31人（HIV陽性者1人、梅毒陽性6人）
	第2弾 （1/7～2/28）	受検者：34人（HIV陽性者2人、梅毒陽性7人）
せとうち性病クリニック検査 （福山地区2施設、松山地区2施設）	第1弾 （8/17～9/30）	受検者：12人（HIV陽性者0人、梅毒陽性1人）
	第2弾 （1/7～2/28）	受検者：18人（HIV陽性者0人、梅毒陽性1人）
R元年度（受検者90名）		
岡山県もんげ～性病検査 （岡山市3施設、倉敷市3施設）	第1弾 （8/19～9/30）	受検者：31人（HIV陽性者1人、梅毒陽性3人）
	第2弾 （1/6～2/29）	受検者：33人（HIV陽性者0人、梅毒陽性6人）
せとうち性病クリニック検査 （福山地区2施設、松山地区2施設、 香川地区1施設）	（8/19～9/30）	受検者：26人（HIV陽性者1人、梅毒陽性2人）

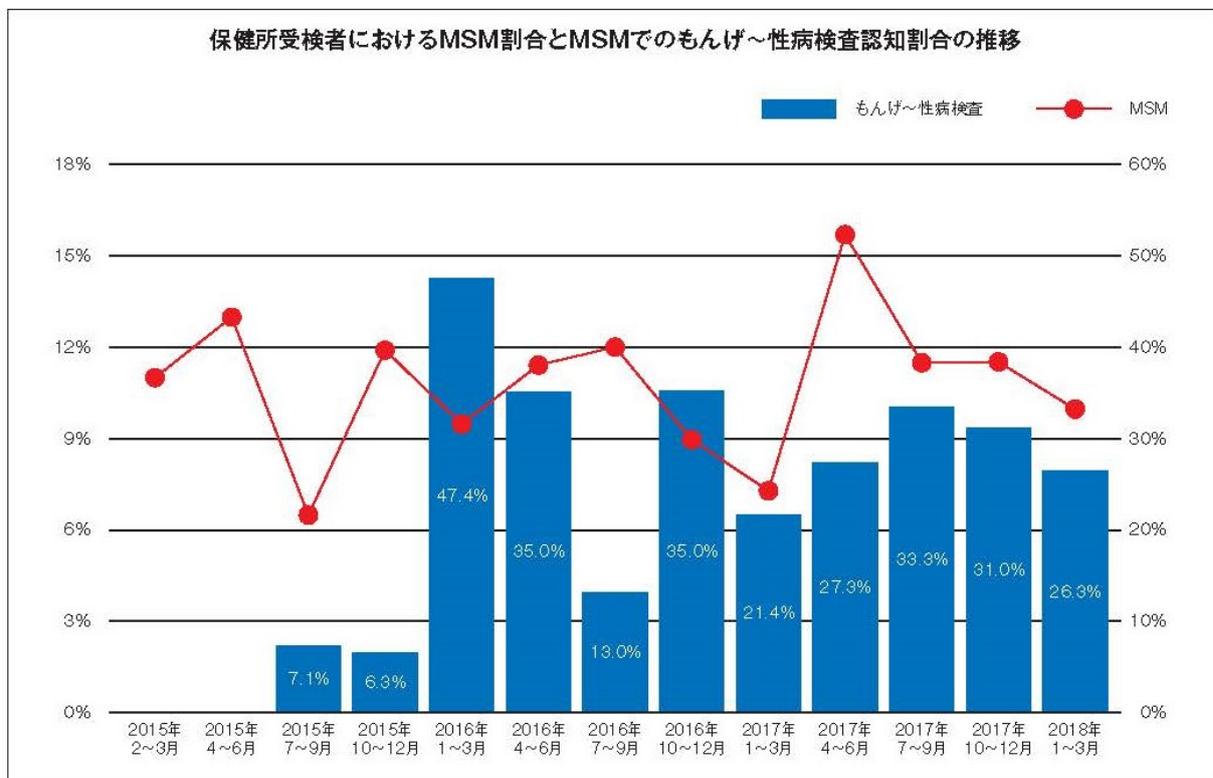
もんげ～クリニック検査の5年間（計10回）の総計は、
受検者262人（HIV陽性6人、梅毒陽性39人）

せとうち性病クリニック検査の2年間（計3回）の総計は、
受検者152人（HIV陽性率 **3.30%**・梅毒感染率 **13.2%**）

効果評価～受検者アンケートの結果から～

厚生労働省エイズ対策政策研究班ではHaaTえひめと協働して、岡山県、愛媛県を含む中国・四国地域に住むゲイ・バイセクシュアル男性を対象にアンケート調査を行い、MSM（男性とセックスする男性）の現状を把握して、この「せとうち性病検査」の実施に活用してきました。2017年に行われたアンケート調査では、「これまでにHIV抗体検査を受検したことがある」と回答したのは中国地域のMSMで53.7%（n=328）、四国地域のMSMで57.0%（n=179）と、都市部のMSMの約70%に比べてまだまだ低い割合でした。これは「地方での検査の行きにくさ」が反映されているものと思います。

「もんげ～性病検査」とそれに続く「せとうち性病検査」は、地方に住むゲイ・バイセクシュアル男性にとっての検査環境を、改善しようとする取り組みであり、地方のクリニック・診療所と協力して、検査機会を増やすことにつながってきました。さらに保健所でのHIV抗体検査受検者の促進にもつなげてきました。このことは「もんげ～性病検査」の効果評価の一環として実施している、保健所のHIV抗体検査受検者を対象にしたアンケートの結果からも推察されます。「もんげ～性病検査」を始めて、保健所のMSM受検者で「もんげ～性病検査」の認知割合は47.4%に増加しました。そして広報期間に合わせて30%台になっています。このことから、こういった取り組みは保健所の受検者にも少なからず影響を与えているものと考えられます。

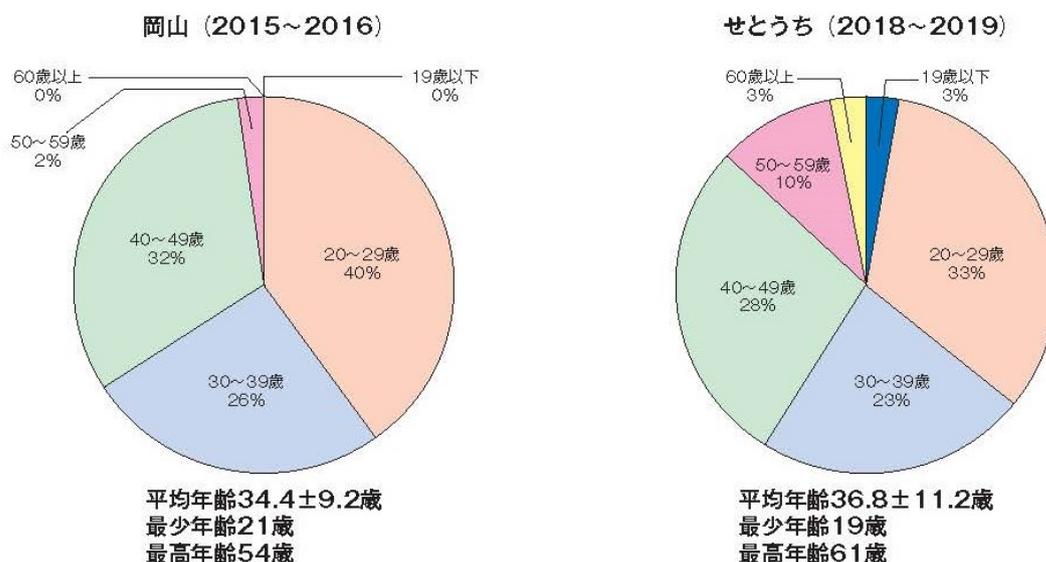


せとうち性病クリニック検査（アンケートから）

- 新たに参加した福山市・松山市・高松市のクリニックの受検者層を把握するために、岡山県での「もんげー性病検査」初期の受検者層と比較①した。
- さらに新規のクリニックの受検者を年齢層別に比較②した。
- 岡山県内のクリニックは2015年冬、2016年夏・冬の3期、新規のクリニックは2018年夏・冬、2019年冬の期間の受検者を分析対象とし、MSMに限定した。

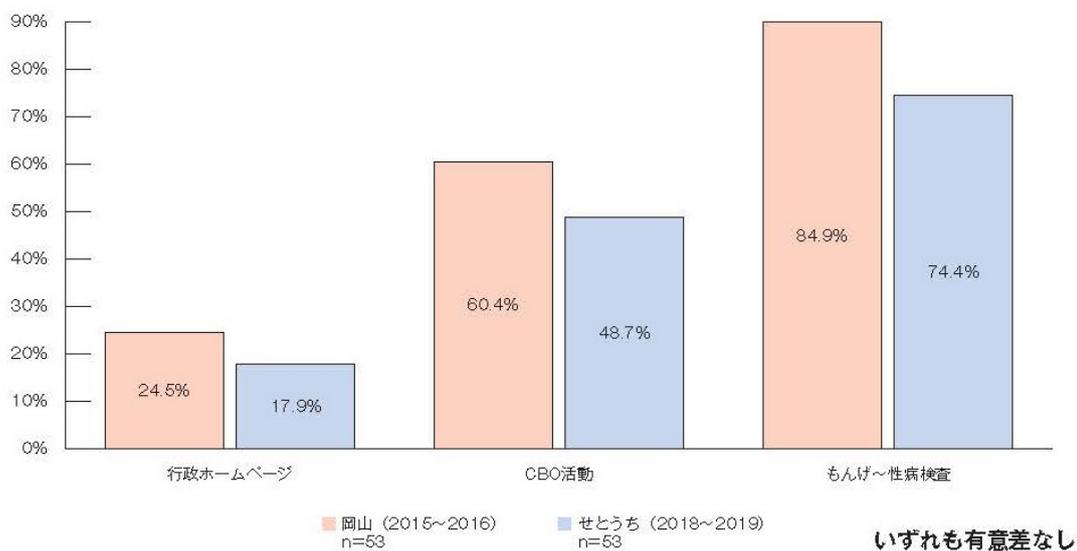
	岡山（2015～2016）	せとうち（2018～2019）
期 間	2015年冬、2016年夏・冬	2018年夏・冬、2019年冬
参加クリニック	よこやま腎泌尿器科クリニック たなか内科診療所 医療法人イマイクリニック ふちもとクリニック	アイネス内科クリニック ふくやま北泌尿器科・内科クリニック ほこいし医院 武智泌尿器科・内科 松木泌尿器科医院
回収数	54人	44人
性的指向による分類	MSM以外の男性：1人 女性：0人 MSM：53人	MSM以外の男性：3人 女性：2人 MSM：39人

■年齢層



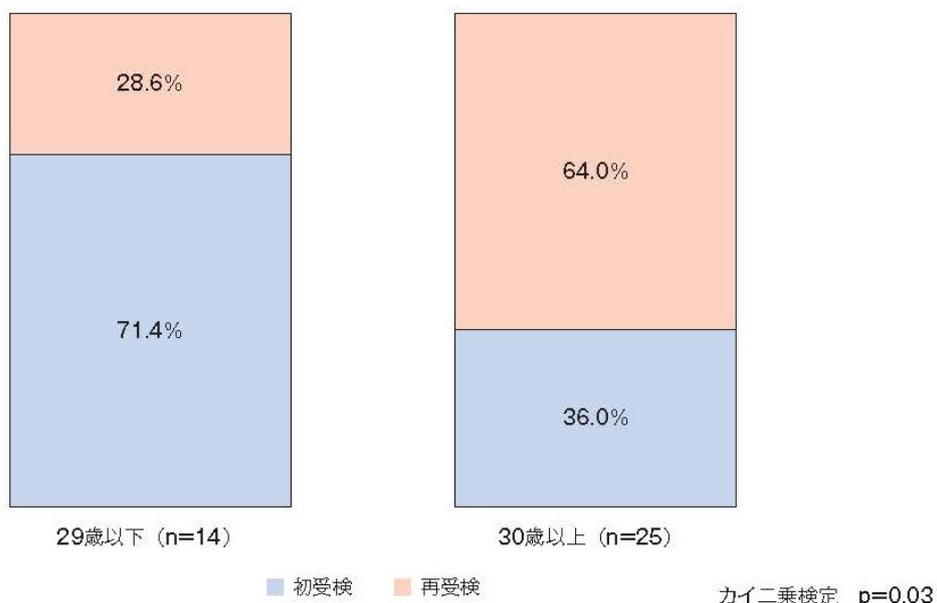
■①岡山とせとうち性病クリニック検査の受検者比較

啓発活動の認知



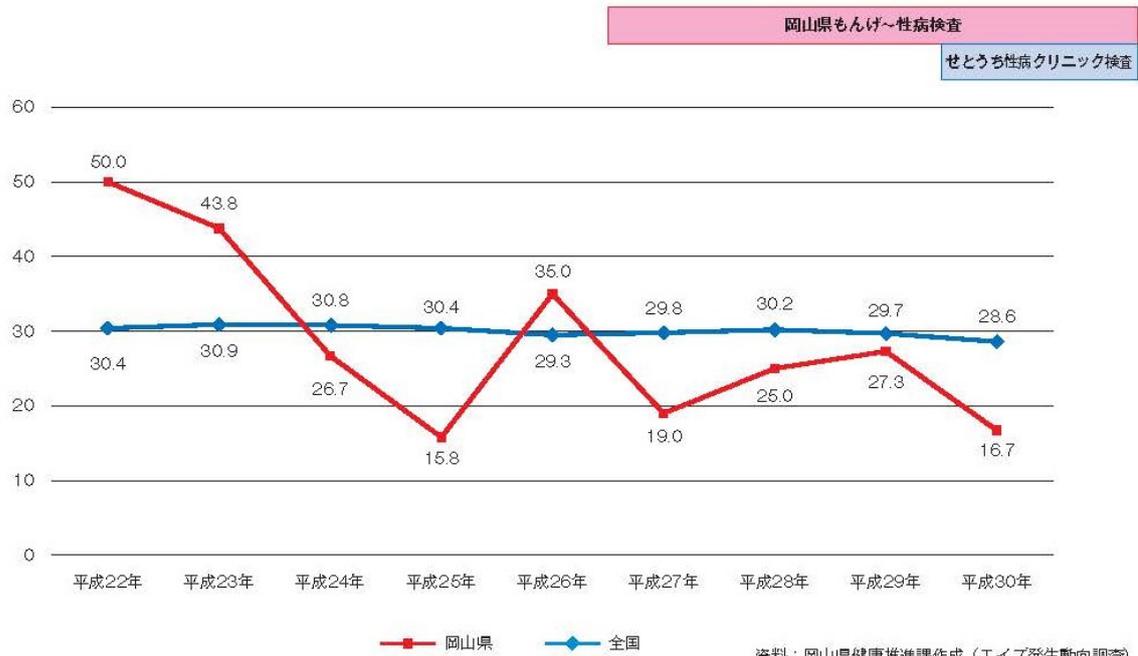
■②せとうち性病クリニック受検者の年齢層別比較

これまでのHIV抗体検査受検経験



■いきなりエイズ割合

いきなりエイズ割合



まとめ

- 地方都市では、検査行動は都市部より低く、啓発が肝要だが、ゲイNGOの活動基盤も脆弱であり広域連携など工夫が必要。
- 地方都市ではエイズに伴うスティグマはいまだに強く検査に対しても心理的障壁がある。新しい知見（TasP U=U）を浸透させ、スティグマを低減させていく必要がある。
- 岡山県では性病クリニック検査が事業化され、成果をあげている。
- 「せとうち性病クリニック検査」が中四国に拡大していく中で、クリニックが若年層MSMにとっても利用しやすい（29歳以下の若年層で初受検者の割合が71.4%）ことが明らかになった。
- 地方地域でのクリニック検査の活用は潜在的にニーズが高いと考えられ、それぞれの地域での事業化が望まれる。

この冊子は
MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究
分担研究3：地方における新たな検査機会の開発
—クリニック・診療所における検査機会の拡大—
研究分担者：和田秀穂（川崎医科大学血液内科学）の一環として製作されました。

2020年3月 第2刷

地方都市での陽性者の検査・予防サービスの接点に関する調査

研究代表者：金子典代（名古屋市立大学大学院看護学研究科 准教授）
研究協力者：健山正男（琉球大学大学院医学研究科）、宮城京子（琉球大学医学部附属病院）、
和田秀穂（川崎医科大学）、
高久陽介（日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス）、
高田清式（愛媛大学医学部）、伊藤俊広（仙台医療センター）、
山本政弘（九州医療センター）

研究要旨

地方都市に居住する HIV 陽性者の感染判明前の検査行動、医療機関の利用、予防介入との接触、ゲイ向け商業施設の利用状況、性行動については明らかになっていない点が多い。

本研究では、沖縄、中四国に居住し、地域の拠点病院に通院する過去 5 年に HIV 陽性が判明したものを対象とした。急性感染症状の有無と医療機関の受診、陽性判明前の性感染症罹患時の医療機関受診、検査行動、性行動、商業施設利用や啓発資材との接触を明らかにすることを目的とした。拠点病院に通院する陽性者の診断年はさまざまであるため、共同研究者が診療に従事する病院に通院する平成 25 年 1 月以降に HIV 感染が判明した男性に限定して実施した。質問紙は、拠点病院の医療者・看護職から説明、参加協力を依頼し、同意を得られた対象者から郵送にて回収を行う方法を採用した。中四国、九州ブロックにおけるエイズ治療の拠点病院に通院する陽性者へ質問紙を配布し、2019 年 12 月末時点までに 60 件のデータを回収した。本報告では MSM に限定し、地域別に分析を行った。総計 53 件の MSM の有効回答について分析を実施した。予防啓発をより効果的にするための意見など質的データを含むデータを収集し地域別に分析した。沖縄県、中四国と比較すると感染判明前の HIV 検査受検や出会いの場については差があるものの、いずれの地域でも急性感染期に医療機関を受診したが、HIV 検査を勧められた割合は 3 割にとどまり、性感染症の罹患歴があるが、罹患患者においても HIV 検査を勧められたのは 40% しかないことが示された。

A. 研究目的

我が国の HIV と AIDS の総報告数は、都市部の感染拡大抑制により横ばいに転じてきている。しかし地方都市では、都市部と比較して、AIDS を発症して感染が判明する患者が多く感染者も減っていない。この事態の背景には、地方都市では検査を受けていない感染リスク層が多いことが考えられる。より効果的な HIV 感染者の早期発見や感染リスク層への検査行動の促進を考えるにあたっては、HIV 陽性者の感染判明前の検査機会や検査行動をとりにくかった理由、またどのような商業施設を利用していたのかを明らかにすることはきわめて重要となる。しかし、地方都市に居住する HIV 陽性者の感染判明前の検査行動、医療機関の利用、予防介入との接触、ゲイ向け商業施設の利用状況、性行動については明らかになってい

い点が多い。

本研究では、沖縄、九州、中四国、東北地域の地方都市に居住する過去 5 年に HIV 陽性が判明したものにおける陽性判明前の検査行動、性行動および予防サービスの接点を明らかにすることを目的とする。

必要性・意義：AIDS 患者割合が多い地方都市において HIV 検査行動の促進と予防行動の推進は急務となっている。地方都市では、エイズ予防に充てる予算や人的資源が限られており、今までにまして効果・効率の良いプログラム考案が求められている。HIV 感染者の早期発見に資する効果的な検査勧奨、予防行動プログラムの考案には、近年に感染が判明した陽性者から得られる情報はきわめて重要である。

B. 研究方法

中四国、九州ブロックのエイズ診療拠点病院に通院する HIV 陽性者を対象に、横断型自記式質問紙調査を実施し、感染判明前の検査、医療機関の利用、予防啓発との接点を把握する。

本質問紙調査は、HIV 患者が通院する共同研究者が診療に従事する HIV 診療拠点病院において実施する。対象となる患者には、HIV 診療経験が豊富な医師・医療保健専門職が通院患者に質問紙を手渡しし、調査目的、参加条件を説明し、回答を依頼する。回答した質問紙は、封筒に本人に厳封してもらい、会場内に設置した鍵付き回収箱にて回収し、名古屋市立大学に郵送する。ただし、本人が質問紙に記載するスペースがない施設については、自宅で記入し、各自回答済み質問紙のポストへの投函を依頼する。

本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会、川崎医科大学、琉球大学医学系研究科に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

拠点病院に通院する陽性者の診断年はさまざまであり、病歴が長い陽性者からの陽性判明前の状況の記憶はバイアスがある可能性が指摘された。そのため、共同研究者が診療に従事する病院に通院する平成 25 年 1 月以降に HIV 感染が判明した男性に限定することとした。調査項目は、陽性判明前の性行動、急性感染の症状の認知、検査行動、を含むものとした(資料 1)。

2019 年 12 月末まで回収を行った。本報告では MSM に限定し、琉球大学からの 31 名、川崎医大を拠点に収集した 22 名の有効回答の分析を実施した。

C. 結果

回答者の基本属性、感染判明のきっかけ、感染判明前の知識、感染可能性の認識、医療機関へのアクセスについて表 1 の通りまとめた。

年齢層は幅広く分布しており、セクシュアリティはゲイが 69.8%、バイセクシュアルが 28.3%であった。感染したと思われるパートナーはその場限りのパートナーが 66.0%と最も多かった。

最初に HIV 陽性の告知を受けた機関は、病院、クリニックが 71.7%と最も多かった。感染したと思われる時期に、急性期の症状があったものが 52.8%と過半数を占めた。また症状をきっかけに医療機関を受診したものが 28 名中、25 名いた。しかしその際、HIV 検査を勧められたものは 8 名と 32%しかいなかった。また陽

性判明前に HIV 検査を受検したことがあるものは 34%にとどまった。

感染が判明した検査受検のきっかけは気になる症状や体調不良が沖縄、中四国ともに最も多かった。中四国の方が HIV 検査以外の病気や術前検査を契機としているものが多かった。

陽性判明時の診断については、沖縄の方が AIDS の割合が高かった。急性期症状については、沖縄、中四国とも過半数が「あった」と回答し、また 8 割以上が受診をしていた。

陽性判明前の HIV 感染症の基礎知識(感染源、感染行為、コンドーム予防効果)については 8 割以上が認識していた。

感染する可能性については、40-50%がまさか感染するとは思っていなかったと回答していた。

治療による延命効果や医療費補助制度については、基礎知識と比べて認知が低かった。

HIV 検査の感染判明前の受検経験は沖縄の方が高かった。しかし、受検者における直近検査については過去 1 年以上前のものが多かった。また検査未受検理由は「結果を知るのが怖かった」「感染している可能性がないと思った」がいずれの地域でも高かった。陽性判明前に罹患した STD としては梅毒が最も多かった。STD の診断を受けて HIV 検査を勧められたのは 40%しかいなかった。

陽性判明前のパートナーとの出会いの場は沖縄は出会い系サイト、有料のサウナ・ハッテン場が多く、中四国では、有料のサウナ・ハッテン場、その次がアプリと続いた。

D. 考察

本研究では、地方都市での検査アクセス、陽性判明前の性行動、急性感染に関する症状の認知を明らかにすることで、どこに今後予防介入のアプローチをかけていくかの基礎資料となる。陽性が判明した検査の理由は、体調不良が最多であった。判明前に検査行動がなかったものの未受検理由は、「結果を知るのが怖かった」が最多であり、感染のリスクを知らながらも恐怖感により受検ができていない可能性が示唆された。また、アナルセックスの感染リスクといったベーシックな知識はあるが、治療薬の進歩や医療費助成など新しい知識は浸透していないこと、急性期に受診しているのに、その 3 割しか HIV 検査を勧められていないことが示された。

何らかの性感染症の罹患歴があるが、罹患者においても HIV 検査を勧められたのは 40%にも満たない。感染判明前に利用した施設として

は、有料ハッテン場、野外ハッテン場が高く、有料ハッテン場はハイリスク層へのアプローチとして、重要な啓発の場であることが示唆された。

E. 結論

総計 53 件の MSM の有効回答について分析を実施した。予防啓発をより効果的にするための意見など質的データを含むデータを収集し地域別に分析した。沖縄県、中四国と比較すると感染判明前の HIV 検査受検や出会いの場については差があるものの、いずれの地域でも急性感染期に医療機関を受診したが、HIV 検査を勧められた割合は 3 割にとどまる。性感染症の罹患歴があるが、罹患率においても HIV 検査を勧められたのは 40% しかないことが示された。

F. 研究発表

1. 学会発表 (国内)

- 1) ○金子典代：MSM における HIV 検査受検、定期検査受検のハードルを下げるための試み。日本エイズ学会シンポジウム、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 2) ○金子典代：MSM に対する検査提供と予防介入の実践と変遷。シンポジウム 4、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 3) 高橋良介、石田敏彦、藤浦裕二、岩崎 誠、今橋真弓、金子典代：東海地域におけるゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした性感染症検査会の NGO による広報とその効果。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 4) ○金子典代、太田 貴、荒木 順、岩橋恒太、石田敏彦、宮田りりい、塩野徳史、玉城祐貴：コミュニティセンター来場者におけるセンターでの情報入手や相談経験、HIV 検査行動、新しい知識の浸透。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 5) ○岩橋恒太、金子典代、高野 操、岡 慎一、本間隆之、健山正男、玉城祐貴、市川誠一、荒木 順、木南拓也、生島 嗣、佐藤郁夫、福原寿弥、林田庸総、中山保世、小日向弘雄、今村顕史：MSM を対象とした郵送検査キット用いた HIV 検査「HIVcheck.jp」のベニューの拡大の試行。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 6) 宮田りりい、塩野徳史、金子典代：MSM (Men who have sex with men) に包摂される女装者たちの性行動や HIV 感染症に対する意識。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

- 7) Michiko Takaku, Myagmardorj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjams, Davaalkham Jagdagsuren, Seiichi Ichikawa, Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Shinichi Oka : Studies evaluating NGOs ' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia: Results of the internet surveys in FY 2013, 2014, 2017 and 2018. The 33rd Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Kumamoto, 2019.
 - 8) ○林田庸総、柏木恵莉、土屋亮人、高野 操、青木孝弘、湯永博之、菊池 嘉、岩橋恒太、金子典代、岡 慎一：乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 郵送検査の性質についての検討。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
 - 9) 岩橋恒太、金子典代、荒木 順、木南拓也、鈴木敦大、堅多敦子、今村顕史：MSM を対象とする、2018 年の A 型肝炎の拡大の注意喚起に関する効果評価調査。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
 - 10) 今村顕史、堅多敦子、岩橋恒太、荒木 順、金子典代、生島 嗣、西浦 博、齋藤涼平：MSM における A 型肝炎流行への対策と効果についての検討。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
 - 11) 金子典代：MSM に対する支援 何が必要か。シンポジウム 1、第 68 回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第 66 回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会、仙台、2019.
- ### 2. 学会発表 (国外)
- 1) ○Kota Iwahashi, Noriyo Kaneko, Misao Takano, Shinichi Oka, Takayuki Honma, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa, Jun Araki, Takuya Kinami, Yuzuru Ikushima, Ikuo Sato, Toshiya Fukuhara, Tsunefusa Hayashida, Nakayama Yasuyo, Hiroo Obinata, Akifumi Imamura: Dry Blood Spot-Based HIV Testing 'HIVcheck.jp' is a New Testing Opportunity for Men who have Sex with Men in Tokyo, Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.
 - 2) Kinami T, Fujiwara K, Suzuki A, Abe J, Araki J, Iwahashi K, Kaneko N, Honma T: The Outreach Programme "Delivery Health Project" as the Best Practice of HIV Prevention for MSM in Tokyo Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

無し

2. 実用新案登録

無し

3. その他

無し

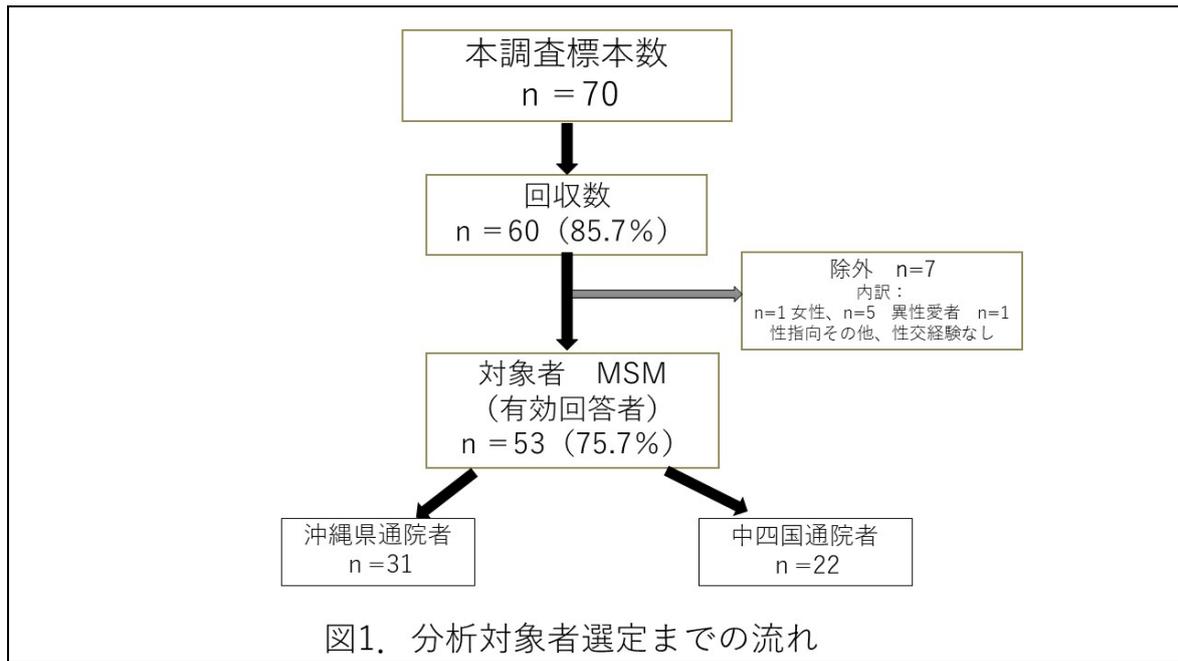
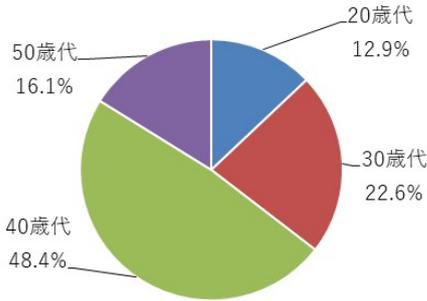


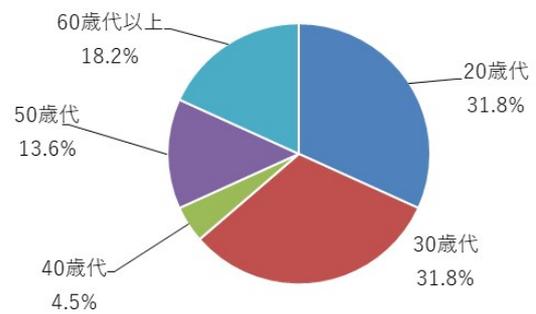
表1. 対象者の属性・急性期の受診行動・検査行動

	N	%		N	%
年齢			最初にHIV陽性の告知を受けた機関		
20歳代	11	20.8	病院	32	60.4
30歳代	14	26.4	医院・クリニック	6	11.3
40歳代	16	30.2	保健所・保健センター	13	24.5
50歳代	8	15.1	郵送検査・自己検査	2	3.8
60歳代以上	4	7.5	HIV陽性が判明した際、医師から受けた診断は以下のどれですか？		
セクシュアリティ			HIVキャリアー（エイズは発症していない）	30	56.6
男性同性愛者（ゲイ）	37	69.8	AIDS（エイズを発症している）	20	37.7
両性愛者（バイセクシュアル）	15	28.3	無回答	3	5.7
その他	1	1.9	HIVに感染したとき、HIVの急性期の症状はありましたか？		
職業			あった	28	52.8
公務員、会社員（正規雇用）	25	47.2	ない	8	15.1
パート・アルバイト・契約社員	12	22.6	覚えていない	17	32.1
自営業・自由業・経営	12	22.6	急性期症状があった方_その症状をきっかけに医療機関は受診しましたか？		
現在は働いていない	3	5.7	受診した	25	47.2
その他	1	1.9	受診していない	3	5.7
考えられる感染経路			非該当	25	47.2
同性間の性交渉	50	94.3	受診した医療機関では、HIV検査を勧められましたか？		
異性間の性交渉	2	3.8	勧められ、受けた	7	13.2
薬物の使用・回し打ち	1	1.9	勧められたが受けなかった	1	1.9
感染したと考えられるパートナー			勧められなかった	17	32.1
特定の相手（彼氏、恋人）	6	11.3	非該当	27	50.9
知り合いだが特定ではない相手（セックスフレンドなど）	8	15.1	陽性判明前にも、HIV検査を受けたことがありましたか？		
その場限りのパートナー	35	66.0	あった	18	34.0
わからない	4	7.5	なかった	35	66.0

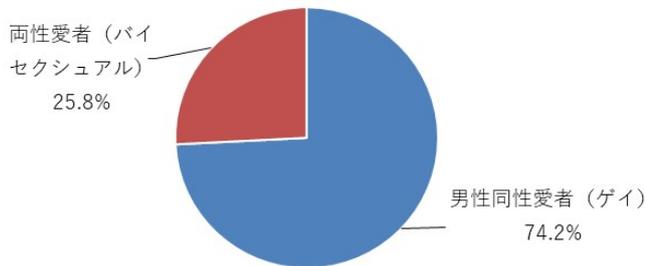
問1. 年齢(沖縄 n=31)



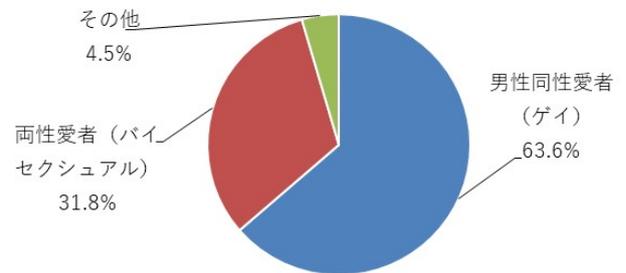
問1. 年齢(中四国 n=22)



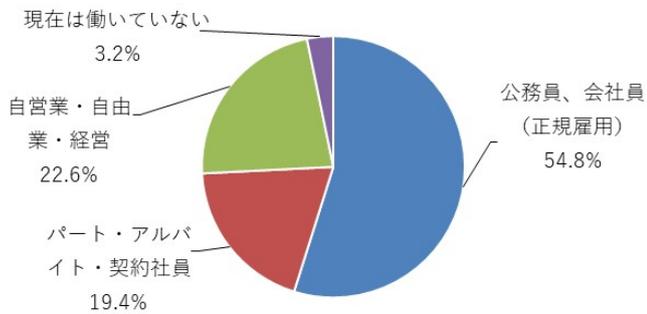
問4. セクシュアリティ(沖縄 n=31)



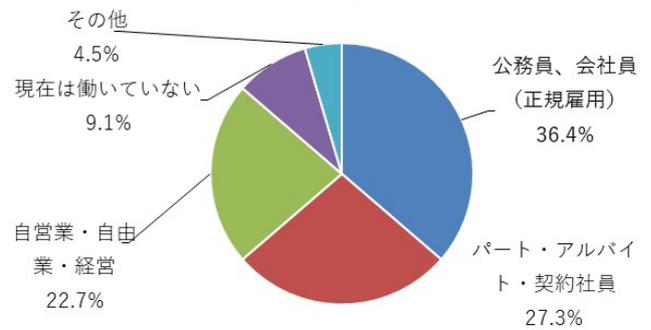
問4. セクシュアリティ(中四国 n=22)



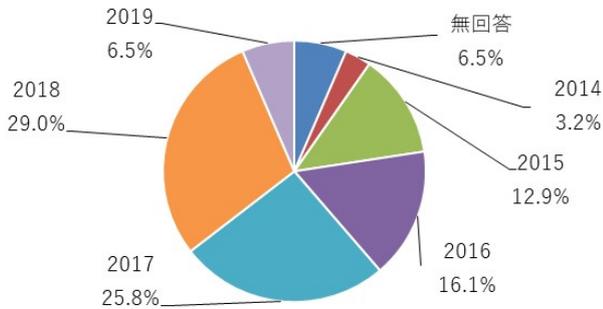
問5. 現在の職業(沖縄 n=31)



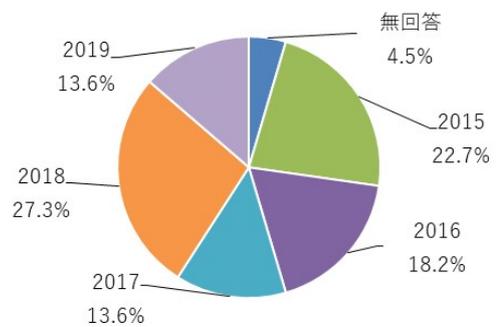
問5. 現在の職業(中四国 n=22)



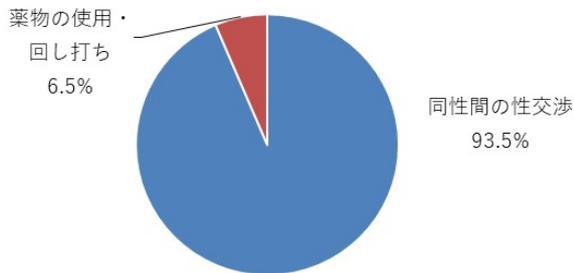
問6. 陽性診断を受けた年(沖縄 n=31)



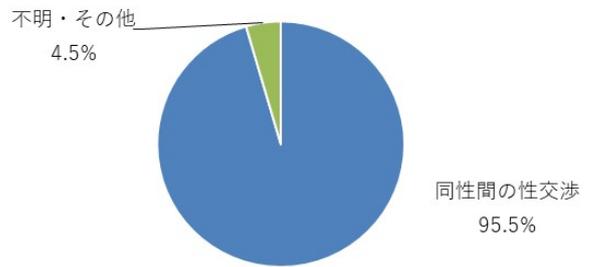
問6. 陽性診断を受けた年(中四国 n=22)



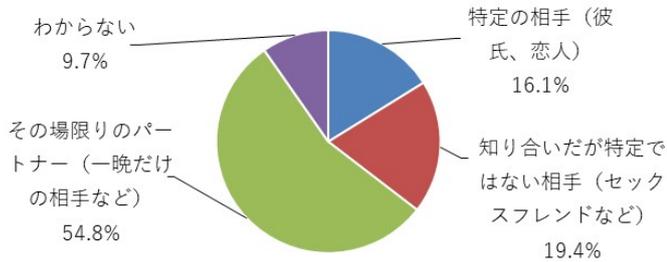
問7. 感染が考えられる行為(沖縄 n=31)



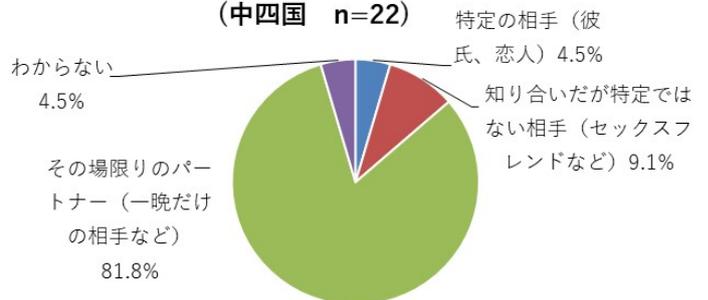
問7. 感染が考えられる行為(中四国 n=22)



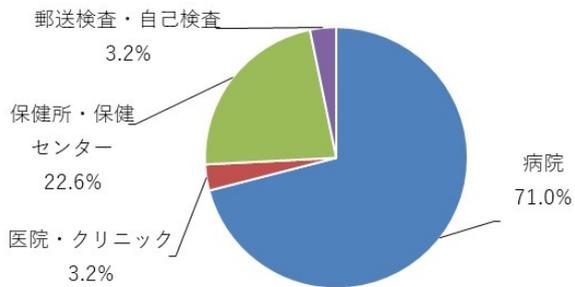
問8. 感染したと思われるパートナー(沖縄 n=31)



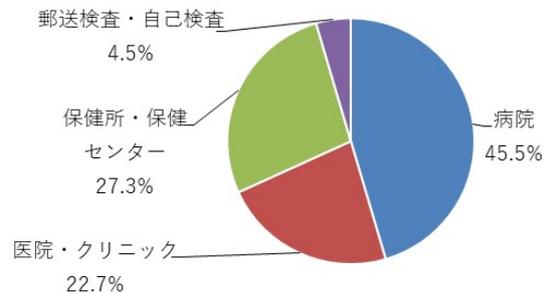
問8. 感染したと思われるパートナー(中四国 n=22)



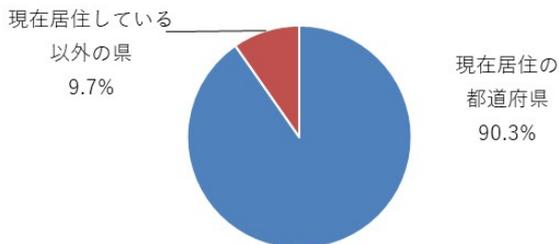
問9. 陽性の告知を受けた機関(沖縄 n=31)



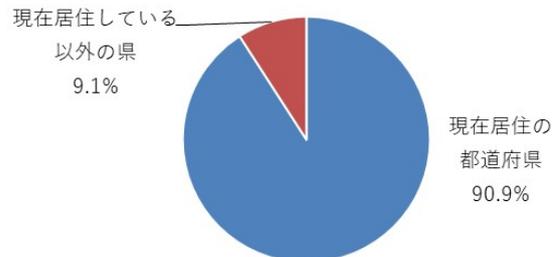
問9. 陽性の告知を受けた機関(中四国 n=22)



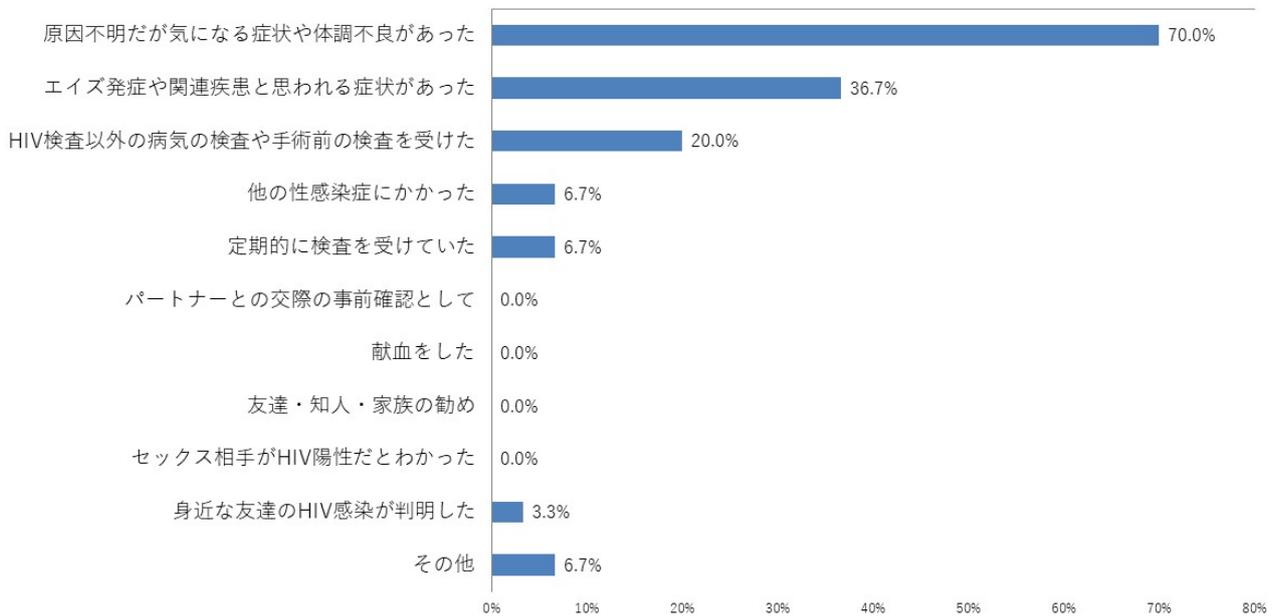
問10. 陽性判明検査を受けた都道府県(沖縄 n=31)



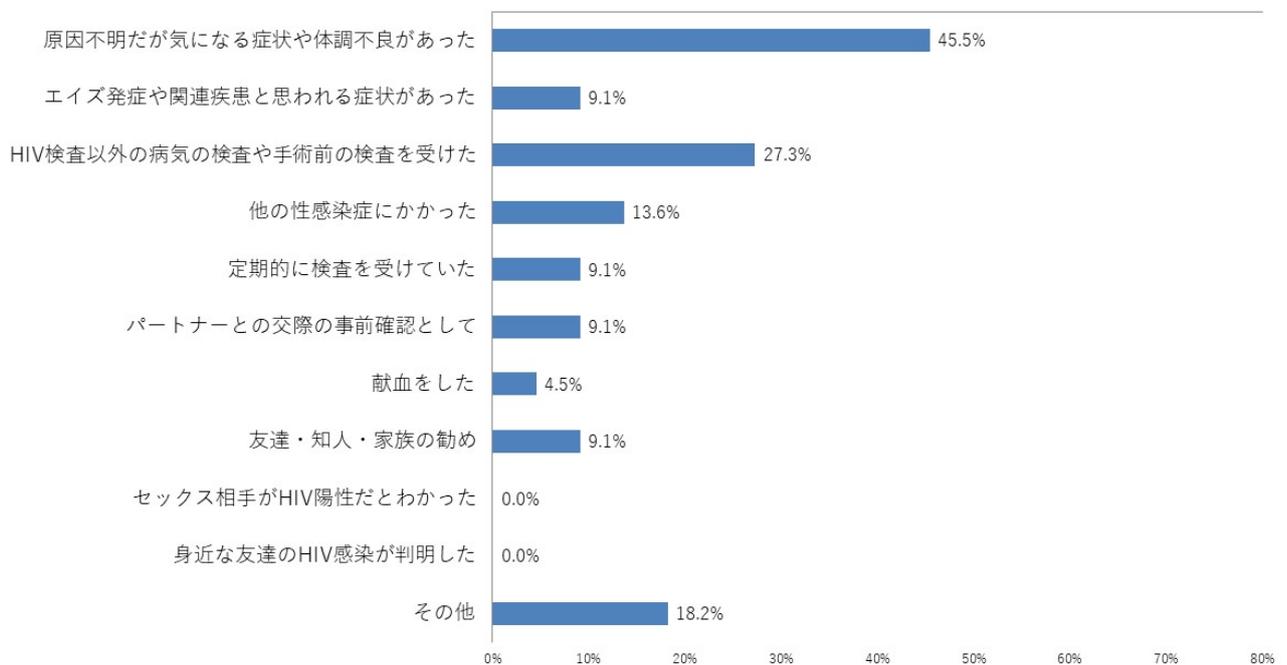
問10. 陽性判明検査を受けた都道府県(中四国 n=22)



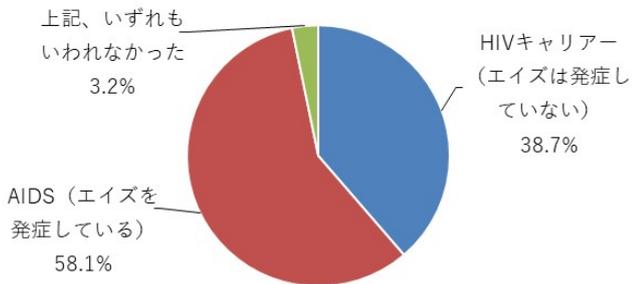
問11. 受検のきっかけ（複数回答）（沖縄 n=31）



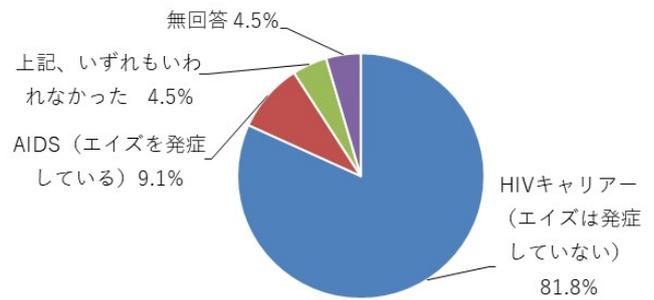
問11. 受検のきっかけ（複数回答）（中四国 n=22）



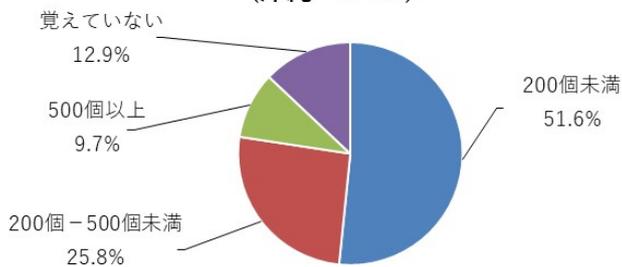
問12. 陽性判明時の診断(沖縄 n=31)



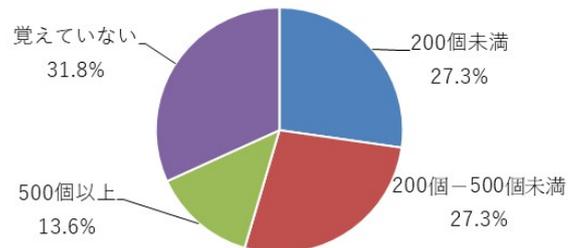
問12. 陽性判明時の診断(中四国 n=22)



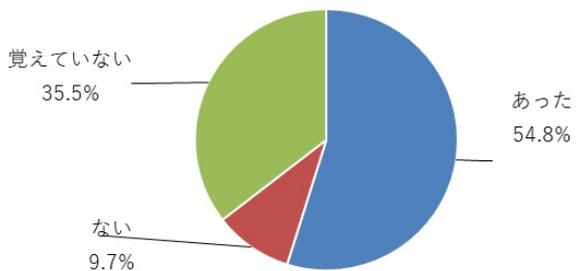
問13. 陽性判明時のCD4陽性Tリンパ球数 (沖縄 n=31)



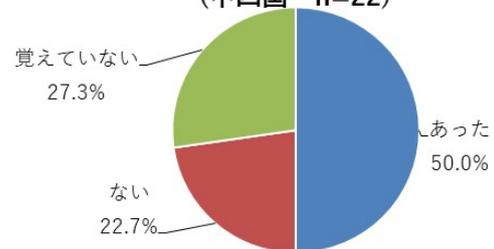
問13. 陽性判明時のCD4陽性Tリンパ球数 (中四国 n=22)



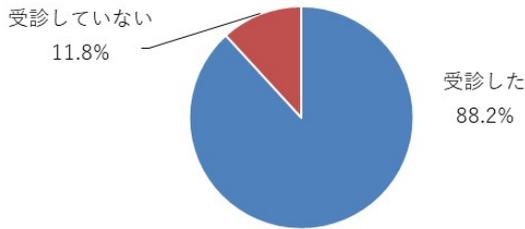
問14. HIVの急性期症状の有無(沖縄 n=31)



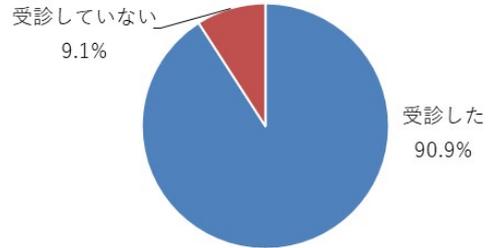
問14. HIVの急性期症状の有無 (中四国 n=22)



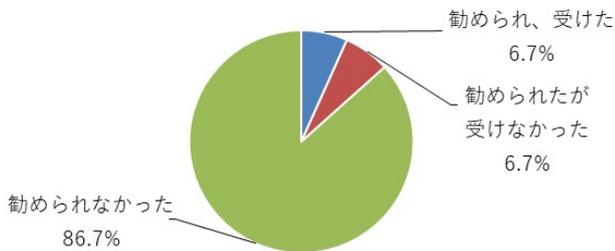
問14-1. 急性期症状のきっかけを受診したか
(沖縄 n=17)



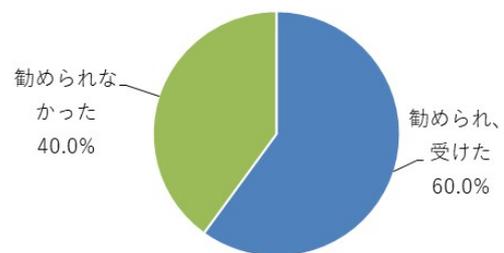
問14-1. 急性期症状をきっかけに受診したか
(中四国 n=11)



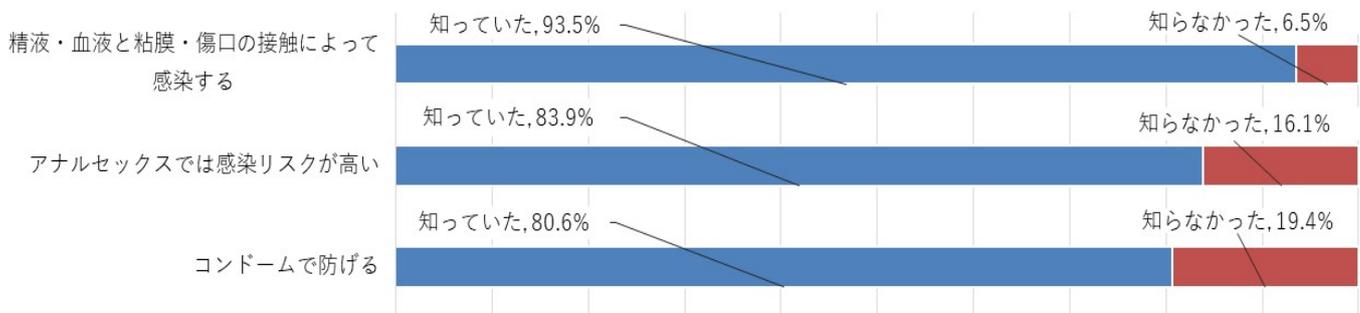
問14-2. 急性期症状による受診時にHIV検査を勧められたか(沖縄 n=15)



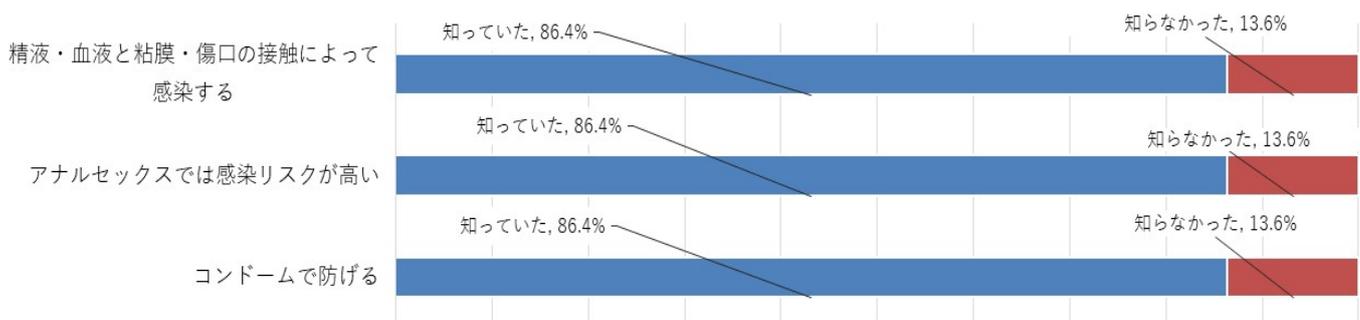
問14-2. 急性期症状による受診時にHIV検査を勧められたか(中四国 n=10)



問15. 陽性判明前のHIV感染症の情報認知度(沖縄 n=31)

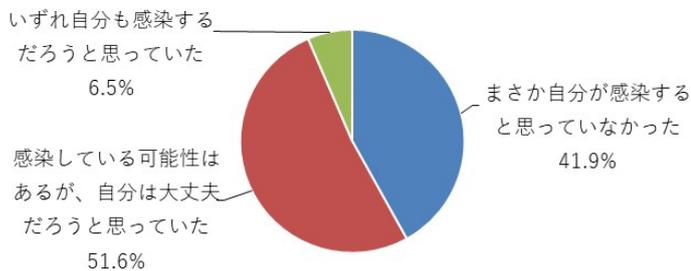


問15. 陽性判明前のHIV感染症の情報認知度(中四国 n=22)



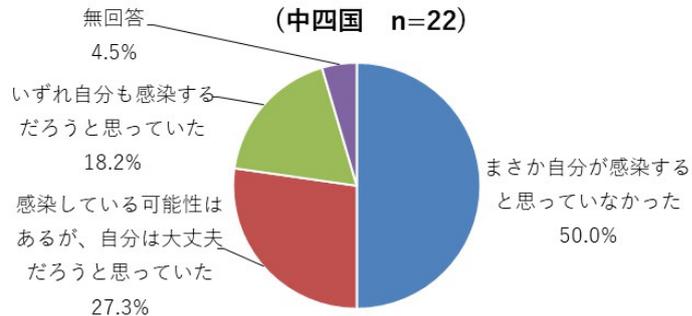
問16. 感染する可能性をどう思っていたか

(沖縄 n=31)

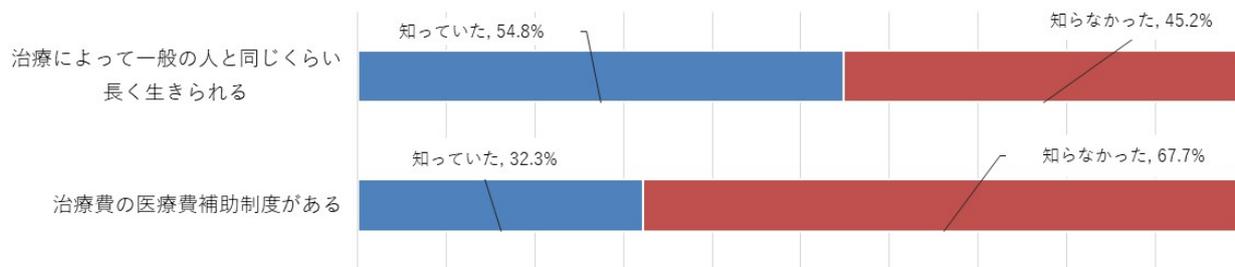


問16. 感染する可能性をどう思っていたか

(中四国 n=22)



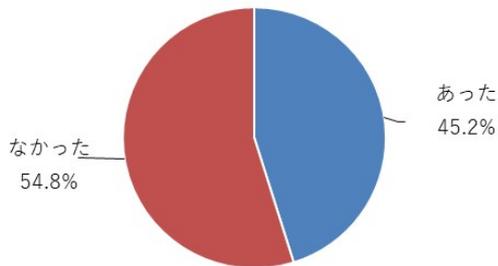
問17. 問18. 陽性判明前のHIV治療の情報認知度(沖縄 n=31)



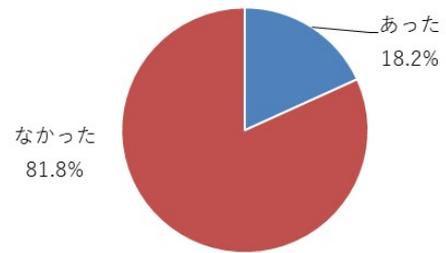
問17. 問18. 陽性判明前のHIV治療の情報認知度(中四国 n=22)



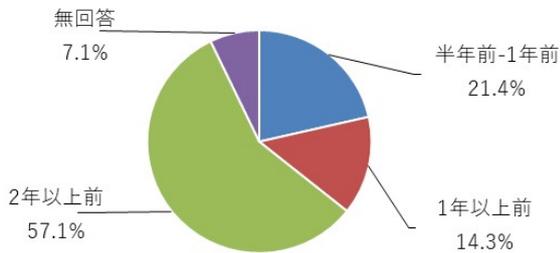
問19. 陽性判明前の受検経験(沖縄 n=31)



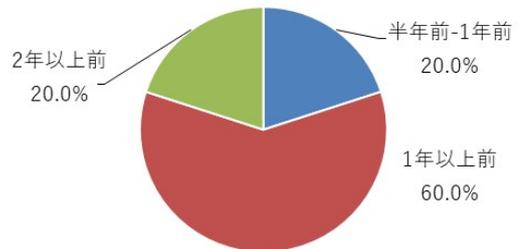
問19. 陽性判明前の受検経験(中四国 n=22)



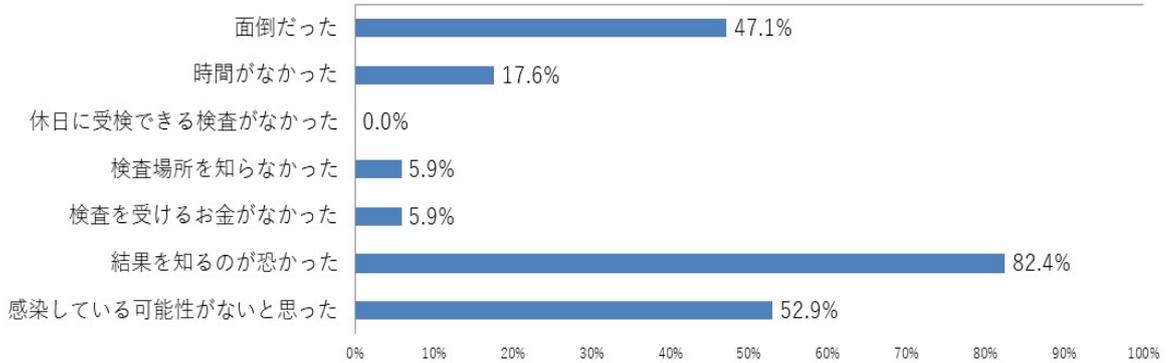
問20. 陽性判明前の最終受検時期
(沖縄 n=14)



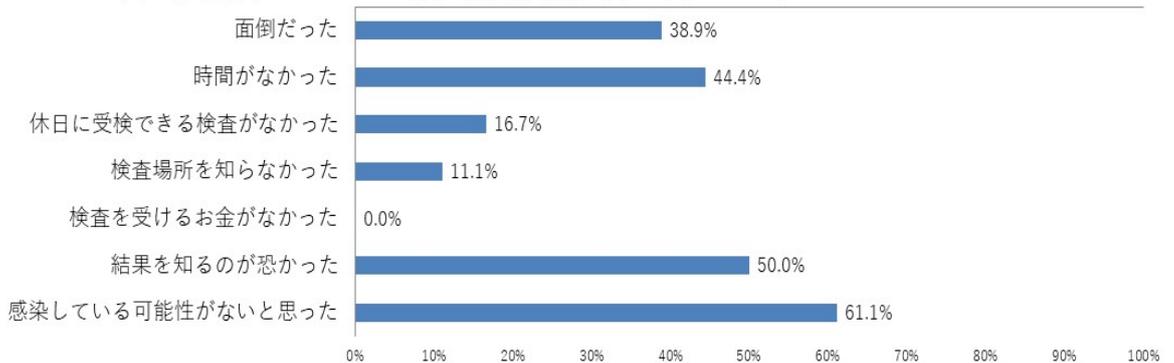
問20. 陽性判明前の最終受検時期
(中四国 n=5)



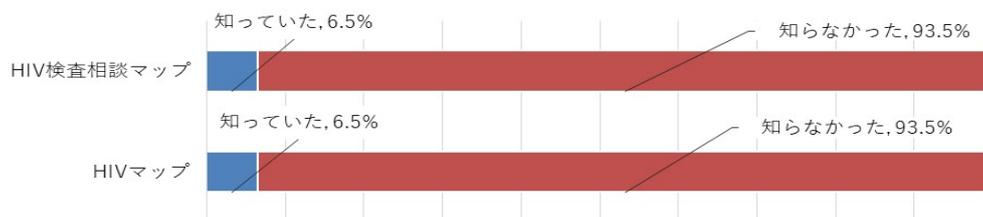
問21. 受検しなかった理由(複数回答)(沖縄 n=17)



問21. 受検しなかった理由(複数回答)(中四国 n=18)



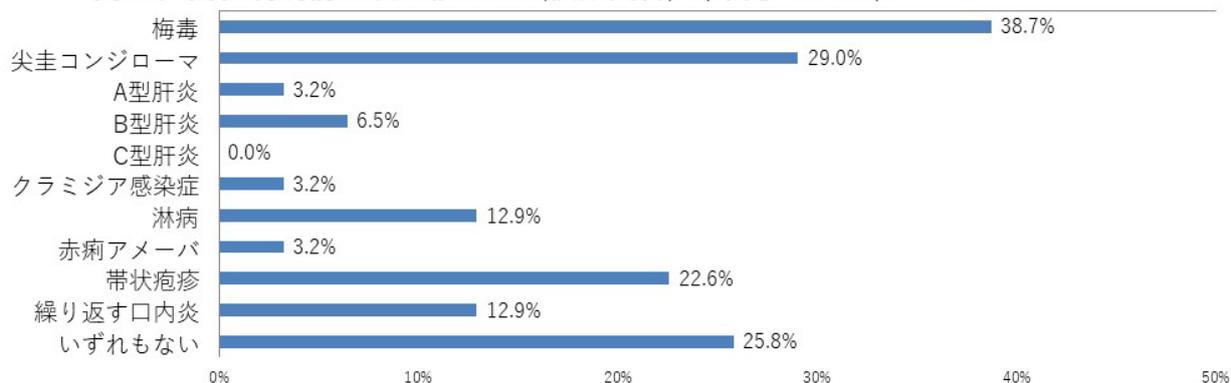
問22. 陽性判明前のサイト認知度(沖縄 n=31)



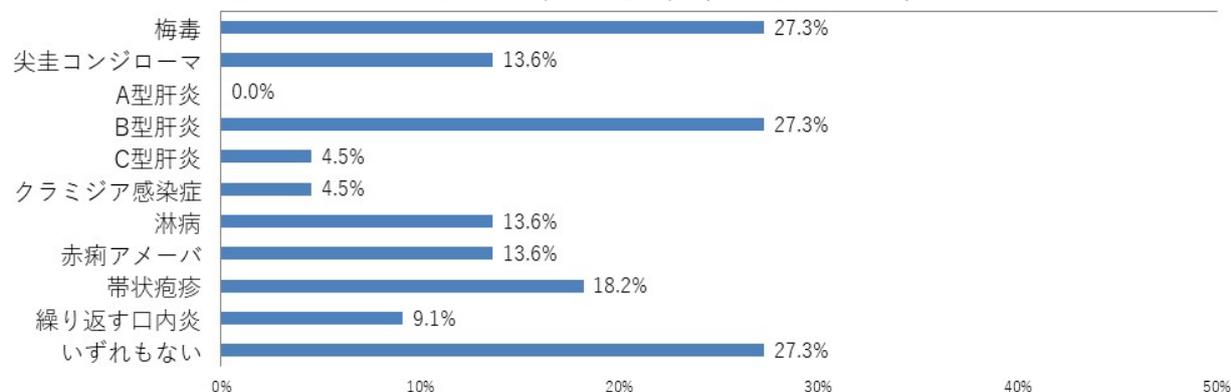
問22. 陽性判明前のサイト認知度(中四国 n=22)



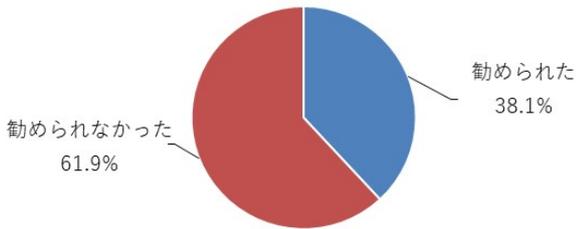
問23. 陽性判明前の疾患罹患歴(複数回答)(沖縄 n=31)



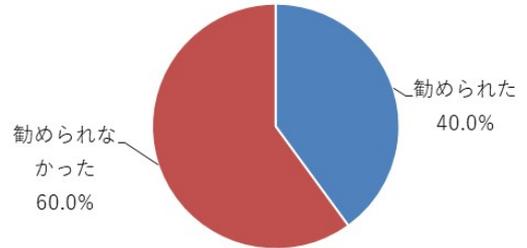
問23. 陽性判明前の疾患罹患歴(複数回答)(中四国 n=22)



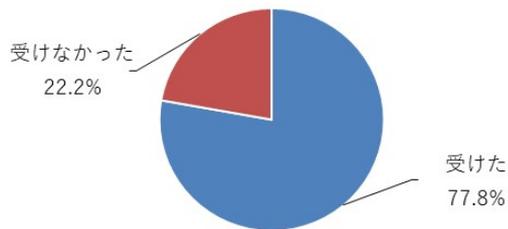
問23-1. 性病罹患による受診時にHIV検査を勧められたか(沖縄 n=21)



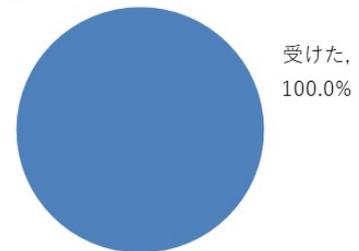
問23-1. 性病罹患による受診時にHIV検査を勧められたか(中四国 n=15)



問23-2. 勧められた検査を受けたか(沖縄 n=9)



問23-2. 勧められた検査を受けたか(中四国 n=6)



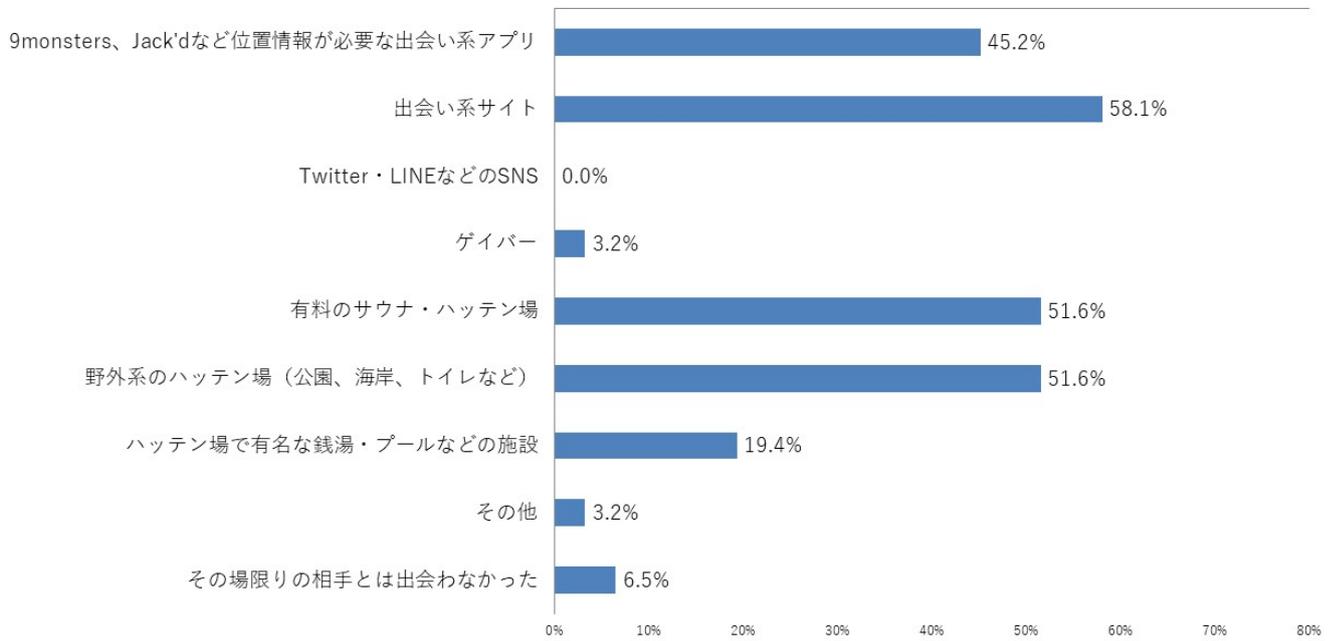
問24~26. 陽性判明前1年間のコンドーム使用頻度 (沖縄)



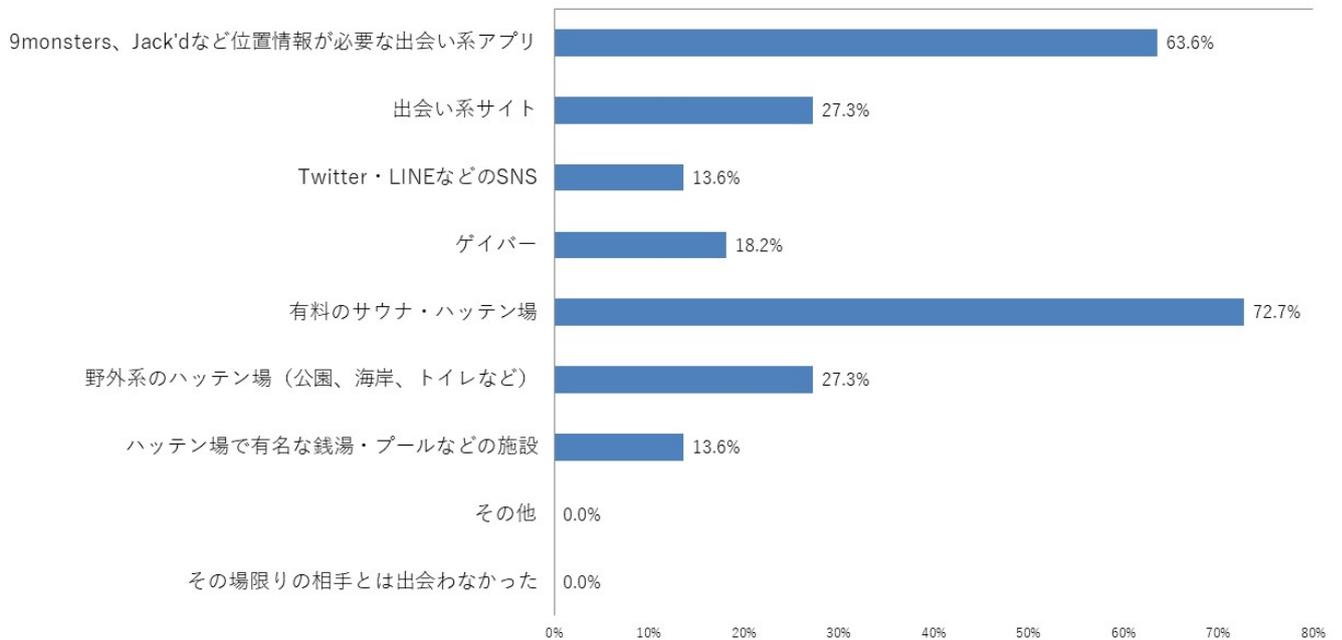
問24~26. 陽性判明前1年間のコンドーム使用頻度 (中四国)



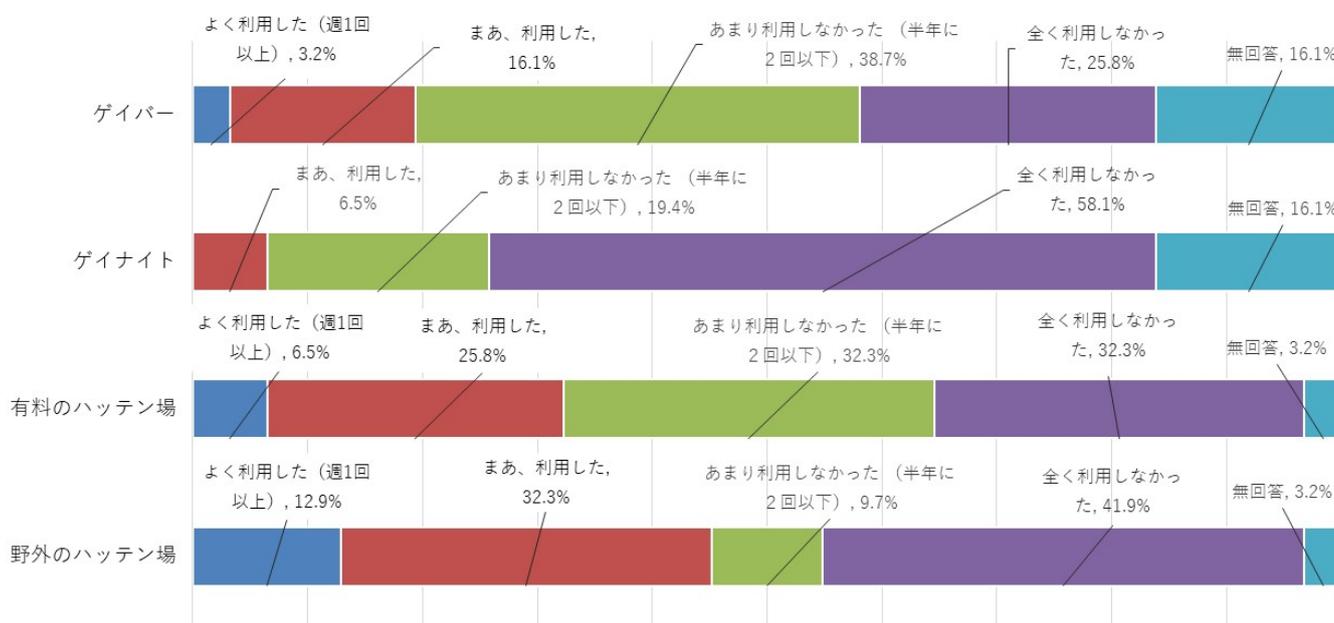
問27. 陽性判明前1年間のその場限りの相手との出会い場所（複数回答）（沖縄 n=31）



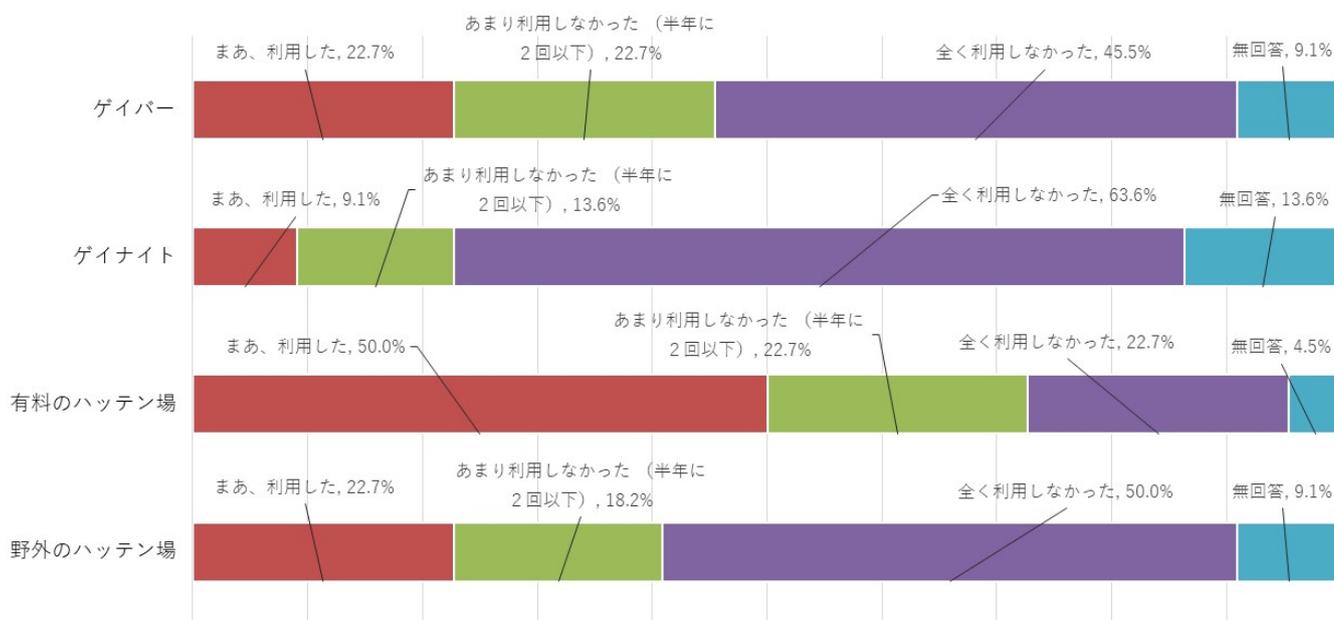
問27. 陽性判明前1年間のその場限りの相手との出会い場所（複数回答）（中四国 n=22）



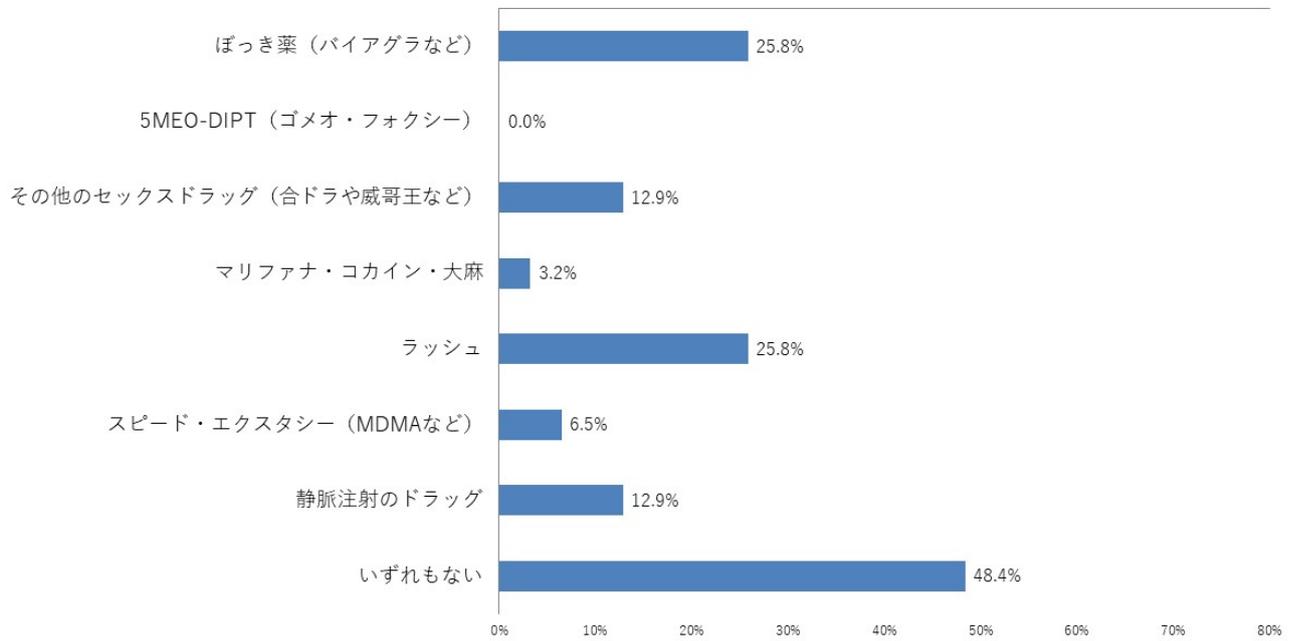
問28. 陽性判明前1年間の施設利用状況(沖縄 n=31)



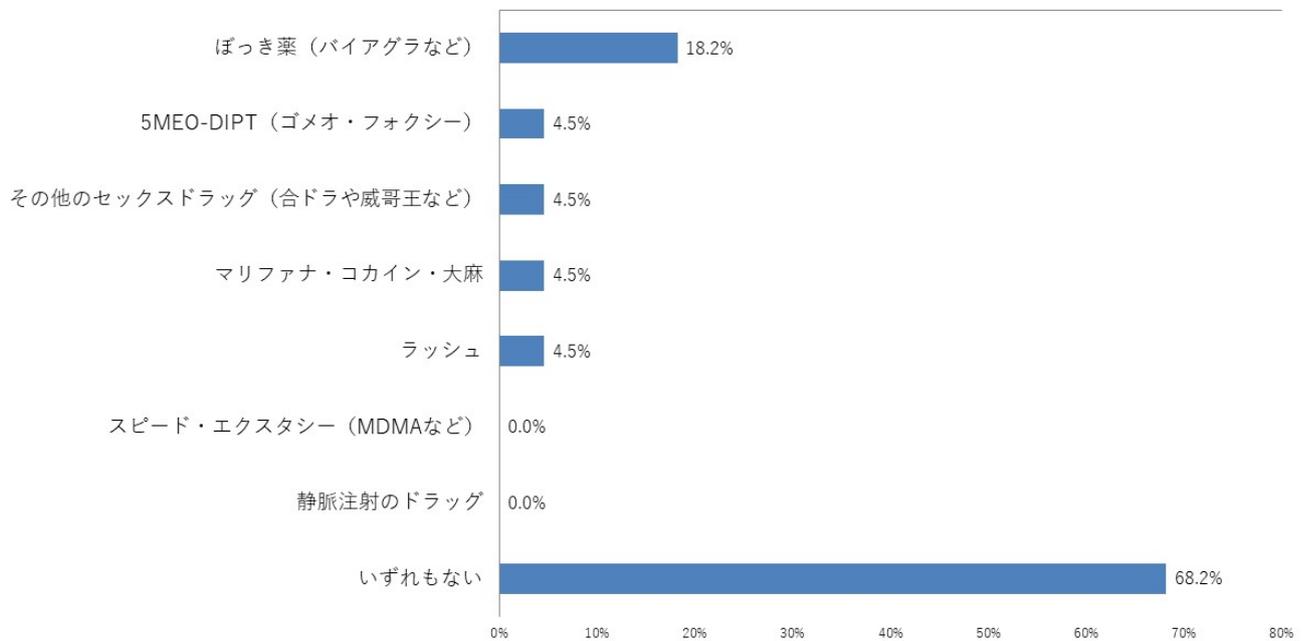
問28. 陽性判明前1年間の施設利用状況(中四国 n=22)



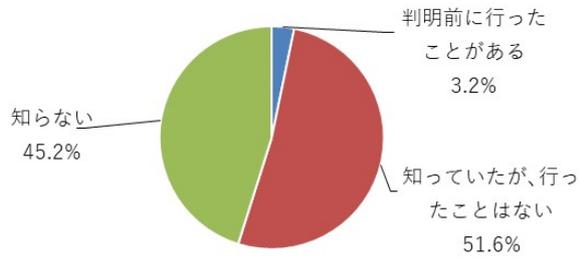
問29. 陽性判明前1年間のセックス時の使用薬物（複数回答）（沖縄 n=31）



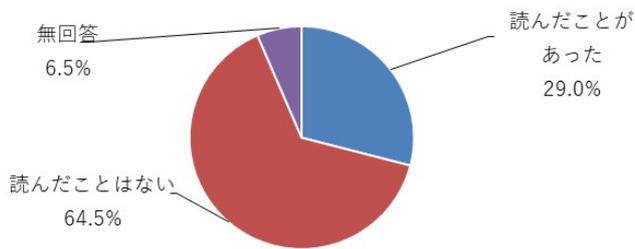
問29. 陽性判明前1年間のセックス時の使用薬物（複数回答）（中四国 n=22）



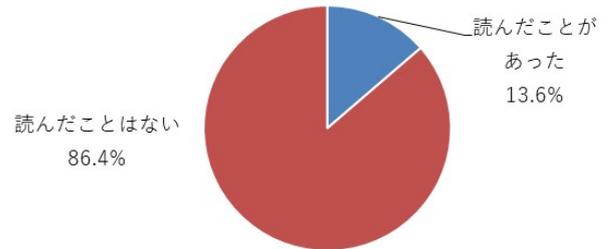
問30. 陽性判明前のコミュニティセンター
mabuiの認知度(沖縄 n=31)



問31. 陽性判明前のコミュニティペーパー
nankrの認知度(沖縄 n=31)



問31. 陽性判明前のコミュニティペーパー
Fight!!の認知度(中四国 n=22)



資料1 『健康状況・セクシュアルヘルスに関するアンケート』 調査項目

問1. あなたの年齢を教えてください。

1. 10歳代以下 2. 20歳代 3. 30歳代
4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代以上

問2. あなたの自認する性別をお答えください。(1つだけ○)

1. 男 2. 女 3. その他 ()

問3. あなたの住んでいる居住地はどちらですか。

() 都道府県

問4. あなたのセクシュアリティをお答え下さい。(1つだけ☑)

1. 男性同性愛者 (ゲイ) 4. 性同一性障害 (トランスジェンダー)
2. 両性愛者 (バイセクシュアル) 5. その他 ()
3. 異性愛者 (ヘテロセクシュアル)

問5. あなたの現在の職業で最も近いのはどれですか。(1つだけ☑)

1. 公務員、会社員 (正規雇用) 4. 学生
2. パート・アルバイト・契約社員 5. 現在は働いていない
3. 自営業・自由業・経営 6. その他 ()

問6. あなたが HIV 陽性の診断をうけたのは何年ですか? ()年

問7. あなたの HIV 感染が考えられる行為は以下のうちどれですか? (1つだけ☑)

1. 同性間の性交渉 3. 薬物の使用・回し打ち
2. 異性間の性交渉 4. 不明・その他 ()

問8. 感染したと思われるパートナーは以下のうちどれに当てはまりますか? (1つだけ☑)

1. 特定の相手 (彼氏、恋人)
2. 知り合いだが特定ではない相手 (セックスフレンドなど)
3. その場限りのパートナー (一晩だけの相手など)
4. 金銭を介した性交渉 (風俗サービスの利用や援助交際など)
5. その他 ()
6. わからない

問9. 最初に HIV 陽性の告知を受けた機関はどちらですか? (1つだけ☑)

1. 病院 4. 郵送検査・自己検査
2. 医院・クリニック 5. その他 ()
3. 保健所・保健センター

問10. HIV 陽性が判明した検査は、どちらの都道府県で受けましたか?

1. 現在居住の都道府県
2. 現在居住している以外の県 →→差し支えなければ県名をお教えてください ()

HIV 陽性が判明する前のご事情についてお伺いします

★問 15 陽性判明前、あなたは HIV 感染症に対する下記の情報を知っていましたか。(知っているものすべて☑)

1. HIV は精液・血液と粘膜・傷口の接触によって感染する
2. 特にアナルセックスでは HIV の感染リスクが高い
3. HIV はコンドームで防げる

★ 問 16. 陽性判明前に、あなたは自分が HIV に感染する可能性をどのように思っていましたか？
(1 つだけ☑)

1. まさか自分が感染すると思っていなかった
2. 感染している可能性はあるが、自分は大丈夫だろうと思っていた
3. いずれ自分も感染するだろうと思っていた

問 17. 陽性判明前に、「HIV に感染していても、治療によって一般の人と同じくらい長く生きることができると」いうことをご存知でしたか？ (1 つだけ☑)

1. 知っていた
2. 知らなかった

問 18. HIV の治療費について、医療費補助制度があるということをご存知でしたか？ (1 つだけ☑)

1. 知っていた
2. 知らなかった

問 19. 陽性判明前にも、HIV 検査を受けたことがありましたか？ (1 つだけ☑)

1. あった
2. なかった・・・◆問 21 へ

問 20 検査を受けたことがあった方にお尋ねします。最後の検査機会は、陽性判明前のどれくらい前ですか？ (ひとつだけ☑)

1. 半年前-1 年前
2. 1 年以上前
3. 2 年以上前

◆問 21 陽性判明までに検査を受けたことがなかった方にお聞きします。検査を受けなかった理由は何ですか？ (あてはまるものすべて☑)

1. 面倒だった
2. 時間がなかった
3. 休日に受検できる検査がなかった
4. 検査場所を知らなかった
5. 検査を受けるお金がなかった
6. 結果を知るのが怖かった
7. 感染している可能性がないと思っていた

問 22. あなたは HIV 陽性が判明する前、以下のサイトを知っていましたか？ (知っているサイトに☑)

1. HIV 検査相談マップ 

2. HIV マップ 

問 23 以下のうち、HIV 陽性が判明する前にかかったことのある疾患はありますか？（あてはまるものすべて☑）

- | | |
|--------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 1. <input type="checkbox"/> 梅毒 | 7. <input type="checkbox"/> 淋病 |
| 2. <input type="checkbox"/> 尖圭コンジローマ | 8. <input type="checkbox"/> 赤痢アメーバ |
| 3. <input type="checkbox"/> A型肝炎 | 9. <input type="checkbox"/> 帯状疱疹 |
| 4. <input type="checkbox"/> B型肝炎 | 10. <input type="checkbox"/> 繰り返す口内炎 |
| 5. <input type="checkbox"/> C型肝炎 | 11. <input type="checkbox"/> いずれもない・・・★問 24 へ |
| 6. <input type="checkbox"/> クラミジア感染症 | |

上記の疾患の診断を受けた病院での状況についてお聞きします。

問 23-1) 病院では HIV 検査を勧められましたか？

1. 勧められた
2. 勧められなかった・・・★問 24 へ

問 23-2) 勧められた検査を受けましたか？

1. 受けた
2. 受けなかった

今からプライバシーにかかわることをお聞きします。プライバシーは守られますので、どうかご協力を願います。男性（同性）との性行為で感染したと思われる方は以下の★問 24 から、異性のパートナーとの性行為で感染したと考えられる方は、◆ 問 32 から回答ください。

陽性が判明する前 1 年間の性行動についてお伺いします。覚えている範囲でお答えください。

★問 24 陽性が判明する前の 1 年間、特定の付き合っている相手（彼氏、恋人、パートナー）との性交渉でコンドームはどのくらい使用していましたか？

1. 特定の相手とセックスはしなかった
2. コンドームを必ず使った
3. 使ったり使わなかったりした
4. 使わなかった
5. 特定相手はいなかった

問 25 陽性が判明する前の 1 年間、友達やセックスフレンド（セクフレ）など、恋人ではない特定の相手とのセックスのときコンドームはどのくらい使いましたか？

1. 友達やセクフレとセックスはしなかった、またはセクフレはいなかった
2. コンドームを必ず使った
3. 使ったり使わなかったりした
4. 使わなかった

問 26 陽性が判明する前の1年間、その場限りの相手とのセックスのときコンドームはどのくらい使いましたか？

1. その場限りの相手とセックスはしなかった
2. コンドームを必ず使った
3. 使ったり使わなかったりした
4. 使わなかった

問 27 陽性が判明する前の1年間、その場限りの相手とどこで会いましたか？(あてはまるものすべて)

1. 9monsters、Jack' d など位置情報が必要な出会い系アプリ
2. 出会い系サイト
3. Twitter・LINE などの SNS
4. ゲイバー
5. 有料のサウナ・ハッテン場
6. 野外系のハッテン場 (公園、海岸、トイレなど)
7. ハッテン場で有名な銭湯・プールなどの施設
8. その他 ()
9. その場限りの相手とは出会わなかった

問 28 陽性が判明する前の1年間、下記の施設をどのくらい利用していましたか？

	よく利用した (週1回以上)	まあ 利用した	あまり利用しなかった (半年に2回以下)	全く利用しな かった
1) ゲイバー	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
2) ゲイナイト	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
3) 有料のハッテン場	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
4) 野外のハッテン場	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4

問 29 陽性が判明する前の1年間、あなたは下記のものをセックス時に使用したことがありますか？
(あてはまるものすべてに☑)

***回答はすべて厳重に管理され、あなたが特定されたり不利益を受けたりすることは一切ありません。**

- | | |
|------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| 1. <input type="checkbox"/> ぼつき薬 (ハイグーラなど) | 5. <input type="checkbox"/> ラッシュ |
| 2. <input type="checkbox"/> 5-MEO-DIPT (ゴメタ・フォクシー) | 6. <input type="checkbox"/> スポーツ・エクスタシー (MDMA など) |
| 3. <input type="checkbox"/> その他のセックスドラッグ (合ドラや威哥王など) | 7. <input type="checkbox"/> 静脈注射のドラッグ |
| 4. <input type="checkbox"/> マリファナ・コカイン・大麻 | 8. <input type="checkbox"/> いずれもない |

問 30 HIV 陽性が判明する前、あなたは以下のコミュニティセンターを知っていましたか？

1. ZEL
(宮城県仙台市)



- 1 判明前に行ったことがある
2 知っていたが、行ったことはない
3 知らない

2. akta
(東京都新宿区)



- 1 判明前に行ったことがある
2 知っていたが、行ったことはない
3 知らない

3. SHIP
(神奈川県横浜市)



- 1 判明前に行ったことがある
2 知っていたが、行ったことはない
3 知らない

4. rise
(愛知県名古屋市)



- 1 判明前に行ったことがある
2 知っていたが、行ったことはない
3 知らない

5. dista
(大阪府大阪市)



- 1 判明前に行ったことがある
2 知っていたが、行ったことはない
3 知らない

6. HACO(福岡県福岡市)



- 1 判明前に行ったことがある
2 知っていたが、行ったことはない
3 知らない

7. mabui
(沖縄県那覇市)



- 1 判明前に行ったことがある
2 知っていたが、行ったことはない
3 知らない

問 31. HIV 陽性が判明する前、あなたは次のコミュニティペーパーを知っていましたか？

1. コミュニティペーパー
ZEL



- 1 読んだことがあった
2 読んだことはない

2. コミュニティペーパー
h. a. n. a.



- 1 読んだことがあった
2 読んだことはない

3. 季刊誌 南界堂通信



- 1 読んだことがあった
2 読んだことはない

4. ゲイコミュニティペーパー
—Fight!



- 1 読んだことがあった
2 読んだことはない

5. コミュニティペーパー
nankr



- 1 読んだことがあった
2 読んだことはない

よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 講師）

研究協力者：太田貴（やろっこ）、星野慎二（NPO 法人 SHIP）、荒木順（NPO 法人 akta）、
石田敏彦（ANGEL LIFE NAGOYA）、後藤大輔、町登志雄（MASH 大阪）、
宮田りりい（SWASH）、新山賢（HaaT えひめ）、玉城祐貴（nankr 沖縄）

研究要旨

本研究では横断調査によって、よりハイリスクな MSM 層の実態を把握することを目的としている。当初の計画では初年度は機縁法により事前調査、2-3 年目に本調査の実施と介入の試行を行うこととしていたが、分析可能な対象者数の回答を得ることや、先行研究との比較を行うことを踏まえ、計画を変更して初年度には 2 地域で質問紙調査を実施することとした。初年度には調査内容について男性同性愛者を中心とする当事者団体らと検討し、先行研究で用いられた質問項目に加えインターネット利用に関する項目、新たな知識となる Treatment as Prevention や PrEP の知識についての項目を追加し、2018 年 1 月 12 日から 2 月 12 日の 1 ヶ月間、中四国地域および横浜、仙台で調査を実施した。また 2 年目は、名古屋地域で 2018 年 12 月 15 日から 1 月 15 日、3 年目には沖縄地域で 2019 年 11 月 9 日から 12 月 8 日の 1 ヶ月間、同様の調査を実施した。また大阪、沖縄、東京地域ではインターネットを利用した質問紙調査を実施し、地域ごとに単純集計で分析した。

A. 研究目的

先行研究では MSM における生涯受検割合は 6 割～7 割程度、過去 1 年間の受検割合は 3 割程度にとどまっている。

未受検者や定期的な受検習慣がない MSM の中には、薬物使用者や経済的困窮者、セックスワーカー、ネットワークが希薄な地方地域在住の MSM 等、感染リスクの高い層が含まれると考えられる。また予防啓発が届いていない層では HIV/AIDS に関する意識や知識、およびスティグマは従来のものであると考えられ、効果的な予防介入の浸透が阻害されている可能性もある。これらの層は従来の予防介入では届かなかった層であり、MSM の中でもより HIV 感染リスクの高い層である。今後予防介入はよりハイリスクな MSM 層に焦点化して展開していく必要があり、本研究では横断調査によって、よりハイリスクな MSM 層の実態を把握することを目的としている。また、最終的には各地域の CBO で連携してよりハイリスクな層に有効な介入方法を検討し、試行と効果評価の方法を検討することも目的としている。

B. 研究方法

当初の計画では初年度は機縁法により事前調査、2-3 年目に本調査の実施と介入の試行を

行うこととしていたが、分析可能な対象者数の回答を得ることや、先行研究との比較を行うことを踏まえ、計画を変更して初年度に 3 地域（東北、横浜、中四国）で質問紙調査を実施した。2 年目は 3 地域（名古屋、大阪、沖縄）で質問紙調査を実施した。3 年目にはさらに 2 地域（沖縄、東京）で質問紙調査を実施した。

方法は先行研究と同様に、各地域の CBO がゲイ向け商業施設利用者を対象に HIV に関する知識の提供や検査行動の促進を目的にした活動を展開していることをふまえ、これらの CBO を介して、ゲイ向け商業施設に調査協力を依頼し、質問紙調査を商業施設スタッフから利用者に配布する仕組みとした。同意の得られた商業施設にアンケートセットを配布し、従業員から利用者に直接手渡され、利用者が記入後厳封し、商業施設にある回収袋に投函する方法とした。回答者には謝礼として商業施設で使用可能なチケット（1,000 円相当）と調査依頼書をアンケートセットに同封して、無記名自記式の質問紙と一緒に配布した。2 年目は 2 地域（大阪、沖縄）の活動状況を踏まえ、インターネットを利用した質問紙調査で実施した。名古屋地域では前年度と同様の方法で実施した。加えて 3 年目は東京でインターネットを利用した質問紙調査を、沖縄地域では他地域と同様の方法で

ゲイ向け商業施設利用者を対象とした質問紙調査を実施した。

調査項目は先行研究と同様の項目を活用し、基本属性、過去6ヶ月間の商業施設など利用経験、予防啓発活動の認知、ソーシャル・キャピタル、HIV抗体検査受検経験、検査の未受検理由、性行動および予防行動とした。また以下の項目を追加した。本研究ではよりハイリスクなMSM層の実態を把握することを目的としているため、CBOスタッフと検討し、これまで意識的に予防介入を行ってこなかった層を特定する項目として、以下のインターネット利用に関する項目を追加した。

- 過去6ヶ月間に、以下のSNSや掲示板を活用して、画像や文字を投稿しましたか？
- 前問でチェックした、SNSや掲示板、アプリに、自分の顔や身体画像を投稿したことがありますか？
- 前問で、チェックしたSNSや掲示板に、裏アカウント持っていますか？
- 前問で、チェックしたSNSや掲示板であった相手とセックスしたことがありますか？

先行研究では、商業施設利用者の中でもインターネットを利用した出会いを積極的に行う層における感染リスクの高さが報告されているが、MSMにおけるインターネット利用の方法も多様性があることについて明らかにした研究はみあたらない。検討する中で、新たに追加した項目のような経験を有する人は感染リスクの高い層であると思われるが、よりハイリスクな層に焦点をあてて予防啓発を進めるためには、まず、彼らの動向を明らかにする必要があると考えた。

また新たな知識となるTreatment as PreventionやPrEPの知識について以下の項目も追加し、HIV/AIDSに関する知識や意識の状況を把握することにした。

- あなたは、抗HIV薬(ウイルスの増殖を抑える薬)の服薬治療により、体内のウイルス量が検出限界未満となり、それを維持することで、HIVを他者に感染させる可能性がほとんどゼロに近くなることを知っていますか？
- 「HIV感染予防のためのセックス前の服薬(PrEP, プレップ)」や「HIVに感染したかもしれないときの予防服薬(PEP, ペップ)」に関する上記のような情報について、知っていましたか？

か？
 あなたの友達や知り合い、セックスの相手で、HIV陰性者(HIVに感染していない人)の中に「HIV感染予防のためのセックス前の服薬(PrEP, プレップ)」をしている人はいると思いますか？

あなたは、「HIV感染予防のためのセックス前の服薬(PrEP)」を服薬したいと思いますか？

新たな知識については、ゲイコミュニティにおける啓発普及の必要性が指摘されている。日本の現状として、これらの認知が低いことは先行研究で報告されているが、一方コミュニティではPEPやPrEPについてはインターネットの情報を見て問い合わせがあったり、個人輸入等の動きも少ないが存在する。結果的にリスクな行為を望んでいる層がPrEPのことを知れば、余計にアンダーグラウンドに潜っていく可能性も考えられる。またTasPについてはHIVを持っている人に対するスティグマの払拭につながるが、コミュニティに情報を提供するときには、TasPについて気軽に伝えられる環境が整っていることも重要である。本調査では、上記のような意見交換をふまえ、まず初めに、新たな知識や意識がどの程度浸透しているかを把握することを目的とした。

さらに男性同性愛者を中心とする当事者団体(東北：やろっこ、首都圏：NPO法人akta・NPO法人SHIP、東海：ANGEL LIFE NAGOYA、近畿：MASH大阪、中四国：HaaT えひめ/BRIGEプロジェクト、沖縄県：nankr 沖縄)と共同し、当事者参加型で検討を進め、男性同性愛者の社会的文脈に沿った調査項目となるよう検討し作成した。なお、本研究は大阪青山大学倫理審査委員会の承認を得て実施した。

C. 研究結果

実施状況

中四国地域では7県のゲイバー40店舗から協力を得られ、総計780部の質問紙を配布し、568部回収した(回収率72.8%)。また横浜では20店舗のゲイバーおよびハッテン場から協力を得られ、総計340部の質問紙を配布し、279部回収した(回収率82.1%)。仙台では、10店舗のゲイバーおよび売り専から協力を得られ、総計170部の質問紙を配布し、137部回収した(回収率80.6%)。名古屋地域ではゲイバー24店舗から協力を得られ、総計580部の質問紙を配布し、369部回収した(回収率63.6%)。沖縄地域ではゲイバー27店舗から協力を得られ、総計590部の質問紙を配布し、313部回収した(回収率53.1%)。

中四国地域、および横浜、仙台、名古屋、沖縄地域をあわせた総数は、3年間でゲイ向け商業施設 121 店舗の協力を得て、総計 2,460 部の質問紙を配布し、1,666 部回収した（回収率 67.7%）。結果を表 1 に示した。

インターネットを利用した質問紙調査で実施した大阪地域では有効回答数は 142 件であり、沖縄地域では 100 件で、東京地域では 118 件であった。結果を表 2 に示した。

また調査方法別、地域別に分析した結果を、表 3～表 20 に示した。3年間で本研究班と協働している CBO が介入するすべての地域を対象に質問調査を実施し、地域別の状況を検討した。

表1 ゲイコミュニティ調査の実施状況

地域		協力店舗	配布数	回収数 (回収率)
中国地域	岡山県	9	170	90
	広島県	17	330	278
	島根県	1	20	0
四国地域	愛媛県	4	10	94
	香川県	4	70	61
	徳島県	1	80	10
	高知県	4	100	35
小計		40	780	568 (72.8%)
横浜		20	340	279 (82.1%)
仙台		10	170	137 (80.6%)
名古屋		24	580	369 (63.6%)
沖縄		27	590	313 (53.1%)
総計		121	2,460	1,666 (67.7%)

表2 インターネット調査の実施状況

地域	協力店舗	配布数	回収数
大阪	-	-	142
沖縄	-	-	100
東京	-	-	118
総計	-	-	360

基本属性

商業施設を介した質問紙調査（以下、コミュニティアンケート）の回答者は 20 歳代 21.3%、30 歳代 27.4%、40 歳代 28.9%、50 歳代以上 22.4% であり、インターネットを活用した質問紙調査（以下、GCQ アンケート）の回答者は 20 歳代 35.8%、30 歳代 35.8%、40 歳代以上 28.3% と年齢層はやや異なった。一方で性的指向がゲイの割合は約 8 割、独居割合が 5 割、常勤雇用の割合が 6 割はいずれの調査でもほぼ同じであった。

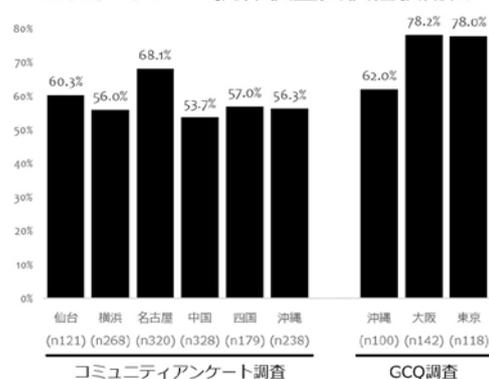
過去 6 ヶ月間に SNS や掲示板を活用して、画像や文字を投稿した割合は地域によって異なり、コミュニティアンケートでは 42.1%（中国）～62.0%（四国）であり、GCQ アンケートでは 59.0%（沖縄）～71.1%（大阪）であった。コミュニティアンケート回答者における裏アカウントの使用割合は 18.2% であり、過去 6 ヶ月間にインターネットを介して出会った相手との性交割合は 33.8% であった。

インターネットに関わらず、過去 6 ヶ月間のアナルセックス割合はコミュニティアンケートでは 63.1%（四国）～79.2%（仙台）であり、GCQ アンケートでは 67.3%（東京）～77.2%（大阪）であった。コンドーム常用割合はコミュニティアンケートでは 32.1%（仙台）～37.6%（四国）で、GCQ アンケートでは 28.6%（大阪）～33.8%（東京）であった。なお、沖縄では質問項目を減らした関係で尋ねていない。

HIV 抗体検査受検動向

これまでの HIV 抗体検査受検経験割合は地域別に異なり、コミュニティアンケートでは 53.7%（中国）～68.1%（名古屋）であり（ $p=0.03$ ）、GCQ アンケートでは 62.0%（沖縄）～78.2%（大阪）であった（ $p=0.01$ ）。過去 1 年間ではコミュニティアンケートで 25.1%（四国）～41.3%（仙台）であり、GCQ アンケートでは 39.8%（東京）～45.8%（大阪）であった。

これまでの HIV 抗体検査受検経験割合

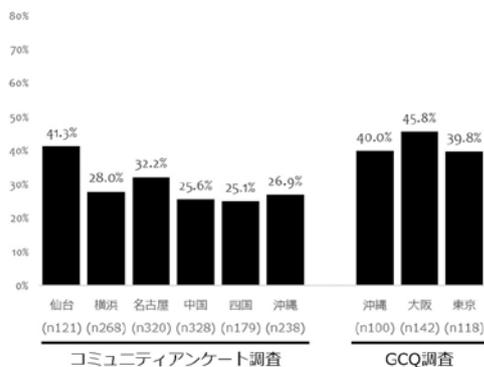


過去 1 年間の受検場所として最も多いのはコミュニティアンケートでは保健所・保健センターであり、次いで病院、診療所であり、名古屋を除きほぼ同じ傾向であった。名古屋では NLGR+検査会の利用も多かった。GCQ アンケートでも保健所・保健センターが最も多く、次いで病院、診療所とほぼ同じ傾向であった。

未受検の理由では、コミュニティアンケートでは多い順に「感染している可能性がない」「機会がなかった」「結果を知るのが怖い」「場所を

知らない」「ゲイバイセクシュアルと説明が面倒」であり、GCQ アンケートでは「機会がなかった」「感染している可能性がない」「結果を知るのが怖い」「場所を知らない」であり、やや異なっていた。

過去1年間のHIV抗体検査受検経験割合



新たな予防に関する知識

「抗 HIV 薬の服薬治療により、体内のウイルス量が検出限界未満となり、それを維持することで、HIV を他者に感染させる可能性がほとんどゼロに近くなること」について知っている回答した人の割合は、コミュニティアンケートでは 36.9% (横浜) ~55.0% (名古屋) であり ($p < 0.01$)、GCQ アンケートでは 62.0% (沖縄) ~74.6% (東京) であった ($p = 0.10$)。

「HIV 感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」や「HIV に感染したかもしれないときの予防服薬 (PEP)」に関する上記のような情報についてとてもよく知っている回答した人の割合は、コミュニティアンケートで 4.9% (中国) ~10.5% (沖縄) である一方で ($p < 0.01$)、「友達や知り合い、セックスの相手で、HIV 陰性者の中に PrEP している人」がいる・いると思う割合は 16.7% (四国) ~29.4% (沖縄) であった ($p = 0.01$)。

「HIV 感染初期には、風邪の症状とよく似ていますが「発熱が 2 週間以上続く」「のどの痛みと咳が頻繁に出る」など違う部分もある」ことを知っている割合は GCQ アンケートで 63.0% (沖縄) ~66.1% (東京) であった ($p = 0.88$)。

「A 型肝炎はケツ舐めや指マンだけでも感染することがあります。ただしワクチン接種をしていると予防できる」ことを知っていた人の割合は GCQ アンケートで 51.4% (大阪)、61.9% (東京) であった ($p = 0.09$)。

D. 考察

ゲイ向け商業施設の利用者を対象とした質

問紙調査とインターネットを活用した質問紙調査の結果であり、単純に比較する場合には注意が必要である。

商業施設を介した質問紙調査の実施状況における回収率はおおむね 7 割と高く、これまで CBO が活動を展開し、商業施設との関係を構築してきたことが影響していると考えられる。一方で大阪、沖縄、東京で実施したインターネットを利用した質問紙調査は小規模なものとなり、先行研究との比較は難しいと判断し、地域別の分析にとどまった。

地域別の分析では HIV 抗体検査受検割合は地方地域では都市部に比べやや低く、先行研究の傾向と同様であった。過去 1 年間ではインターネット調査では 4 割程度となっている一方で仙台を除くゲイコミュニティ調査では低く、商業施設利用者全体の検査行動は横這いであると考えられる。新たな予防に関する知識の認知率は上昇しており都市部やインターネット上では 5 割~7 割となっているが、地方地域や介入基盤の脆弱な地域では低い割合である。一方で PrEP 等の情報認知は徐々に上昇しており、地域差はみられるが「友達や知り合い、セックスの相手で、HIV 陰性者の中に PrEP している人」がいる・いると思う割合は 2 割~3 割であった。

本分析では依然として地方地域に在住する MSM において、都市部に比べると予防行動の割合は低く、相対的に HIV 感染リスクは高いと考えられる。したがって、従来型の予防介入では、介入が届きづらかった「よりハイリスクな MSM 層」の実態の一つとして地方地域があると考えられ、この結果は先行研究とも一致している。

E. 結論

今年度は、本研究の目的となる「よりハイリスクな MSM 層」について CBO と協働して整理し、その実態を把握するための調査結果について地域別の分析を行った。ゲイコミュニティ調査とインターネット調査は対象の背景がやや異なるが、個別に分析することで全体像を把握することに近づいたと考える。

F. 研究発表

1. 学会発表

1) 塩野徳史：HIV Futures Japan プロジェクトの調査結果から～老後・災害に焦点をあてて～. 長期療養時代の医療・行政・コミュニティの協働態勢の構築. 共催シンポジウム 1、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

- 2) ○金子典代、太田 貴、荒木 順、岩橋恒太、石田敏彦、宮田りりい、塩野徳史、玉城祐貴：コミュニティセンター来場者におけるセンターでの情報入手や相談経験、HIV 検査行動、新しい知識の浸透. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 3) 宮田りりい、塩野徳史、金子典代：MSM (Men who have sex with men) に包摂される女装者たちの性行動や HIV 感染症に対する意識. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 4) Michiko Takaku, Myagmardorj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjams, Davaalkham Jagdagsuren, Seiichi Ichikawa, Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Shinichi Oka : Studies evaluating NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia: Results of the internet surveys in FY 2013, 2014, 2017 and 2018. The 33rd Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Kumamoto, 2019.
- 5) ○塩野徳史：MSM におけるセクシュアルヘルス (HIV 検査行動、新しい知識) に関する現状. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 6) 戸ヶ里泰典、井上洋士、高久陽介、大島 岳、阿部桜子、細川陸也、塩野徳史、米倉佑貴、片倉直子、山内麻江、河合 薫、若林チヒロ、大木幸子：日本人 HIV 陽性者におけるストレス関連成長の実態とその特徴. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 7) 宮階真紀、塩野徳史、要友紀子、宮田りりい、松下修三：セックスワーカーにおけるセクシュアルヘルスに関する現状. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
なし。

表3 コミュニティアンケート 配布地域別 基本属性

	配布地域												合計 n=1454	Pearson カイ2乗		
	2017年度 仙台 n=121		2017年度 横浜 n=268		2018年度 名古屋 n=320		2017年度 中国 n=328		2017年度 四国 n=179		2019年度 沖縄 n=238					
居住地域																
青森県	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	<0.01	
岩手県	2	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.1%		
宮城県	104	86.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	104	7.2%		
秋田県	3	2.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.2%		
山形県	2	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.1%		
福島県	9	7.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	0.6%		
埼玉県	0	0.0%	2	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.1%		
千葉県	0	0.0%	3	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.2%		
東京都	0	0.0%	37	13.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	37	2.5%		
神奈川県	0	0.0%	226	84.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	226	15.5%		
岐阜県	0	0.0%	0	0.0%	17	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	17	1.2%		
静岡県	0	0.0%	0	0.0%	6	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	0.4%		
愛知県	0	0.0%	0	0.0%	287	89.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	287	19.7%		
三重県	0	0.0%	0	0.0%	10	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	0.7%		
鳥取県	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.3%		
島根県	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%		
岡山県	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	79	24.1%	3	1.7%	0	0.0%	82	5.6%		
広島県	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	230	70.1%	4	2.2%	0	0.0%	234	16.1%		
山口県	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	0.7%		
徳島県	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	5.6%	0	0.0%	10	0.7%		
香川県	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.2%	58	32.4%	0	0.0%	62	4.3%		
愛媛県	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	73	40.8%	0	0.0%	73	5.0%		
高知県	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	31	17.3%	0	0.0%	31	2.1%		
沖縄県	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	238	100%	238	16.4%		
居住期間																
5年未満	30	24.8%	26	9.7%	49	15.3%	49	14.9%	30	16.8%	35	14.7%	219	15.1%		0.01
5年以上10年未満	19	15.7%	29	10.8%	32	10.0%	34	10.4%	18	10.1%	14	5.9%	146	10.0%		
10年以上	72	59.5%	213	79.5%	238	74.4%	245	74.7%	131	73.2%	189	79.4%	1088	74.8%		
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%		
あなたは現在だれかと一緒に暮らしていますか？																
一人暮らし	69	57.0%	152	56.7%	180	56.3%	174	53.0%	83	46.4%	115	48.3%	773	53.2%		0.02
家族と同居	38	31.4%	80	29.9%	90	28.1%	118	36.0%	77	43.0%	77	32.4%	480	33.0%		
家族以外と同居	14	11.6%	35	13.1%	50	15.6%	36	11.0%	19	10.6%	46	19.3%	200	13.8%		
無回答	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%		
年齢階級																
29歳以下	39	32.2%	46	17.2%	60	18.8%	62	18.9%	53	29.6%	50	21.0%	310	21.3%		<0.01
30-39歳	28	23.1%	71	26.5%	79	24.7%	84	25.6%	61	34.1%	75	31.5%	398	27.4%		
40-49歳	33	27.3%	77	28.7%	108	33.8%	84	25.6%	43	24.0%	75	31.5%	420	28.9%		
50歳以上	21	17.4%	74	27.6%	73	22.8%	98	29.9%	22	12.3%	38	16.0%	326	22.4%		
出生年代層																
1959年以前生まれ	11	9.1%	34	12.7%	20	6.3%	55	16.8%	7	3.9%	10	4.2%	137	9.4%	<0.01	
1960年代生まれ	12	9.9%	48	17.9%	65	20.3%	53	16.2%	18	10.1%	28	11.8%	224	15.4%		
1970年代生まれ	32	26.4%	74	27.6%	102	31.9%	83	25.3%	42	23.5%	75	31.5%	408	28.1%		
1980年代生まれ	31	25.6%	71	26.5%	80	25.0%	92	28.0%	64	35.8%	75	31.5%	413	28.4%		
1990年以降生まれ	35	28.9%	41	15.3%	53	16.6%	45	13.7%	48	26.8%	50	21.0%	272	18.7%		
あなたの出身国はどこですか？																
日本	118	97.5%	264	98.5%	316	98.8%	328	100%	179	100%	235	98.7%	1440	99.0%	0.15	
海外	2	1.7%	4	1.5%	4	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.8%	12	0.8%		
無回答	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	2	0.1%		
あなたが今通っている、または最後に卒業した学校はどれですか？																
中学校	4	3.3%	13	4.9%	14	4.4%	12	3.7%	5	2.8%	9	3.8%	57	3.9%	0.19	
高校	40	33.1%	77	28.7%	80	25.0%	107	32.6%	60	33.5%	75	31.5%	439	30.2%		
短大・専門学校	23	19.0%	35	13.1%	43	13.4%	47	14.3%	37	20.7%	50	21.0%	235	16.2%		
大学・大学院	52	43.0%	140	52.2%	179	55.9%	158	48.2%	74	41.3%	100	42.0%	703	48.3%		
その他	1	0.8%	2	0.7%	4	1.3%	3	0.9%	3	1.7%	2	0.8%	15	1.0%		
無回答	1	0.8%	1	0.4%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	2	0.8%	5	0.3%		
あなたの性別を教えてください																
男性	121	100%	264	98.5%	317	99.1%	325	99.1%	177	98.9%	236	99.2%	1440	99.0%	0.81	
女性	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%		
その他	0	0.0%	4	1.5%	2	0.6%	3	0.9%	2	1.1%	2	0.8%	13	0.9%		
あなたは次のどれにあてはまりますか？																
ゲイ（男性同性愛者）	97	80.2%	236	88.1%	281	87.8%	259	79.0%	149	83.2%	209	87.8%	1231	84.7%	0.09	
バイセクシュアル（両性愛者）	21	17.4%	30	11.2%	30	9.4%	61	18.6%	25	14.0%	19	8.0%	186	12.8%		
ヘテロセクシュアル（異性愛者）	1	0.8%	0	0.0%	1	0.3%	2	0.6%	0	0.0%	2	0.8%	6	0.4%		
トランスジェンダー	0	0.0%	1	0.4%	2	0.6%	0	0.0%	1	0.6%	2	0.8%	6	0.4%		
その他	1	0.8%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.3%	0	0.0%	1	0.4%	4	0.3%		
わからない	1	0.8%	1	0.4%	5	1.6%	5	1.5%	4	2.2%	5	2.1%	21	1.4%		

表4 コミュニティアンケート 配布地域別 商業施設利用

	配布地域										合計 n=1454	Pearson カイ2乗			
	2017年度 仙台 n=121		2017年度 横浜 n=268		2018年度 名古屋 n=320		2017年度 中国 n=328		2017年度 四国 n=179				2019年度 沖縄 n=238		
あなたの現在の職業として、もっとも近いのは次のどれですか？															
常勤(正規雇用)	75	62.0%	175	65.3%	235	73.4%	225	68.6%	120	67.0%	133	55.9%	963	66.2%	<0.01
常勤(非正規雇用)	5	4.1%	13	4.9%	13	4.1%	23	7.0%	12	6.7%	30	12.6%	96	6.6%	
パートタイム・アルバイト	15	12.4%	27	10.1%	10	3.1%	16	4.9%	15	8.4%	32	13.4%	115	7.9%	
経営者	10	8.3%	24	9.0%	43	13.4%	32	9.8%	19	10.6%	25	10.5%	153	10.5%	
学生	12	9.9%	7	2.6%	10	3.1%	8	2.4%	8	4.5%	9	3.8%	54	3.7%	
その他	4	3.3%	22	8.2%	9	2.8%	24	7.3%	4	2.2%	9	3.8%	72	5.0%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	1	0.1%	
過去6ヶ月間にあなたが利用したことがあるのはどれですか？(複数回答)															
ゲイバー	119	98.3%	242	90.3%	314	98.1%	317	96.6%	178	99.4%	237	99.6%	1407	96.8%	<0.01
ゲイナイト	12	9.9%	39	14.6%	80	25.0%	62	18.9%	70	39.1%	67	28.2%	330	22.7%	<0.01
ゲイショップ	36	29.8%	78	29.1%	71	22.2%	73	22.3%	37	20.7%	39	16.4%	334	23.0%	0.01
ゲイ向けサークル・会コン	18	14.9%	43	16.0%	43	13.4%	35	10.7%	11	6.1%	37	15.5%	187	12.9%	0.02
ゲイ向けサークル(スポーツ・文化系)	13	10.7%	35	13.1%	38	11.9%	29	8.8%	9	5.0%	31	13.0%	155	10.7%	0.06
ゲイ向けスポーツサークル	9	7.4%	22	8.2%	23	7.2%	24	7.3%	6	3.4%	30	12.6%	114	7.8%	0.02
ゲイ向け文化系サークル	5	4.1%	16	6.0%	15	4.7%	9	2.7%	5	2.8%	4	1.7%	54	3.7%	0.12
ゲイの飲み会	16	13.2%	49	18.3%	50	15.6%	44	13.4%	33	18.4%	40	16.8%	232	16.0%	0.51
PC出合い系	18	14.9%	47	17.5%	55	17.2%	60	18.3%	29	16.2%	24	10.1%	233	16.0%	0.14
携外出会い系	13	10.7%	54	20.1%	56	17.5%	67	20.4%	32	17.9%	46	19.3%	268	18.4%	0.26
mixiなどのSNS	40	33.1%	70	26.1%	107	33.4%	83	25.3%	66	36.9%	64	26.9%	430	29.6%	0.03
エロ系SNS	9	7.4%	20	7.5%	25	7.8%	21	6.4%	8	4.5%	24	10.1%	107	7.4%	0.38
スマホアプリ	58	47.9%	117	43.7%	160	50.0%	163	49.7%	110	61.5%	128	53.8%	736	50.6%	0.01
VERO	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	29	12.2%	29	2.0%	<0.01
Amber	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	16	6.7%	16	1.1%	<0.01
過去6ヶ月間のネット利用	70	57.9%	140	52.2%	186	58.1%	198	60.4%	119	66.5%	150	63.0%	863	59.4%	0.05
ゲイ向け会コン	7	5.8%	11	4.1%	11	3.4%	7	2.1%	5	2.8%	8	3.4%	49	3.4%	0.50
ゲイの乱パ	4	3.3%	10	3.7%	9	2.8%	6	1.8%	2	1.1%	3	1.3%	34	2.3%	0.32
有料ハッテン場	31	25.6%	120	44.8%	94	29.4%	90	27.4%	48	26.8%	76	31.9%	459	31.6%	<0.01
野外ハッテン場	5	4.1%	28	10.4%	24	7.5%	20	6.1%	13	7.3%	34	14.3%	124	8.5%	<0.01
ハッテン場で有名な公共施設	16	13.2%	64	23.9%	55	17.2%	64	19.5%	35	19.6%	48	20.2%	282	19.4%	0.19
LGBTボランティア	2	1.7%	4	1.5%	5	1.6%	1	0.3%	5	2.8%	3	1.3%	20	1.4%	0.34
いずれもなし	1	0.8%	1	0.4%	2	0.6%	6	1.8%	0	0.0%	1	0.4%	11	0.8%	0.20
過去6ヶ月間に、あなたの住んでいる地域のノンゲ(LGBT以外)の団体やグループの活動に参加したことがありますか？(複数回答)															
政治団体	2	1.7%	4	1.5%	6	1.9%	7	2.1%	2	1.1%	3	1.3%	24	1.7%	1.00
飲み会・交流会	30	24.8%	51	19.0%	70	21.9%	81	24.7%	51	28.5%	68	28.6%	351	24.1%	0.44
地域のボランティア活動	6	5.0%	6	2.2%	12	3.8%	22	6.7%	4	2.2%	7	2.9%	57	3.9%	0.28
宗教団体	0	0.0%	3	1.1%	5	1.6%	4	1.2%	1	0.6%	0	0.0%	13	0.9%	0.77
スポーツのサークル・クラブ活動	19	15.7%	11	4.1%	22	6.9%	24	7.3%	11	6.1%	26	10.9%	113	7.8%	0.02
町内会・自治会	4	3.3%	13	4.9%	18	5.6%	27	8.2%	6	3.4%	6	2.5%	74	5.1%	0.22
地域の趣味の会・サークル	7	5.8%	11	4.1%	16	5.0%	13	4.0%	6	3.4%	1	0.4%	54	3.7%	0.34
いずれもなし	74	61.2%	189	70.5%	210	65.6%	197	60.1%	114	63.7%	149	62.6%	933	64.2%	0.50
過去6ヶ月間に、下記の施設をどのくらい利用しましたか？_ゲイバー															
よく利用した	51	42.1%	125	46.6%	122	38.1%	110	33.5%	79	44.1%	104	43.7%	591	40.6%	<0.01
まあまあ利用した	58	47.9%	95	35.4%	162	50.6%	164	50.0%	84	46.9%	109	45.8%	672	46.2%	
あまり利用しなかった	8	6.6%	25	9.3%	29	9.1%	40	12.2%	15	8.4%	22	9.2%	139	9.6%	
全く利用しない	4	3.3%	23	8.6%	6	1.9%	11	3.4%	1	0.6%	3	1.3%	48	3.3%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.3%	
過去6ヶ月間に、下記の施設をどのくらい利用しましたか？_ゲイナイト															
よく利用した	0	0.0%	2	0.7%	2	0.6%	2	0.6%	3	1.7%	5	2.1%	14	1.0%	<0.01
まあまあ利用した	2	1.7%	9	3.4%	30	9.4%	18	5.5%	19	10.6%	12	5.0%	90	6.2%	
あまり利用しなかった	13	10.7%	32	11.9%	64	20.0%	56	17.1%	44	24.6%	54	22.7%	263	18.1%	
全く利用しない	72	59.5%	152	56.7%	162	50.6%	161	49.1%	71	39.7%	106	44.5%	724	49.8%	
無回答	34	28.1%	73	27.2%	62	19.4%	91	27.7%	42	23.5%	61	25.6%	363	25.0%	
過去6ヶ月間に、下記の施設をどのくらい利用しましたか？_ゲイショップ															
よく利用した	0	0.0%	3	1.1%	3	0.9%	3	0.9%	0	0.0%	2	0.8%	11	0.8%	<0.01
まあまあ利用した	14	11.6%	15	5.6%	15	4.7%	12	3.7%	5	2.8%	11	4.6%	72	5.0%	
あまり利用しなかった	20	16.5%	59	22.0%	61	19.1%	67	20.4%	21	11.7%	31	13.0%	259	17.8%	
全く利用しない	59	48.8%	118	44.0%	178	55.6%	159	48.5%	107	59.8%	132	55.5%	753	51.8%	
無回答	28	23.1%	73	27.2%	63	19.7%	87	26.5%	46	25.7%	62	26.1%	359	24.7%	
過去6ヶ月間に、下記の施設をどのくらい利用しましたか？_有料のハッテン場															
よく利用した	1	0.8%	14	5.2%	4	1.3%	7	2.1%	1	0.6%	11	4.6%	38	2.6%	<0.01
まあまあ利用した	15	12.4%	58	21.6%	54	16.9%	44	13.4%	13	7.3%	34	14.3%	218	15.0%	
あまり利用しなかった	14	11.6%	44	16.4%	47	14.7%	61	18.6%	33	18.4%	44	18.5%	243	16.7%	
全く利用しない	61	50.4%	93	34.7%	160	50.0%	141	43.0%	91	50.8%	97	40.8%	643	44.2%	
無回答	30	24.8%	59	22.0%	55	17.2%	75	22.9%	41	22.9%	52	21.8%	312	21.5%	
過去6ヶ月間に、下記の施設をどのくらい利用しましたか？_野外のハッテン場															
よく利用した	0	0.0%	3	1.1%	4	1.3%	4	1.2%	1	0.6%	7	2.9%	19	1.3%	<0.01
まあまあ利用した	0	0.0%	13	4.9%	10	3.1%	8	2.4%	2	1.1%	20	8.4%	53	3.6%	
あまり利用しなかった	6	5.0%	23	8.6%	21	6.6%	13	4.0%	9	5.0%	29	12.2%	101	6.9%	
全く利用しない	83	68.6%	155	57.8%	221	69.1%	209	63.7%	122	68.2%	122	51.3%	912	62.7%	
無回答	32	26.4%	74	27.6%	64	20.0%	94	28.7%	45	25.1%	60	25.2%	369	25.4%	

表5 コミュニティアンケート 配布地域別 インターネット利用及びコミュニティセンター認知

	配布地域										合計 n=1454	Pearson カイ2乗			
	2017年度 仙台 n=121		2017年度 横浜 n=268		2018年度 名古屋 n=320		2017年度 中国 n=328		2017年度 四国 n=179				2019年度 沖縄 n=238		
過去6ヶ月間に、以下のSNSや掲示板を活用して、画像や文字を投稿しましたか？(複数回答)															
mixi	9	7.4%	22	8.2%	29	9.1%	36	11.0%	6	3.4%	10	4.2%	112	7.7%	0.11
Facebook	18	14.9%	48	17.9%	53	16.6%	70	21.3%	27	15.1%	42	17.6%	258	17.7%	0.85
twitter	70	57.9%	105	39.2%	182	56.9%	121	36.9%	101	56.4%	101	42.4%	680	46.8%	<0.01
tumblr	7	5.8%	13	4.9%	26	8.1%	13	4.0%	4	2.2%	11	4.6%	74	5.1%	0.34
9monsters	64	52.9%	118	44.0%	181	56.6%	173	52.7%	130	72.6%	132	55.5%	798	54.9%	<0.01
Grindr	5	4.1%	12	4.5%	8	2.5%	9	2.7%	2	1.1%	20	8.4%	56	3.9%	0.02
Jack'd	15	12.4%	46	17.2%	30	9.4%	59	18.0%	24	13.4%	40	16.8%	214	14.7%	0.19
Hornet	1	0.8%	9	3.4%	2	0.6%	3	0.9%	1	0.6%	7	2.9%	23	1.6%	0.19
X105	7	5.8%	4	1.5%	7	2.2%	13	4.0%	7	3.9%	2	0.8%	40	2.8%	0.22
HuGs	2	1.7%	7	2.6%	11	3.4%	4	1.2%	0	0.0%	2	0.8%	26	1.8%	0.28
沖縄ゲイ情報裏掲示板	1	0.8%	6	2.2%	1	0.3%	1	0.3%	0	0.0%	47	19.7%	56	3.9%	<0.01
KO-MENSTV	9	7.4%	3	1.1%	4	1.3%	17	5.2%	15	8.4%	3	1.3%	51	3.5%	<0.01
Men's Net Japan	8	6.6%	26	9.7%	24	7.5%	18	5.5%	4	2.2%	5	2.1%	85	5.8%	0.03
SHIKOKU GAY WALKER	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	9	5.0%	0	0.0%	10	0.7%	<0.01
Amber	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	4.2%	10	0.7%	<0.01
VERO	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	22	9.2%	22	1.5%	<0.01
その他	4	3.3%	15	5.6%	10	3.1%	10	3.0%	2	1.1%	5	2.1%	46	3.2%	0.49
いずれもなし	29	24.0%	85	31.7%	63	19.7%	82	25.0%	24	13.4%	57	23.9%	340	23.4%	0.01
チェックしたSNSや掲示板、アプリに、自分の顔や身体を画像を投稿したことがありますか？															
過去6ヶ月間に投稿した	62	51.2%	120	44.8%	171	53.4%	138	42.1%	111	62.0%	107	45.0%	709	48.8%	<0.01
これまでに投稿した	10	8.3%	24	9.0%	36	11.3%	51	15.5%	21	11.7%	34	14.3%	176	12.1%	
全くない	16	13.2%	33	12.3%	44	13.8%	51	15.5%	20	11.2%	37	15.5%	201	13.8%	
非該当	32	26.4%	90	33.6%	69	21.6%	87	26.5%	27	15.1%	60	25.2%	365	25.1%	
無回答	1	0.8%	1	0.4%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.2%	
チェックしたSNSや掲示板に、裏アカウント持っていますか？															
持っている	28	23.1%	51	19.0%	56	17.5%	44	13.4%	39	21.8%	46	19.3%	264	18.2%	<0.01
持っていない	54	44.6%	112	41.8%	180	56.3%	145	44.2%	99	55.3%	112	47.1%	702	48.3%	
裏アカウントがわからない	5	4.1%	13	4.9%	14	4.4%	50	15.2%	13	7.3%	19	8.0%	114	7.8%	
非該当	32	26.4%	90	33.6%	69	21.6%	87	26.5%	27	15.1%	60	25.2%	365	25.1%	
無回答	2	1.7%	2	0.7%	1	0.3%	2	0.6%	1	0.6%	1	0.4%	9	0.6%	
チェックしたSNSや掲示板でであった相手とセックスしたことがありますか？															
過去6ヶ月間にセックスした	37	30.6%	87	32.5%	121	37.8%	94	28.7%	77	43.0%	76	31.9%	492	33.8%	0.01
これまでにセックスした	29	24.0%	34	12.7%	64	20.0%	74	22.6%	40	22.3%	51	21.4%	292	20.1%	
全くない	21	17.4%	55	20.5%	65	20.3%	71	21.6%	34	19.0%	49	20.6%	295	20.3%	
非該当	32	26.4%	90	33.6%	69	21.6%	87	26.5%	27	15.1%	60	25.2%	365	25.1%	
無回答	2	1.7%	2	0.7%	1	0.3%	2	0.6%	1	0.6%	2	0.8%	10	0.7%	
コミュニティセンターZELを知っていますか？また行ったことはありますか？															
行ったことがある	24	19.8%	2	0.7%	2	0.6%	1	0.3%	1	0.6%	1	0.4%	31	2.1%	<0.01
知っているが行ったことはない	46	38.0%	9	3.4%	14	4.4%	5	1.5%	2	1.1%	9	3.8%	85	5.8%	
知らない	48	39.7%	239	89.2%	284	88.8%	305	93.0%	170	95.0%	205	86.1%	1251	86.0%	
無回答	3	2.5%	18	6.7%	20	6.3%	17	5.2%	6	3.4%	23	9.7%	87	6.0%	
コミュニティセンターaktaを知っていますか？また行ったことはありますか？															
行ったことがある	5	4.1%	16	6.0%	10	3.1%	14	4.3%	7	3.9%	6	2.5%	58	4.0%	<0.01
知っているが行ったことはない	23	19.0%	67	25.0%	49	15.3%	29	8.8%	13	7.3%	32	13.4%	213	14.6%	
知らない	80	66.1%	166	61.9%	243	75.9%	270	82.3%	151	84.4%	175	73.5%	1085	74.6%	
無回答	13	10.7%	19	7.1%	18	5.6%	15	4.6%	8	4.5%	25	10.5%	98	6.7%	
コミュニティセンターSHIPを知っていますか？また行ったことはありますか？															
行ったことがある	1	0.8%	27	10.1%	3	0.9%	3	0.9%	1	0.6%	1	0.4%	36	2.5%	<0.01
知っているが行ったことはない	11	9.1%	96	35.8%	22	6.9%	13	4.0%	12	6.7%	12	5.0%	166	11.4%	
知らない	96	79.3%	138	51.5%	275	85.9%	293	89.3%	158	88.3%	201	84.5%	1161	79.8%	
無回答	13	10.7%	7	2.6%	20	6.3%	19	5.8%	8	4.5%	24	10.1%	91	6.3%	
コミュニティセンターriseを知っていますか？また行ったことはありますか？															
行ったことがある	0	0.0%	4	1.5%	45	14.1%	2	0.6%	1	0.6%	1	0.4%	53	3.6%	<0.01
知っているが行ったことはない	9	7.4%	4	1.5%	126	39.4%	9	2.7%	3	1.7%	9	3.8%	160	11.0%	
知らない	99	81.8%	240	89.6%	141	44.1%	297	90.5%	167	93.3%	202	84.9%	1146	78.8%	
無回答	13	10.7%	20	7.5%	8	2.5%	20	6.1%	8	4.5%	26	10.9%	95	6.5%	
コミュニティセンターdistaを知っていますか？また行ったことはありますか？															
行ったことがある	0	0.0%	4	1.5%	21	6.6%	14	4.3%	11	6.1%	5	2.1%	55	3.8%	<0.01
知っているが行ったことはない	8	6.6%	9	3.4%	31	9.7%	32	9.8%	19	10.6%	20	8.4%	119	8.2%	
知らない	99	81.8%	234	87.3%	248	77.5%	262	79.9%	141	78.8%	188	79.0%	1172	80.6%	
無回答	14	11.6%	21	7.8%	20	6.3%	20	6.1%	8	4.5%	25	10.5%	108	7.4%	
コミュニティセンターmabuiを知っていますか？また行ったことはありますか？															
行ったことがある	1	0.8%	3	1.1%	4	1.3%	0	0.0%	1	0.6%	41	17.2%	50	3.4%	<0.01
知っているが行ったことはない	7	5.8%	12	4.5%	22	6.9%	9	2.7%	6	3.4%	121	50.8%	177	12.2%	
知らない	100	82.6%	233	86.9%	275	85.9%	300	91.5%	164	91.6%	63	26.5%	1135	78.1%	
無回答	13	10.7%	20	7.5%	19	5.9%	19	5.8%	8	4.5%	13	5.5%	92	6.3%	

表6 コミュニティアンケート 配布地域別 予防啓発の活動認知

	配布地域										合計 n=1454	Pearson カイ2乗			
	2017年度 仙台 n=121		2017年度 横浜 n=268		2018年度 名古屋 n=320		2017年度 中国 n=328		2017年度 四国 n=179				2019年度 沖縄 n=238		
コミュニティペーパーZELを知っていますか？また読んだことはありますか？															
読んだことがある	49	40.5%	5	1.9%	1	0.3%	4	1.2%	1	0.6%	1	0.4%	61	4.2%	<0.01
知っているが読んだことはない	13	10.7%	2	0.7%	7	2.2%	7	2.1%	1	0.6%	9	3.8%	39	2.7%	
知らない	56	46.3%	245	91.4%	292	91.3%	304	92.7%	170	95.0%	206	86.6%	1273	87.6%	
無回答	3	2.5%	16	6.0%	20	6.3%	13	4.0%	7	3.9%	22	9.2%	81	5.6%	
フリーペーパーakta monthly paperを知っていますか？また読んだことはありますか？															
読んだことがある	10	8.3%	31	11.6%	22	6.9%	10	3.0%	6	3.4%	10	4.2%	89	6.1%	<0.01
知っているが読んだことはない	10	8.3%	28	10.4%	13	4.1%	20	6.1%	5	2.8%	17	7.1%	93	6.4%	
知らない	90	74.4%	196	73.1%	266	83.1%	282	86.0%	159	88.8%	183	76.9%	1176	80.9%	
無回答	11	9.1%	13	4.9%	19	5.9%	16	4.9%	9	5.0%	28	11.8%	96	6.6%	
YOKOHAMA Gay Community Paper Crewを知っていますか？また読んだことはありますか？															
読んだことがある	1	0.8%	32	11.9%	2	0.6%	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	37	2.5%	<0.01
知っているが読んだことはない	2	1.7%	10	3.7%	7	2.2%	4	1.2%	2	1.1%	10	4.2%	35	2.4%	
知らない	109	90.1%	212	79.1%	289	90.3%	310	94.5%	168	93.9%	204	85.7%	1292	88.9%	
無回答	9	7.4%	14	5.2%	22	6.9%	12	3.7%	9	5.0%	24	10.1%	90	6.2%	
コミュニティペーパーh.a.n.a.を知っていますか？また読んだことはありますか？															
読んだことがある	3	2.5%	2	0.7%	103	32.2%	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	110	7.6%	<0.01
知っているが読んだことはない	2	1.7%	5	1.9%	21	6.6%	6	1.8%	0	0.0%	12	5.0%	46	3.2%	
知らない	105	86.8%	244	91.0%	179	55.9%	306	93.3%	169	94.4%	198	83.2%	1201	82.6%	
無回答	11	9.1%	17	6.3%	17	5.3%	14	4.3%	10	5.6%	28	11.8%	97	6.7%	
季刊誌 南界堂通信を知っていますか？また読んだことはありますか？															
読んだことがある	2	1.7%	3	1.1%	8	2.5%	0	0.0%	5	2.8%	1	0.4%	19	1.3%	<0.01
知っているが読んだことはない	1	0.8%	2	0.7%	5	1.6%	5	1.5%	2	1.1%	10	4.2%	25	1.7%	
知らない	108	89.3%	250	93.3%	285	89.1%	311	94.8%	164	91.6%	204	85.7%	1322	90.9%	
無回答	10	8.3%	13	4.9%	22	6.9%	12	3.7%	8	4.5%	23	9.7%	88	6.1%	
イクツなびを知っていますか？また読んだことはありますか？															
読んだことがある	1	0.8%	1	0.4%	6	1.9%	2	0.6%	1	0.6%	0	0.0%	11	0.8%	0.02
知っているが読んだことはない	3	2.5%	2	0.7%	8	2.5%	10	3.0%	0	0.0%	11	4.6%	34	2.3%	
知らない	107	88.4%	250	93.3%	283	88.4%	297	90.5%	169	94.4%	203	85.3%	1309	90.0%	
無回答	10	8.3%	15	5.6%	23	7.2%	19	5.8%	9	5.0%	24	10.1%	100	6.9%	
ゲイコミュニティペーパーFight!!を知っていますか？また読んだことはありますか？															
読んだことがある	1	0.8%	3	1.1%	3	0.9%	78	23.8%	76	42.5%	1	0.4%	162	11.1%	<0.01
知っているが読んだことはない	1	0.8%	2	0.7%	6	1.9%	22	6.7%	11	6.1%	11	4.6%	53	3.6%	
知らない	109	90.1%	250	93.3%	287	89.7%	219	66.8%	86	48.0%	201	84.5%	1152	79.2%	
無回答	10	8.3%	13	4.9%	24	7.5%	9	2.7%	6	3.4%	25	10.5%	87	6.0%	
コミュニティペーパーnankrを知っていますか？また読んだことはありますか？															
読んだことがある	2	1.7%	4	1.5%	7	2.2%	3	0.9%	8	4.5%	115	48.3%	139	9.6%	<0.01
知っているが読んだことはない	1	0.8%	3	1.1%	8	2.5%	10	3.0%	1	0.6%	46	19.3%	69	4.7%	
知らない	108	89.3%	245	91.4%	283	88.4%	300	91.5%	159	88.8%	62	26.1%	1157	79.6%	
無回答	10	8.3%	16	6.0%	22	6.9%	15	4.6%	11	6.1%	15	6.3%	89	6.1%	
さくら新聞を知っていますか？また読んだことはありますか？															
読んだことがある	0	0.0%	1	0.4%	2	0.6%	2	0.6%	4	2.2%	9	3.8%	18	1.2%	<0.01
知っているが読んだことはない	1	0.8%	1	0.4%	4	1.3%	4	1.2%	0	0.0%	22	9.2%	32	2.2%	
知らない	111	91.7%	252	94.0%	293	91.6%	308	93.9%	167	93.3%	183	76.9%	1314	90.4%	
無回答	9	7.4%	14	5.2%	21	6.6%	14	4.3%	8	4.5%	24	10.1%	90	6.2%	
CBOが配布する condom やローションを持ち帰ったことがありますか？(再掲)															
持ち帰った	34	28.1%	101	37.7%	196	61.3%	136	41.5%	77	43.0%	153	64.3%	697	47.9%	<0.01
知っている	14	11.6%	36	13.4%	50	15.6%	38	11.6%	31	17.3%	37	15.5%	206	14.2%	
知らない	66	54.5%	124	46.3%	71	22.2%	147	44.8%	67	37.4%	47	19.7%	522	35.9%	
無回答	7	5.8%	7	2.6%	3	0.9%	7	2.1%	4	2.2%	1	0.4%	29	2.0%	
CBOが発行するコミュニティペーパーを知っていますか？(再掲)															
読んだことがある	49	40.5%	32	11.9%	111	34.7%	78	23.8%	76	42.5%	115	48.3%	461	31.7%	<0.01
知っているが読んだことはない	13	10.7%	10	3.7%	30	9.4%	22	6.7%	11	6.1%	52	21.8%	138	9.5%	
知らない	56	46.3%	212	79.1%	164	51.3%	219	66.8%	86	48.0%	59	24.8%	796	54.7%	
無回答	3	2.5%	14	5.2%	15	4.7%	9	2.7%	6	3.4%	12	5.0%	59	4.1%	
MSM対象のコミュニティセンターに行ったことがありますか？(再掲)															
行ったことがある	24	19.8%	27	10.1%	56	17.5%	24	7.3%	14	7.8%	42	17.6%	187	12.9%	<0.01
知っているが行ったことはない	46	38.0%	96	35.8%	134	41.9%	50	15.2%	26	14.5%	125	52.5%	477	32.8%	
知らない	48	39.7%	138	51.5%	124	38.8%	241	73.5%	133	74.3%	59	24.8%	743	51.1%	
無回答	3	2.5%	7	2.6%	6	1.9%	13	4.0%	6	3.4%	12	5.0%	47	3.2%	

表7 コミュニティアンケート 配布地域別 ソーシャル・キャピタル

	配布地域						合計 n=1454	Pearson カイ2乗							
	2017年度 仙台 n=121	2017年度 横浜 n=268	2018年度 名古屋 n=320	2017年度 中国 n=328	2017年度 四国 n=179	2019年度 沖縄 n=238									
	過去6ヶ月間に、住んでいる地域のノケの友人・知人何人に会いましたか？同じ人には何度会っても1人と数えることとします。														
0人	13	10.7%	55	20.5%	57	17.8%	49	14.9%	13	7.3%	27	11.3%	214	14.7%	0.04
1~2人	16	13.2%	45	16.8%	54	16.9%	50	15.2%	27	15.1%	50	21.0%	242	16.6%	
3~5人	25	20.7%	44	16.4%	46	14.4%	53	16.2%	33	18.4%	37	15.5%	238	16.4%	
6~9人	7	5.8%	16	6.0%	21	6.6%	23	7.0%	11	6.1%	16	6.7%	94	6.5%	
10人以上	58	47.9%	104	38.8%	131	40.9%	149	45.4%	94	52.5%	104	43.7%	640	44.0%	
無回答	2	1.7%	4	1.5%	11	3.4%	4	1.2%	1	0.6%	4	1.7%	26	1.8%	
住んでいる地域のノケの友人・知人と会う頻度はどれくらいですか？															
ほぼ毎日	25	20.7%	34	12.7%	57	17.8%	85	25.9%	51	28.5%	53	22.3%	305	21.0%	<0.01
週2~3日	15	12.4%	36	13.4%	31	9.7%	30	9.1%	17	9.5%	29	12.2%	158	10.9%	
週1回程度	15	12.4%	33	12.3%	34	10.6%	36	11.0%	32	17.9%	38	16.0%	188	12.9%	
月1~2回	33	27.3%	47	17.5%	70	21.9%	66	20.1%	28	15.6%	49	20.6%	293	20.2%	
年に数回	14	11.6%	51	19.0%	52	16.3%	52	15.9%	26	14.5%	27	11.3%	222	15.3%	
ほとんど会っていない	16	13.2%	62	23.1%	66	20.6%	55	16.8%	23	12.8%	38	16.0%	260	17.9%	
無回答	3	2.5%	5	1.9%	10	3.1%	4	1.2%	2	1.1%	4	1.7%	28	1.9%	
自分がゲイであることや男性とセックスすることについて、あなたは住んでいる地域のノケの友人・知人何人にカミングアウトしましたか？															
0人	69	57.0%	171	63.8%	180	56.3%	233	71.0%	90	50.3%	117	49.2%	860	59.1%	<0.01
1人	8	6.6%	23	8.6%	33	10.3%	20	6.1%	19	10.6%	19	8.0%	122	8.4%	
2~5人	21	17.4%	34	12.7%	62	19.4%	40	12.2%	37	20.7%	45	18.9%	239	16.4%	
6人以上	20	16.5%	31	11.6%	30	9.4%	27	8.2%	28	15.6%	42	17.6%	178	12.2%	
無回答	3	2.5%	9	3.4%	15	4.7%	8	2.4%	5	2.8%	15	6.3%	55	3.8%	
過去6ヶ月間に、ゲイの友人・知人何人に会いましたか？同じ人には何度会っても1人と数えることとします。															
0人	3	2.5%	17	6.3%	10	3.1%	21	6.4%	2	1.1%	6	2.5%	59	4.1%	0.04
1~2人	10	8.3%	36	13.4%	33	10.3%	54	16.5%	18	10.1%	28	11.8%	179	12.3%	
3~5人	19	15.7%	44	16.4%	54	16.9%	63	19.2%	33	18.4%	40	16.8%	253	17.4%	
6~9人	10	8.3%	20	7.5%	34	10.6%	26	7.9%	17	9.5%	26	10.9%	133	9.1%	
10人以上	77	63.6%	147	54.9%	179	55.9%	161	49.1%	108	60.3%	134	56.3%	806	55.4%	
無回答	2	1.7%	4	1.5%	10	3.1%	3	0.9%	1	0.6%	4	1.7%	24	1.7%	
ゲイの友人・知人と会う頻度はどれくらいですか？															
ほぼ毎日	16	13.2%	35	13.1%	27	8.4%	26	7.9%	27	15.1%	39	16.4%	170	11.7%	<0.01
週2~3日	26	21.5%	53	19.8%	66	20.6%	45	13.7%	44	24.6%	60	25.2%	294	20.2%	
週1回程度	37	30.6%	85	31.7%	98	30.6%	99	30.2%	60	33.5%	61	25.6%	440	30.3%	
月1~2回	32	26.4%	49	18.3%	77	24.1%	95	29.0%	38	21.2%	45	18.9%	336	23.1%	
年に数回	5	4.1%	22	8.2%	29	9.1%	26	7.9%	7	3.9%	17	7.1%	106	7.3%	
ほとんど会っていない	3	2.5%	20	7.5%	13	4.1%	34	10.4%	2	1.1%	12	5.0%	84	5.8%	
無回答	2	1.7%	4	1.5%	10	3.1%	3	0.9%	1	0.6%	4	1.7%	24	1.7%	
以下のような場所でのHIV抗体検査についてうかがいます。あなたは、利用しやすいと思いますか？_病院															
利用しやすい	20	16.5%	55	20.5%	60	18.8%	64	19.5%	30	16.8%	32	13.4%	261	18.0%	0.58
利用しにくい	66	54.5%	130	48.5%	154	48.1%	154	47.0%	92	51.4%	120	50.4%	716	49.2%	
わからない	30	24.8%	78	29.1%	92	28.8%	102	31.1%	54	30.2%	77	32.4%	433	29.8%	
無回答	5	4.1%	5	1.9%	14	4.4%	8	2.4%	3	1.7%	9	3.8%	44	3.0%	
以下のような場所でのHIV抗体検査についてうかがいます。あなたは、利用しやすいと思いますか？_診療所・クリニック・医院															
利用しやすい	18	14.9%	61	22.8%	62	19.4%	66	20.1%	22	12.3%	31	13.0%	260	17.9%	0.13
利用しにくい	65	53.7%	114	42.5%	145	45.3%	145	44.2%	90	50.3%	117	49.2%	676	46.5%	
わからない	33	27.3%	85	31.7%	99	30.9%	107	32.6%	64	35.8%	79	33.2%	467	32.1%	
無回答	5	4.1%	8	3.0%	14	4.4%	10	3.0%	3	1.7%	11	4.6%	51	3.5%	
以下のような場所でのHIV抗体検査についてうかがいます。あなたは、利用しやすいと思いますか？_保健所・保健センター															
利用しやすい	58	47.9%	102	38.1%	182	56.9%	142	43.3%	78	43.6%	128	53.8%	690	47.5%	<0.01
利用しにくい	30	24.8%	77	28.7%	58	18.1%	93	28.4%	43	24.0%	50	21.0%	351	24.1%	
わからない	30	24.8%	82	30.6%	72	22.5%	83	25.3%	55	30.7%	57	23.9%	379	26.1%	
無回答	3	2.5%	7	2.6%	8	2.5%	10	3.0%	3	1.7%	3	1.3%	34	2.3%	
以下のような場所でのHIV抗体検査についてうかがいます。あなたは、利用しやすいと思いますか？_自宅/郵送検査															
利用しやすい	55	45.5%	121	45.1%	148	46.3%	147	44.8%	84	46.9%	79	33.2%	634	43.6%	0.12
利用しにくい	23	19.0%	37	13.8%	52	16.3%	52	15.9%	25	14.0%	35	14.7%	224	15.4%	
わからない	38	31.4%	103	38.4%	109	34.1%	118	36.0%	67	37.4%	112	47.1%	547	37.6%	
無回答	5	4.1%	7	2.6%	11	3.4%	11	3.4%	3	1.7%	12	5.0%	49	3.4%	

表8 コミュニティアンケート 配布地域別 HIV 抗体検査行動

	配布地域										合計 n=1454	Pearson カイ2乗			
	2017年度 仙台 n=121	2017年度 横浜 n=268	2018年度 名古屋 n=320	2017年度 中国 n=328	2017年度 四国 n=179	2019年度 沖縄 n=238									
これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか？															
ある	73	60.3%	150	56.0%	218	68.1%	176	53.7%	102	57.0%	134	56.3%	853	58.7%	0.03
ない	45	37.2%	115	42.9%	97	30.3%	147	44.8%	74	41.3%	102	42.9%	580	39.9%	
無回答	3	2.5%	3	1.1%	5	1.6%	5	1.5%	3	1.7%	2	0.8%	21	1.4%	
これまでに何回HIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか？															
1回だけ	29	24.0%	45	16.8%	55	17.2%	75	22.9%	33	18.4%	39	16.4%	276	19.0%	0.01
2回・3回	22	18.2%	52	19.4%	81	25.3%	48	14.6%	36	20.1%	50	21.0%	289	19.9%	
4回以上	22	18.2%	53	19.8%	82	25.6%	53	16.2%	33	18.4%	45	18.9%	288	19.8%	
未受検	45	37.2%	115	42.9%	97	30.3%	147	44.8%	74	41.3%	102	42.9%	580	39.9%	
無回答	3	2.5%	3	1.1%	5	1.6%	5	1.5%	3	1.7%	2	0.8%	21	1.4%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか？															
ある	50	41.3%	75	28.0%	103	32.2%	84	25.6%	45	25.1%	64	26.9%	421	29.0%	<0.01
ない	17	14.0%	69	25.7%	105	32.8%	83	25.3%	52	29.1%	65	27.3%	391	26.9%	
1年以上前に陽性と確認している	3	2.5%	3	1.1%	5	1.6%	5	1.5%	3	1.7%	1	0.4%	20	1.4%	
答えたくない	3	2.5%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.1%	4	1.7%	10	0.7%	
無回答	0	0.0%	2	0.7%	5	1.6%	4	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	11	0.8%	
非該当	48	39.7%	118	44.0%	102	31.9%	152	46.3%	77	43.0%	104	43.7%	601	41.3%	
過去1年間に受検したHIV抗体検査(エイズ検査)は、これまでに初めての受検でしたか？															
はい	18	14.9%	14	5.2%	23	7.2%	17	5.2%	8	4.5%	8	3.4%	88	6.1%	<0.01
いいえ	31	25.6%	60	22.4%	76	23.8%	65	19.8%	36	20.1%	54	22.7%	322	22.1%	
過去1年なし	23	19.0%	73	27.2%	110	34.4%	88	26.8%	57	31.8%	70	29.4%	421	29.0%	
無回答	1	0.8%	3	1.1%	9	2.8%	6	1.8%	1	0.6%	2	0.8%	22	1.5%	
非該当	48	39.7%	118	44.0%	102	31.9%	152	46.3%	77	43.0%	104	43.7%	601	41.3%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けた場所はどこですか？(複数回答) ¹⁾															
病院	9	18.0%	21	28.0%	14	13.6%	20	23.8%	5	11.1%	13	20.3%	82	19.5%	0.14
診療所・クリニック・医院	5	10.0%	18	24.0%	6	5.8%	7	8.3%	5	11.1%	4	6.3%	45	10.7%	0.01
保健所・保健センター	32	64.0%	33	44.0%	69	67.0%	48	57.1%	35	77.8%	45	70.3%	262	62.2%	0.01
南新宿検査・相談室	1	2.0%	2	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%	4	1.0%	0.36
shot CAST なんば	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	3	6.7%	0	0.0%	4	1.0%	0.01
自宅/郵送検査 (HIV検査キット)	3	6.0%	2	2.7%	7	6.8%	1	1.2%	2	4.4%	5	7.8%	20	4.8%	0.37
HIVcheck (東京/akta)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.1%	2	0.5%	0.08
クリニック検査 (大阪・岡山)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.5%	0.20
NLGR+検査会 (名古屋)	0	0.0%	1	1.3%	23	22.3%	2	2.4%	1	2.2%	0	0.0%	27	6.4%	<0.01
M検 (名古屋・岐阜)	0	0.0%	0	0.0%	7	6.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	1.7%	<0.01
distaでピタッとちえっくん (大阪)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
とうかさん・レッドリボンdeエイズ検査 (広島)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	8.3%	1	2.2%	0	0.0%	8	1.9%	<0.01
SHIP HIV性感染症検査 (横浜)	1	2.0%	2	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.7%	0.23
HIV check (沖縄/mabui)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3.1%	2	3.1%	-
mabuiCHIV&梅毒検査会 (沖縄/mabui)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4.7%	3	4.7%	-
その他	3	6.0%	1	1.3%	1	1.0%	1	1.2%	0	0.0%	1	1.6%	7	1.7%	0.25
未受検の理由(複数回答) ²⁾															
結果を知るのが怖いから	3	6.3%	16	13.6%	9	8.8%	27	17.8%	8	10.4%	27	26.0%	90	15.0%	<0.01
HIVに感染している可能性がない	20	41.7%	70	59.3%	39	38.2%	83	54.6%	26	33.8%	37	35.6%	275	45.8%	<0.01
あいまいなままにしておきたい	1	2.1%	6	5.1%	4	3.9%	12	7.9%	4	5.2%	3	2.9%	30	5.0%	<0.01
どこで検査を受けたら良いかわからない	8	16.7%	19	16.1%	14	13.7%	19	12.5%	13	16.9%	15	14.4%	88	14.6%	0.01
機会(時間や場所など)がなかった	7	14.6%	30	25.4%	39	38.2%	34	22.4%	30	39.0%	23	22.1%	163	27.1%	<0.01
お金がかかるから	3	6.3%	8	6.8%	0	0.0%	19	12.5%	3	3.9%	3	2.9%	36	6.0%	<0.01
HIV感染を疑われるから	1	2.1%	4	3.4%	2	2.0%	4	2.6%	0	0.0%	10	9.6%	21	3.5%	<0.01
ゲイ・バイと説明するのが面倒だから	5	10.4%	16	13.6%	11	10.8%	31	20.4%	6	7.8%	17	16.3%	86	14.3%	<0.01
検査場所まで知り合いに会う可能性がある	4	8.3%	14	11.9%	6	5.9%	10	6.6%	6	7.8%	18	17.3%	58	9.7%	<0.01
その他	3	6.3%	6	5.1%	5	4.9%	6	3.9%	2	2.6%	10	9.6%	32	5.3%	<0.01
あなたは、友達や知り合いにHIVに感染している人はいませんか？															
いる	22	18.2%	90	33.6%	118	36.9%	64	19.5%	44	24.6%	76	31.9%	414	28.5%	<0.01
いると思う	41	33.9%	60	22.4%	85	26.6%	87	26.5%	42	23.5%	52	21.8%	367	25.2%	
いないと思う	12	9.9%	43	16.0%	31	9.7%	58	17.7%	26	14.5%	26	10.9%	196	13.5%	
わからない	7	5.8%	14	5.2%	13	4.1%	24	7.3%	6	3.4%	10	4.2%	74	5.1%	
無回答	4	3.3%	4	1.5%	7	2.2%	4	1.2%	3	1.7%	2	0.8%	24	1.7%	

1)過去1年間にHIV抗体検査受検経験がある人を対象として分析 2)これまでにHIV抗体検査受検経験がない人を対象として分析

表9 コミュニティアンケート 配布地域別 対話経験及び性感染症既往

	配布地域										合計 n=1454	Pearson カイ2乗			
	2017年度 仙台 n=121		2017年度 横浜 n=268		2018年度 名古屋 n=320		2017年度 中国 n=328		2017年度 四国 n=179				2019年度 沖縄 n=238		
過去6ヶ月間に彼氏や恋人などとHIVやエイズについて話したことがありますか？															
ある	29	24.0%	56	20.9%	81	25.3%	68	20.7%	40	22.3%	52	21.8%	326	22.4%	0.25
ない	59	48.8%	154	57.5%	177	55.3%	190	57.9%	90	50.3%	117	49.2%	787	54.1%	
彼氏や恋人はいなかった	29	24.0%	54	20.1%	57	17.8%	66	20.1%	46	25.7%	67	28.2%	319	21.9%	
無回答	4	3.3%	4	1.5%	5	1.6%	4	1.2%	3	1.7%	2	0.8%	22	1.5%	
過去6ヶ月間に友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがありますか？															
ある	46	38.0%	88	32.8%	125	39.1%	112	34.1%	69	38.5%	77	32.4%	517	35.6%	0.55
ない	67	55.4%	162	60.4%	184	57.5%	198	60.4%	100	55.9%	150	63.0%	861	59.2%	
友達はなかった	4	3.3%	14	5.2%	5	1.6%	12	3.7%	6	3.4%	9	3.8%	50	3.4%	
無回答	4	3.3%	4	1.5%	6	1.9%	6	1.8%	4	2.2%	2	0.8%	26	1.8%	
過去6ヶ月間にゲイバーでお店の人やお客さんとHIVやエイズについて話したことがありますか？															
ある	43	35.5%	88	32.8%	115	35.9%	111	33.8%	70	39.1%	79	33.2%	506	34.8%	0.78
ない	74	61.2%	176	65.7%	199	62.2%	213	64.9%	106	59.2%	157	66.0%	925	63.6%	
無回答	4	3.3%	4	1.5%	6	1.9%	4	1.2%	3	1.7%	2	0.8%	23	1.6%	
過去6ヶ月間に、親や兄弟姉妹などの家族とHIVやエイズについて話したことがありますか？															
ある	5	4.1%	9	3.4%	17	5.3%	13	4.0%	8	4.5%	11	4.6%	63	4.3%	0.89
ない	103	85.1%	236	88.1%	271	84.7%	288	87.8%	161	89.9%	210	88.2%	1269	87.3%	
家族はいない	9	7.4%	20	7.5%	26	8.1%	23	7.0%	7	3.9%	14	5.9%	99	6.8%	
無回答	4	3.3%	3	1.1%	6	1.9%	4	1.2%	3	1.7%	3	1.3%	23	1.6%	
あなたはこれまでに性感染症にかかったことがありますか？															
ある	39	32.2%	111	41.4%	129	40.3%	103	31.4%	50	27.9%	81	34.0%	513	35.3%	0.01
ない	78	64.5%	155	57.8%	182	56.9%	221	67.4%	128	71.5%	154	64.7%	918	63.1%	
無回答	4	3.3%	2	0.7%	9	2.8%	4	1.2%	1	0.6%	3	1.3%	23	1.6%	
これまでにかかったことのある性感染症はどれですか？(複数回答)															
梅毒	6	5.0%	26	9.7%	31	9.7%	23	7.0%	7	3.9%	32	13.4%	125	8.6%	<0.01
A型肝炎	0	0.0%	2	0.7%	6	1.9%	1	0.3%	0	0.0%	5	2.1%	14	1.0%	<0.01
B型肝炎	7	5.8%	13	4.9%	20	6.3%	17	5.2%	4	2.2%	9	3.8%	70	4.8%	<0.01
C型肝炎	1	0.8%	2	0.7%	1	0.3%	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	7	0.5%	<0.01
クラミジア	4	3.3%	19	7.1%	15	4.7%	10	3.0%	7	3.9%	4	1.7%	59	4.1%	<0.01
尖圭コンジローマ	2	1.7%	4	1.5%	9	2.8%	12	3.7%	3	1.7%	4	1.7%	34	2.3%	<0.01
淋病	6	5.0%	15	5.6%	14	4.4%	15	4.6%	2	1.1%	6	2.5%	58	4.0%	<0.01
HIV感染症	5	4.1%	9	3.4%	9	2.8%	9	2.7%	4	2.2%	3	1.3%	39	2.7%	<0.01
赤痢アメーバ	1	0.8%	2	0.7%	4	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	8	0.6%	<0.01
毛じらみ	27	22.3%	72	26.9%	74	23.1%	52	15.9%	32	17.9%	55	23.1%	312	21.5%	<0.01
性器ヘルペス	0	0.0%	7	2.6%	6	1.9%	2	0.6%	4	2.2%	5	2.1%	24	1.7%	<0.01
その他	2	1.7%	1	0.4%	3	0.9%	5	1.5%	5	2.8%	3	1.3%	19	1.3%	<0.01
過去1年間にかかったことのある性感染症はありますか？(複数回答)															
梅毒	1	0.8%	3	1.1%	5	1.6%	1	0.3%	1	0.6%	5	2.1%	16	1.1%	<0.01
A型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.1%	<0.01
B型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.2%	<0.01
C型肝炎	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	<0.01
クラミジア	1	0.8%	2	0.7%	2	0.6%	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%	7	0.5%	<0.01
尖圭コンジローマ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.2%	<0.01
淋病	1	0.8%	1	0.4%	0	0.0%	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	5	0.3%	<0.01
HIV感染症	0	0.0%	2	0.7%	2	0.6%	1	0.3%	0	0.0%	2	0.8%	7	0.5%	<0.01
赤痢アメーバ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
毛じらみ	3	2.5%	6	2.2%	5	1.6%	5	1.5%	1	0.6%	2	0.8%	22	1.5%	<0.01
性器ヘルペス	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	<0.01
その他	0	0.0%	1	0.4%	3	0.9%	3	0.9%	4	2.2%	3	1.3%	14	1.0%	<0.01
過去1年間にはなし	31	25.6%	98	36.6%	96	30.0%	84	25.6%	41	22.9%	66	27.7%	416	28.6%	<0.01

表10 コミュニティアンケート 配布地域別 性感染症及び予防行動に関する知識、態度

	配布地域						合計 n=1454	Pearson カイ2乗
	2017年度 仙台 n=121	2017年度 横浜 n=268	2018年度 名古屋 n=320	2017年度 中国 n=328	2017年度 四国 n=179	2019年度 沖縄 n=238		
	(1)HIV感染症に感染したら、セックスする前にそのことを伝えたいと思う							
とてもそう思う	79 65.3%	152 56.7%	197 61.6%	191 58.2%	128 71.5%	157 66.0%	904 62.2%	0.02
ややそう思う	21 17.4%	63 23.5%	81 25.3%	87 26.5%	35 19.6%	49 20.6%	336 23.1%	
あまりそう思わない	8 6.6%	29 10.8%	20 6.3%	25 7.6%	5 2.8%	17 7.1%	104 7.2%	
全くそう思わない	7 5.8%	16 6.0%	12 3.8%	20 6.1%	9 5.0%	5 2.1%	69 4.7%	
無回答	6 5.0%	8 3.0%	10 3.1%	5 1.5%	2 1.1%	10 4.2%	41 2.8%	
(2)性感染症に感染すれば、自分自身を振り返って悪いことしたなと感じる								
とてもそう思う	63 52.1%	137 51.1%	151 47.2%	158 48.2%	87 48.6%	130 54.6%	726 49.9%	0.73
ややそう思う	33 27.3%	83 31.0%	107 33.4%	113 34.5%	55 30.7%	70 29.4%	461 31.7%	
あまりそう思わない	13 10.7%	26 9.7%	31 9.7%	30 9.1%	24 13.4%	21 8.8%	145 10.0%	
全くそう思わない	6 5.0%	15 5.6%	20 6.3%	21 6.4%	9 5.0%	7 2.9%	78 5.4%	
無回答	6 5.0%	7 2.6%	11 3.4%	6 1.8%	4 2.2%	10 4.2%	44 3.0%	
(3)性感染症に感染すれば、セックスする相手は見つけにくくなると思う								
とてもそう思う	70 57.9%	170 63.4%	170 53.1%	198 60.4%	113 63.1%	143 60.1%	864 59.4%	0.02
ややそう思う	31 25.6%	48 17.9%	87 27.2%	92 28.0%	48 26.8%	56 23.5%	362 24.9%	
あまりそう思わない	10 8.3%	29 10.8%	34 10.6%	16 4.9%	8 4.5%	18 7.6%	115 7.9%	
全くそう思わない	4 3.3%	14 5.2%	18 5.6%	15 4.6%	8 4.5%	8 3.4%	67 4.6%	
無回答	6 5.0%	7 2.6%	11 3.4%	7 2.1%	2 1.1%	13 5.5%	46 3.2%	
(4)性感染症に感染すれば、友達と今までのようにはつきあえなくなると思う								
とてもそう思う	29 24.0%	71 26.5%	53 16.6%	81 24.7%	44 24.6%	42 17.6%	320 22.0%	0.05
ややそう思う	35 28.9%	71 26.5%	108 33.8%	95 29.0%	48 26.8%	64 26.9%	421 29.0%	
あまりそう思わない	34 28.1%	82 30.6%	91 28.4%	96 29.3%	63 35.2%	80 33.6%	446 30.7%	
全くそう思わない	17 14.0%	36 13.4%	58 18.1%	52 15.9%	22 12.3%	40 16.8%	225 15.5%	
無回答	6 5.0%	8 3.0%	10 3.1%	4 1.2%	2 1.1%	12 5.0%	42 2.9%	
(5)性感染症に感染したことが周りの友達に知られたら、嫌な印象を持たれると思う								
とてもそう思う	57 47.1%	132 49.3%	141 44.1%	172 52.4%	78 43.6%	79 33.2%	659 45.3%	0.02
ややそう思う	43 35.5%	89 33.2%	117 36.6%	107 32.6%	70 39.1%	96 40.3%	522 35.9%	
あまりそう思わない	12 9.9%	28 10.4%	39 12.2%	27 8.2%	21 11.7%	37 15.5%	164 11.3%	
全くそう思わない	3 2.5%	12 4.5%	13 4.1%	16 4.9%	8 4.5%	13 5.5%	65 4.5%	
無回答	6 5.0%	7 2.6%	10 3.1%	6 1.8%	2 1.1%	13 5.5%	44 3.0%	
(6)HIVに感染しているかどうかは、ぎりぎりまであまいままにしておきたい								
とてもそう思う	20 16.5%	44 16.4%	49 15.3%	53 16.2%	27 15.1%	41 17.2%	234 16.1%	0.79
ややそう思う	25 20.7%	67 25.0%	74 23.1%	81 24.7%	44 24.6%	49 20.6%	340 23.4%	
あまりそう思わない	27 22.3%	71 26.5%	88 27.5%	98 29.9%	43 24.0%	67 28.2%	394 27.1%	
全くそう思わない	43 35.5%	78 29.1%	98 30.6%	89 27.1%	62 34.6%	69 29.0%	439 30.2%	
無回答	6 5.0%	8 3.0%	11 3.4%	7 2.1%	3 1.7%	12 5.0%	47 3.2%	
(7)性感染症の検査を受けることで、多くの人と「ナマ」でやりまくっていると、周りの友達から思われる								
とてもそう思う	22 18.2%	54 20.1%	64 20.0%	49 14.9%	27 15.1%	52 21.8%	268 18.4%	0.02
ややそう思う	27 22.3%	61 22.8%	72 22.5%	104 31.7%	45 25.1%	69 29.0%	378 26.0%	
あまりそう思わない	31 25.6%	78 29.1%	96 30.0%	98 29.9%	53 29.6%	62 26.1%	418 28.7%	
全くそう思わない	34 28.1%	68 25.4%	77 24.1%	71 21.6%	52 29.1%	41 17.2%	343 23.6%	
無回答	7 5.8%	7 2.6%	11 3.4%	6 1.8%	2 1.1%	14 5.9%	47 3.2%	
(8)HIVを持っている人はセックスする前に、そのことを相手に話すべきだと思う								
とてもそう思う	79 65.3%	173 64.6%	211 65.9%	215 65.5%	127 70.9%	161 67.6%	966 66.4%	0.42
ややそう思う	25 20.7%	57 21.3%	64 20.0%	72 22.0%	37 20.7%	47 19.7%	302 20.8%	
あまりそう思わない	7 5.8%	20 7.5%	23 7.2%	21 6.4%	6 3.4%	15 6.3%	92 6.3%	
全くそう思わない	4 3.3%	11 4.1%	12 3.8%	14 4.3%	7 3.9%	2 0.8%	50 3.4%	
無回答	6 5.0%	7 2.6%	10 3.1%	6 1.8%	2 1.1%	13 5.5%	44 3.0%	
抗HIV薬の服薬治療により、体内のウイルス量が検出限界未満となり、それを維持することで、HIVを他者に感染させる可能性がほとんどゼロに近くなることを知っているか？								
知っている	55 45.5%	99 36.9%	176 55.0%	129 39.3%	81 45.3%	117 49.2%	657 45.2%	<0.01
知らない	61 50.4%	162 60.4%	133 41.6%	195 59.5%	97 54.2%	109 45.8%	757 52.1%	
無回答	5 4.1%	7 2.6%	11 3.4%	4 1.2%	1 0.6%	12 5.0%	40 2.8%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」や「HIVに感染したかもしれないときの予防服薬(PEP)」に関する上記のような情報について、知っていましたか？								
とてもよく知っている	9 7.4%	14 5.2%	27 8.4%	16 4.9%	11 6.1%	25 10.5%	102 7.0%	<0.01
聞いたことはある	31 25.6%	70 26.1%	132 41.3%	89 27.1%	55 30.7%	83 34.9%	460 31.6%	
まったく知らなかった	76 62.8%	179 66.8%	151 47.2%	219 66.8%	112 62.6%	120 50.4%	857 58.9%	
無回答	5 4.1%	5 1.9%	10 3.1%	4 1.2%	1 0.6%	10 4.2%	35 2.4%	
友達や知り合い、セックスの相手で、HIV陰性者の中に「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」をしている人はいると思いますか？								
いる	2 1.7%	14 5.2%	17 5.3%	15 4.6%	4 2.2%	20 8.4%	72 5.0%	0.01
いると思う	22 18.2%	37 13.8%	68 21.3%	47 14.3%	26 14.5%	50 21.0%	250 17.2%	
いないと思う	30 24.8%	58 21.6%	59 18.4%	81 24.7%	52 29.1%	44 18.5%	324 22.3%	
いない	4 3.3%	16 6.0%	9 2.8%	20 6.1%	5 2.8%	9 3.8%	63 4.3%	
わからない	58 47.9%	138 51.5%	158 49.4%	159 48.5%	91 50.8%	106 44.5%	710 48.8%	
無回答	5 4.1%	5 1.9%	9 2.8%	6 1.8%	1 0.6%	9 3.8%	35 2.4%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」を服薬したいと思いますか？								
服薬したい	27 22.3%	59 22.0%	72 22.5%	83 25.3%	56 31.3%	82 34.5%	379 26.1%	0.06
どちらかといえば、服薬したい	44 36.4%	92 34.3%	107 33.4%	110 33.5%	69 38.5%	89 37.4%	511 35.1%	
どちらかといえば、服薬したくない	25 20.7%	52 19.4%	73 22.8%	63 19.2%	30 16.8%	31 13.0%	274 18.8%	
服薬したくない	17 14.0%	52 19.4%	53 16.6%	54 16.5%	18 10.1%	25 10.5%	219 15.1%	
抗HIV薬の服薬治療を続けている	2 1.7%	6 2.2%	3 0.9%	6 1.8%	2 1.1%	2 0.8%	21 1.4%	
無回答	6 5.0%	7 2.6%	12 3.8%	12 3.7%	4 2.2%	9 3.8%	50 3.4%	

表11 コミュニティアンケート 配布地域別 性行動①

	配布地域										合計 n=1454	Pearson カイ2乗			
	2017年度 仙台 n=121		2017年度 横浜 n=268		2018年度 名古屋 n=320		2017年度 中国 n=328		2017年度 四国 n=179				2019年度 沖縄 n=238		
過去6ヶ月間に、コンドームを買ったことがありますか？															
ある	49	40.5%	82	30.6%	109	34.1%	105	32.0%	51	28.5%	64	26.9%	460	31.6%	0.06
ない	68	56.2%	181	67.5%	201	62.8%	220	67.1%	127	70.9%	166	69.7%	963	66.2%	
無回答	4	3.3%	5	1.9%	10	3.1%	3	0.9%	1	0.6%	8	3.4%	31	2.1%	
過去6ヶ月間に、コンドームをすぐに使えるよういつも身近に持っていましたか？															
いつも持っていた	33	27.3%	73	27.2%	71	22.2%	79	24.1%	46	25.7%	75	31.5%	377	25.9%	0.09
時々持っていた	41	33.9%	70	26.1%	106	33.1%	97	29.6%	62	34.6%	65	27.3%	441	30.3%	
持っていなかった	43	35.5%	119	44.4%	133	41.6%	148	45.1%	70	39.1%	88	37.0%	601	41.3%	
無回答	4	3.3%	6	2.2%	10	3.1%	4	1.2%	1	0.6%	10	4.2%	35	2.4%	
あなたはこれまでに男性とセックスをしたことがありますか？															
ある	115	95.0%	259	96.6%	296	92.5%	318	97.0%	174	97.2%	217	91.2%	1379	94.8%	0.02
ない	5	4.1%	8	3.0%	21	6.6%	10	3.0%	4	2.2%	16	6.7%	64	4.4%	
無回答	1	0.8%	1	0.4%	3	0.9%	0	0.0%	1	0.6%	5	2.1%	11	0.8%	

表12 コミュニティアンケート 配布地域別 性行動②

	配布地域										合計 n=1379	Pearson カイ2乗				
	2017年度 仙台 n=115		2017年度 横浜 n=259		2018年度 名古屋 n=296		2017年度 中国 n=318		2017年度 四国 n=174				2019年度 沖縄 n=217			
過去6ヶ月間に口内射精をしたことがありますか？または、口内射精をされたことはありますか？																
どちらもある	43	37.4%	83	32.0%	87	29.4%	79	24.8%	51	29.3%	71	32.7%	414	30.0%	<0.01	
口内射精したことがある	22	19.1%	57	22.0%	42	14.2%	76	23.9%	32	18.4%	35	16.1%	264	19.1%		
口内射精されたことがある	0	0.0%	0	0.0%	34	11.5%	0	0.0%	0	0.0%	17	7.8%	51	3.7%		
どちらもない	48	41.7%	115	44.4%	132	44.6%	160	50.3%	83	47.7%	93	42.9%	631	45.8%		
無回答	2	1.7%	4	1.5%	1	0.3%	3	0.9%	8	4.6%	1	0.5%	19	1.4%		
過去6ヶ月間に、相手からお金をもらって、セックスをしたことがありますか？																
ある	11	9.6%	11	4.2%	7	2.4%	8	2.5%	12	6.9%	15	6.9%	64	4.6%	<0.01	
ない	103	89.6%	246	95.0%	288	97.3%	308	96.9%	158	90.8%	202	93.1%	1305	94.6%		
無回答	1	0.9%	2	0.8%	1	0.3%	2	0.6%	4	2.3%	0	0.0%	10	0.7%		
過去6ヶ月間に、相手にお金を払らって、セックスをしたことがありますか？																
ある	7	6.1%	9	3.5%	18	6.1%	21	6.6%	8	4.6%	15	6.9%	78	5.7%	0.09	
ない	107	93.0%	248	95.8%	278	93.9%	296	93.1%	162	93.1%	202	93.1%	1293	93.8%		
無回答	1	0.9%	2	0.8%	0	0.0%	1	0.3%	4	2.3%	0	0.0%	8	0.6%		
過去6ヶ月間に、セックスの時に使用したものはありますか？(複数回答)																
水溶性ローション	73	63.5%	159	61.4%	200	67.6%	187	58.8%	102	58.6%	156	71.9%	877	63.6%	0.03	
ばっ起薬	14	12.2%	30	11.6%	44	14.9%	36	11.3%	12	6.9%	34	15.7%	170	12.3%		0.16
ラッシュ	2	1.7%	15	5.8%	9	3.0%	9	2.8%	0	0.0%	4	1.8%	39	2.8%		0.03
ゴメオ	0	0.0%	2	0.8%	2	0.7%	2	0.6%	0	0.0%	1	0.5%	7	0.5%	0.67	
スピードなど	0	0.0%	2	0.8%	2	0.7%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	5	0.4%	0.50	
その他の合ドラ	0	0.0%	3	1.2%	1	0.3%	3	0.9%	1	0.6%	1	0.5%	9	0.7%	0.60	
静脈注射のドラッグ	0	0.0%	0	0.0%	3	1.0%	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%	5	0.4%	0.33	
違法ドラッグ	0	0.0%	1	0.4%	4	1.4%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	6	0.4%	0.19	
PrEP	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	2	0.6%	0	0.0%	2	0.9%	5	0.4%	0.45	
PEP	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	0.55	
いずれも使用していない	31	27.0%	80	30.9%	78	26.4%	112	35.2%	58	33.3%	52	24.0%	411	29.8%	0.07	
過去6ヶ月間のセックス時の薬物併用経験(再掲)																
いずれもなし(無回答含む)	100	87.0%	222	85.7%	249	84.1%	275	86.5%	161	92.5%	178	82.0%	1185	85.9%	0.03	
パイアグラのみ使用	13	11.3%	20	7.7%	36	12.2%	29	9.1%	11	6.3%	31	14.3%	140	10.2%		
併用	2	1.7%	17	6.6%	11	3.7%	14	4.4%	2	1.1%	8	3.7%	54	3.9%		
あなたはこれまでに男性とAnalセックスをしたことがありますか？																
ある	106	92.2%	225	86.9%	280	94.6%	270	84.9%	160	92.0%	191	88.0%	1232	89.3%	0.01	
ない	9	7.8%	34	13.1%	16	5.4%	47	14.8%	13	7.5%	26	12.0%	145	10.5%		
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%	2	0.1%		

* これまでに男性とセックスをしたことがある人を対象として分析

表13 コミュニティアンケート 配布地域別 過去6ヶ月間の性行動および予防行動①

	配布地域						合計 n=1232	Pearson カイ2乗								
	2017年度 仙台 n=106	2017年度 横浜 n=225	2018年度 名古屋 n=280	2017年度 中国 n=270	2017年度 四国 n=160	2019年度 沖縄 n=191										
あなたはこれまでにコンドームを使わずに男性とアナルセックスをしたことがありますか？																
ある	82	77.4%	179	79.6%	242	86.4%	207	76.7%	125	78.1%	153	80.1%	988	80.2%	0.08	
ない	22	20.8%	40	17.8%	37	13.2%	58	21.5%	32	20.0%	38	19.9%	227	18.4%		
無回答	2	1.9%	6	2.7%	1	0.4%	5	1.9%	3	1.9%	0	0.0%	17	1.4%		
あなたが一番最近にアナルセックスをしたのはいつですか？																
現在から過去6ヶ月の間	84	79.2%	150	66.7%	188	67.1%	180	66.7%	101	63.1%	135	70.7%	838	68.0%	<0.01	
過去6ヶ月から過去1年の間	9	8.5%	5	2.2%	19	6.8%	9	3.3%	10	6.3%	10	5.2%	62	5.0%		
1年以上前	11	10.4%	48	21.3%	61	21.8%	66	24.4%	35	21.9%	37	19.4%	258	20.9%		
覚えていない	2	1.9%	19	8.4%	12	4.3%	15	5.6%	14	8.8%	8	4.2%	70	5.7%		
無回答	0	0.0%	3	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	4	0.3%		
一番最近にアナルセックスをした(タチ・ウケどちらでも)相手はどれにあてはまりますか？																
彼氏や恋人	36	34.0%	79	35.1%	97	34.6%	100	37.0%	53	33.1%	71	37.2%	436	35.4%	0.04	
友達やセクフレ	40	37.7%	62	27.6%	105	37.5%	66	24.4%	46	28.8%	60	31.4%	379	30.8%		
その場限りの相手	24	22.6%	70	31.1%	68	24.3%	96	35.6%	55	34.4%	54	28.3%	367	29.8%		
その他	5	4.7%	6	2.7%	8	2.9%	4	1.5%	2	1.3%	3	1.6%	28	2.3%		
無回答	1	0.9%	8	3.6%	2	0.7%	4	1.5%	4	2.5%	3	1.6%	22	1.8%		
一番最近にアナルセックスをしたときに、コンドームを使いましたか？																
使った	54	50.9%	109	48.4%	139	49.6%	137	50.7%	94	58.8%	91	47.6%	624	50.6%	0.56	
使わなかった/覚えていない	51	48.1%	110	48.9%	138	49.3%	129	47.8%	62	38.8%	96	50.3%	586	47.6%		
無回答	1	0.9%	6	2.7%	3	1.1%	4	1.5%	4	2.5%	4	2.1%	22	1.8%		
そのときの相手と、どこで知り合いましたか？																
ゲイバー	37	34.9%	65	28.9%	70	25.0%	91	33.7%	45	28.1%	63	33.0%	371	30.1%	<0.01	
ゲイナイト(クラブ)	0	0.0%	2	0.9%	1	0.4%	5	1.9%	4	2.5%	3	1.6%	15	1.2%		
ゲイショップ	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%		
出会い系サイト	13	12.3%	25	11.1%	31	11.1%	39	14.4%	22	13.8%	15	7.9%	145	11.8%		
10系SNS	3	2.8%	4	1.8%	6	2.1%	7	2.6%	3	1.9%	6	3.1%	29	2.4%		
mixi	0	0.0%	2	0.9%	2	0.7%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	5	0.4%		
Facebook	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	2	0.2%		
twitter	5	4.7%	4	1.8%	11	3.9%	9	3.3%	9	5.6%	3	1.6%	41	3.3%		
VERO	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.0%	2	0.2%		
Amber	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	1	0.1%		
スマホのゲイ向けアプリ	19	17.9%	33	14.7%	76	27.1%	48	17.8%	46	28.8%	41	21.5%	263	21.3%		
ゲイサークル	1	0.9%	5	2.2%	3	1.1%	4	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	13	1.1%		
ゲイの合コン	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%		
ゲイの乱パ	0	0.0%	2	0.9%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	4	0.3%		
有料ハッテン場	4	3.8%	40	17.8%	38	13.6%	36	13.3%	10	6.3%	22	11.5%	150	12.2%		
野外ハッテン場	0	0.0%	2	0.9%	2	0.7%	4	1.5%	0	0.0%	6	3.1%	14	1.1%		
ハッテン場で有名な施設	1	0.9%	9	4.0%	10	3.6%	2	0.7%	3	1.9%	6	3.1%	31	2.5%		
ゲイ雑誌の文通欄	1	0.9%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%		
学校、習い事	0	0.0%	2	0.9%	0	0.0%	2	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.3%		
職場、バイト先	4	3.8%	0	0.0%	2	0.7%	2	0.7%	1	0.6%	2	1.0%	11	0.9%		
その他	9	8.5%	19	8.4%	14	5.0%	11	4.1%	6	3.8%	8	4.2%	67	5.4%		
覚えていない	7	6.6%	1	0.4%	8	2.9%	5	1.9%	4	2.5%	8	4.2%	33	2.7%		
無回答	2	1.9%	8	3.6%	3	1.1%	5	1.9%	6	3.8%	3	1.6%	27	2.2%		
そのときの相手と、どこで知り合いましたか？(再掲)																
ゲイバー	37	34.9%	65	28.9%	70	25.0%	91	33.7%	45	28.1%	63	33.0%	371	30.1%		<0.01
ゲイナイト/その他	22	20.8%	30	13.3%	30	10.7%	29	10.7%	15	9.4%	21	11.0%	147	11.9%		
ハッテン場/乱パ	5	4.7%	53	23.6%	51	18.2%	42	15.6%	13	8.1%	35	18.3%	199	16.2%		
掲示板/アプリ	40	37.7%	69	30.7%	126	45.0%	103	38.1%	81	50.6%	69	36.1%	488	39.6%		
無回答	2	1.9%	8	3.6%	3	1.1%	5	1.9%	6	3.8%	3	1.6%	27	2.2%		
過去6ヶ月間に男性とアナルセックスをしたことがありますか？																
ある	84	79.2%	150	66.7%	188	67.1%	180	66.7%	101	63.1%	135	70.7%	838	68.0%	0.20	
ない	22	20.8%	74	32.9%	92	32.9%	90	33.3%	59	36.9%	56	29.3%	393	31.9%		
無回答	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%		

* これまでに男性とアナルセックスをしたことがある人を対象として分析

表14 コミュニティアンケート 配布地域別 過去6ヵ月間の性行動および予防行動②

	配布地域						合計 n=838	Pearson カイ2乗
	2017年度 仙台 n=84	2017年度 横浜 n=150	2018年度 名古屋 n=188	2017年度 中国 n=180	2017年度 四国 n=101	2019年度 沖縄 n=135		
過去6ヵ月間に全部で何人とアナルセックスをしましたか？								
1人	30 35.7%	41 27.3%	64 34.0%	71 39.4%	35 34.7%	45 33.3%	286 34.1%	0.88
2人	10 11.9%	27 18.0%	32 17.0%	20 11.1%	11 10.9%	23 17.0%	123 14.7%	
3人	12 14.3%	24 16.0%	27 14.4%	24 13.3%	15 14.9%	15 11.1%	117 14.0%	
4人	4 4.8%	7 4.7%	9 4.8%	6 3.3%	6 5.9%	6 4.4%	38 4.5%	
5人	2 2.4%	4 2.7%	6 3.2%	6 3.3%	4 4.0%	8 5.9%	30 3.6%	
6人以上	18 21.4%	32 21.3%	26 13.8%	33 18.3%	14 13.9%	24 17.8%	147 17.5%	
無回答	8 9.5%	15 10.0%	24 12.8%	20 11.1%	16 15.8%	14 10.4%	97 11.6%	
過去6ヵ月間にアナルセックスをどのくらいしましたか？								
月に1回程度以下	45 53.6%	75 50.0%	110 58.5%	102 56.7%	50 49.5%	76 56.3%	458 54.7%	0.16
月に2～3回	20 23.8%	34 22.7%	40 21.3%	40 22.2%	30 29.7%	25 18.5%	189 22.6%	
週1回程度	4 4.8%	18 12.0%	10 5.3%	16 8.9%	2 2.0%	11 8.1%	61 7.3%	
週2～4回	4 4.8%	5 3.3%	1 0.5%	3 1.7%	1 1.0%	5 3.7%	19 2.3%	
週5以上	2 2.4%	1 0.7%	3 1.6%	2 1.1%	0 0.0%	3 2.2%	11 1.3%	
無回答	9 10.7%	17 11.3%	24 12.8%	17 9.4%	18 17.8%	15 11.1%	100 11.9%	
過去6ヵ月間のコンドーム使用状況								
非常用	57 67.9%	98 65.3%	126 67.0%	117 65.0%	63 62.4%	89 65.9%	550 65.6%	0.42
常用	27 32.1%	49 32.7%	62 33.0%	60 33.3%	38 37.6%	46 34.1%	282 33.7%	
無回答	0 0.0%	3 2.0%	0 0.0%	3 1.7%	0 0.0%	0 0.0%	6 0.7%	
過去6ヵ月間に、彼氏や恋人などの相手とアナルセックス(タチ・ウケどちらでも)をしたことがありますか？								
ある	49 58.3%	81 54.0%	124 66.0%	111 61.7%	60 59.4%	87 64.4%	512 61.1%	0.24
ない	34 40.5%	69 46.0%	64 34.0%	67 37.2%	41 40.6%	48 35.6%	323 38.5%	
無回答	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	3 0.4%	
過去6ヵ月間の特定相手人数 ¹⁾								
5人未満	39 79.6%	63 77.8%	91 73.4%	88 79.3%	50 83.3%	60 69.0%	391 76.4%	0.27
5人以上	3 6.1%	8 9.9%	7 5.6%	12 10.8%	4 6.7%	10 11.5%	44 8.6%	
無回答	7 14.3%	10 12.3%	26 21.0%	11 9.9%	6 10.0%	17 19.5%	77 15.0%	
過去6ヵ月間の特定相手とのコンドーム使用状況 ¹⁾								
非常用	40 81.6%	53 65.4%	79 63.7%	71 64.0%	39 65.0%	65 74.7%	347 67.8%	0.05
常用	9 18.4%	25 30.9%	45 36.3%	37 33.3%	21 35.0%	22 25.3%	159 31.1%	
無回答	0 0.0%	3 3.7%	0 0.0%	3 2.7%	0 0.0%	0 0.0%	6 1.2%	
過去6ヵ月間に、友達やセフレなど、恋人ではない特定の相手とアナルセックス(タチ・ウケどちらでも)をしたことがありますか？								
ある	60 71.4%	116 77.3%	134 71.3%	120 66.7%	72 71.3%	91 67.4%	593 70.8%	0.11
ない	24 28.6%	31 20.7%	54 28.7%	57 31.7%	29 28.7%	44 32.6%	239 28.5%	
無回答	0 0.0%	3 2.0%	0 0.0%	3 1.7%	0 0.0%	0 0.0%	6 0.7%	
過去6ヵ月間の友達・セフレ相手人数 ²⁾								
5人未満	40 66.7%	76 65.5%	101 75.4%	81 67.5%	54 75.0%	59 64.8%	411 69.3%	0.77
5人以上	14 23.3%	30 25.9%	23 17.2%	27 22.5%	13 18.1%	25 27.5%	132 22.3%	
無回答	6 10.0%	10 8.6%	10 7.5%	12 10.0%	5 6.9%	7 7.7%	50 8.4%	
過去6ヵ月間の友達・セフレとのコンドーム使用状況 ²⁾								
非常用	36 60.0%	71 61.2%	84 62.7%	72 60.0%	43 59.7%	53 58.2%	359 60.5%	0.97
常用	23 38.3%	45 38.8%	48 35.8%	47 39.2%	29 40.3%	37 40.7%	229 38.6%	
無回答	1 1.7%	0 0.0%	2 1.5%	1 0.8%	0 0.0%	1 1.1%	5 0.8%	
過去6ヵ月間に、その場限りの相手とアナルセックス(タチ・ウケどちらでも)をしたことがありますか？								
ある	51 60.7%	98 65.3%	100 53.2%	104 57.8%	53 52.5%	69 51.1%	475 56.7%	0.03
ない	33 39.3%	46 30.7%	86 45.7%	71 39.4%	48 47.5%	64 47.4%	348 41.5%	
無回答	0 0.0%	6 4.0%	2 1.1%	5 2.8%	0 0.0%	2 1.5%	15 1.8%	
過去6ヵ月間の不特定相手人数 ³⁾								
5人未満	31 60.8%	58 59.2%	65 65.0%	63 60.6%	36 67.9%	44 63.8%	297 62.5%	0.43
5人以上	15 29.4%	32 32.7%	19 19.0%	33 31.7%	13 24.5%	19 27.5%	131 27.6%	
無回答	5 9.8%	8 8.2%	16 16.0%	8 7.7%	4 7.5%	6 8.7%	47 9.9%	
過去6ヵ月間の不特定相手とのコンドーム使用状況 ³⁾								
非常用	32 62.7%	57 58.2%	58 58.0%	56 53.8%	28 52.8%	39 56.5%	270 56.8%	0.99
常用	19 37.3%	40 40.8%	41 41.0%	46 44.2%	24 45.3%	29 42.0%	199 41.9%	
無回答	0 0.0%	1 1.0%	1 1.0%	2 1.9%	1 1.9%	1 1.4%	6 1.3%	

1)特定相手とのアナルセックスありの人を対象として分析 2)友達・セフレとのアナルセックスありの人を対象として分析
3)その場限りの相手とのアナルセックスありの人を対象として分析

*過去6ヵ月間に男性とアナルセックスをしたことがある人を対象として分析

表15 GCQ アンケート 配布地域別 基本属性

	配布地域						合計 N=360	Pearson カイ2乗	
	2018年度 沖縄 N=100		2018年度 大阪 N=142		2019年度 東京 N=118				
居住地									
茨城県	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%	2	0.6%	<0.01
埼玉県	0	0.0%	0	0.0%	10	8.5%	10	2.8%	
千葉県	0	0.0%	0	0.0%	4	3.4%	4	1.1%	
東京都	0	0.0%	0	0.0%	88	74.6%	88	24.4%	
神奈川県	0	0.0%	0	0.0%	14	11.9%	14	3.9%	
滋賀県	0	0.0%	4	2.8%	0	0.0%	4	1.1%	
京都府	0	0.0%	12	8.5%	0	0.0%	12	3.3%	
大阪府	0	0.0%	94	66.2%	0	0.0%	94	26.1%	
兵庫県	0	0.0%	24	16.9%	0	0.0%	24	6.7%	
奈良県	0	0.0%	5	3.5%	0	0.0%	5	1.4%	
和歌山県	0	0.0%	3	2.1%	0	0.0%	3	0.8%	
沖縄県	100	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	100	27.8%	
年齢階級									
29歳以下	46	46.0%	52	36.6%	31	26.3%	129	35.8%	<0.01
30～39歳	31	31.0%	62	43.7%	36	30.5%	129	35.8%	
40歳以上	23	23.0%	28	19.7%	51	43.2%	102	28.3%	
居住期間									
5年未満	18	18.0%	48	33.8%	43	36.4%	109	30.3%	<0.01
5年以上10年未満	7	7.0%	21	14.8%	11	9.3%	39	10.8%	
10年以上	75	75.0%	73	51.4%	64	54.2%	212	58.9%	
あなたの出身国はどこですか？									
日本	97	97.0%	136	95.8%	110	93.2%	343	95.3%	0.40
海外	3	3.0%	6	4.2%	8	6.8%	17	4.7%	
あなたは現在だれかと一緒に暮らしていますか？									
一人暮らし	40	40.0%	80	56.3%	64	54.2%	184	51.1%	0.03
家族と同居	40	40.0%	42	29.6%	28	23.7%	110	30.6%	
家族以外と同居	20	20.0%	20	14.1%	26	22.0%	66	18.3%	
性別									
男性	99	99.0%	138	97.2%	116	98.3%	353	98.1%	0.58
その他	1	1.0%	4	2.8%	2	1.7%	7	1.9%	
あなたは以下のどれにあてはまりますか？									
ゲイ（同性愛者）	80	80.0%	112	78.9%	105	89.0%	297	82.5%	0.03
バイセクシュアル（両性愛者）	17	17.0%	20	14.1%	5	4.2%	42	11.7%	
ヘテロセクシュアル（異性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	1	0.3%	
トランスジェンダー	1	1.0%	3	2.1%	1	0.8%	5	1.4%	
わからない	1	1.0%	1	0.7%	4	3.4%	6	1.7%	
決めたくない	1	1.0%	5	3.5%	0	0.0%	6	1.7%	
その他	0	0.0%	1	0.7%	2	1.7%	3	0.8%	
あなたの現在の職業として、もっとも近いのは次のどれですか？									
常勤(正規雇用)	67	67.0%	89	62.7%	71	60.2%	227	63.1%	0.75
常勤(非正規雇用)	14	14.0%	19	13.4%	15	12.7%	48	13.3%	
パートタイマー	2	2.0%	2	1.4%	3	2.5%	7	1.9%	
アルバイト	7	7.0%	12	8.5%	7	5.9%	26	7.2%	
経営者	2	2.0%	5	3.5%	2	1.7%	9	2.5%	
学生	4	4.0%	6	4.2%	5	4.2%	15	4.2%	
その他	4	4.0%	9	6.3%	15	12.7%	28	7.8%	

表16 GCQ アンケート 配布地域別 商業施設利用および啓発活動認知

	配布地域						合計 N=360	Pearson カイ2乗	
	2018年度 沖縄 N=100		2018年度 大阪 N=142		2019年度 東京 N=118				
過去6ヶ月間にあなたが利用したことがあるのはどれですか？(複数回答)									
ゲイバー	76	76.0%	102	71.8%	84	71.2%	262	72.8%	0.69
ゲイナイト	28	28.0%	57	40.1%	45	38.1%	130	36.1%	0.13
ゲイショップ	4	4.0%	29	20.4%	38	32.2%	71	19.7%	<0.01
ゲイ向けスポーツサークル	12	12.0%	9	6.3%	12	10.2%	33	9.2%	0.29
ゲイ向け文化系サークル	1	1.0%	4	2.8%	5	4.2%	10	2.8%	0.35
ゲイの飲み会	11	11.0%	24	16.9%	30	25.4%	65	18.1%	0.02
PC出合い系	7	7.0%	13	9.2%	12	10.2%	32	8.9%	0.71
携帯出合い系	29	29.0%	42	29.6%	27	22.9%	98	27.2%	0.43
mixi,twitterなどのSNS	28	28.0%	60	42.3%	51	43.2%	139	38.6%	0.04
tumblr	17	17.0%	30	21.1%	13	11.0%	60	16.7%	0.09
エロ系SNS	4	4.0%	9	6.3%	11	9.3%	24	6.7%	0.29
スマホアプリ	28	28.0%	84	59.2%	42	35.6%	154	42.8%	<0.01
ゲイ向け合コン	0	0.0%	3	2.1%	2	1.7%	5	1.4%	0.36
ゲイの乱バ	1	1.0%	4	2.8%	4	3.4%	9	2.5%	0.51
有料ハッテン場	19	19.0%	58	40.8%	43	36.4%	120	33.3%	<0.01
野外ハッテン場	13	13.0%	11	7.7%	7	5.9%	31	8.6%	0.16
ハッテン場で有名な公共施設	12	12.0%	23	16.2%	19	16.1%	54	15.0%	0.61
LGBTボランティア	1	1.0%	5	3.5%	9	7.6%	15	4.2%	0.05
いずれもなし	5	5.0%	6	4.2%	10	8.5%	21	5.8%	0.32
過去6ヶ月間に、SNSや掲示板、アプリに、自分の顔や身体の画像を投稿したことがありますか？									
過去6ヶ月間に投稿したことがある	59	59.0%	101	71.1%	71	60.2%	231	64.2%	0.04
過去6ヶ月間にはないが、これまでに投稿したことがある	12	12.0%	22	15.5%	16	13.6%	50	13.9%	
全くない	29	29.0%	19	13.4%	31	26.3%	79	21.9%	
あなたは、SNSや掲示板に、裏アカウントを持っていますか？									
持っている	35	35.0%	45	31.7%	37	31.4%	117	32.5%	0.87
持っていない	61	61.0%	89	62.7%	77	65.3%	227	63.1%	
裏アカウントがわからない	4	4.0%	8	5.6%	4	3.4%	16	4.4%	
コミュニティセンターを知っていますか？(複数回答)									
ZEL	5	5.0%	4	2.8%	8	6.8%	17	4.7%	0.32
akta	9	9.0%	16	11.3%	78	66.1%	103	28.6%	<0.01
rise	2	2.0%	6	4.2%	8	6.8%	16	4.4%	0.23
dista	4	4.0%	80	56.3%	20	16.9%	104	28.9%	<0.01
mabui	58	58.0%	9	6.3%	10	8.5%	77	21.4%	<0.01
いずれも知らない	37	37.0%	61	43.0%	40	33.9%	138	38.3%	0.31
コミュニティペーパーを知っていますか？(複数回答)									
コミュニティペーパー-ZEL	5	5.0%	3	2.1%	7	5.9%	15	4.2%	0.27
フリーペーパー-akta monthly paper	4	4.0%	9	6.3%	41	34.7%	54	15.0%	<0.01
YOKOHAMA Gay Community Paper Crew	2	2.0%	2	1.4%	9	7.6%	13	3.6%	0.02
コミュニティペーパー-h.a.n.a.を	2	2.0%	4	2.8%	5	4.2%	11	3.1%	0.62
季刊誌 南界堂通信	2	2.0%	16	11.3%	3	2.5%	21	5.8%	<0.01
イクッなび	2	2.0%	25	17.6%	4	3.4%	31	8.6%	<0.01
ゲイコミュニティペーパー-Fight!!	3	3.0%	5	3.5%	4	3.4%	12	3.3%	0.97
コミュニティペーパー-season	2	2.0%	4	2.8%	1	0.8%	7	1.9%	0.52
コミュニティペーパー-nankr	32	32.0%	6	4.2%	6	5.1%	44	12.2%	<0.01
さくら新聞	4	4.0%	2	1.4%	1	0.8%	7	1.9%	0.20
いずれも知らない	62	62.0%	103	72.5%	75	63.6%	240	66.7%	0.16

表17 GCQ アンケート 配布地域別 対話経験、性感染症既往性感染症及び予防行動に関する知識

	配布地域						合計 N=360	Pearson カイ2乗	
	2018年度 沖縄 N=100		2018年度 大阪 N=142		2019年度 東京 N=118				
過去6ヶ月間に、親や兄弟姉妹などの家族とHIVやエイズについて話したことがありますか？									
ある	9	9.0%	15	10.6%	11	9.3%	35	9.7%	0.28
ない	80	80.0%	111	78.2%	102	86.4%	293	81.4%	
家族はいない	11	11.0%	16	11.3%	5	4.2%	32	8.9%	
過去6ヶ月間に、彼氏や恋人とHIVやエイズについて話したことがありますか？									
ある	24	24.0%	36	25.4%	35	29.7%	95	26.4%	0.16
ない	54	54.0%	63	44.4%	62	52.5%	179	49.7%	
恋人はいなかった	22	22.0%	43	30.3%	21	17.8%	86	23.9%	
過去6ヶ月間に、友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがありますか？									
ある	35	35.0%	75	52.8%	53	44.9%	163	45.3%	0.07
ない	59	59.0%	62	43.7%	62	52.5%	183	50.8%	
友達はいなかった	6	6.0%	5	3.5%	3	2.5%	14	3.9%	
HIV感染初期には、風邪の症状とよく似ていますが「発熱が2週間以上続く」「のどの痛みと咳が頻繁に出る」など違う部分もあります。このことを知っていますか？									
知っている	63	63.0%	93	65.5%	78	66.1%	234	65.0%	0.88
知らない	37	37.0%	49	34.5%	40	33.9%	126	35.0%	
抗HIV薬の服薬により体内のウイルス量が検出限界未満となり、それを維持することで、HIVを他者に感染させる可能性がほとんどゼロに近くなることを知っていますか？									
知っている	62	62.0%	92	64.8%	88	74.6%	242	67.2%	0.10
知らない	38	38.0%	50	35.2%	30	25.4%	118	32.8%	
A型肝炎はケツ舐めや指マンだけでも感染することがあります。ただしワクチン接種をしていると予防できます。このことを知っていますか？									
知っている			73	51.4%	73	61.9%	146	56.2%	0.09
知らない			69	48.6%	45	38.1%	114	43.8%	
今後、あなたが男性とアナルセックスをするときにどのくらいコンドームを使おうと考えていますか？									
毎回使いたい			62	43.7%	53	44.9%	115	44.2%	0.24
できるだけ使いたい			40	28.2%	31	26.3%	71	27.3%	
あまり使いたくない			5	3.5%	6	5.1%	11	4.2%	
使うつもりは全くない			1	0.7%	2	1.7%	3	1.2%	
相手によって変える			16	11.3%	5	4.2%	21	8.1%	
相手にまかせる			7	4.9%	4	3.4%	11	4.2%	
特に決めていない			11	7.7%	17	14.4%	28	10.8%	
過去6ヶ月間に、コンドームをすぐに使えるようにいつも身近に持っていましたか？									
いつも持っていた	36	36.0%	44	31.0%	34	28.8%	114	31.7%	0.55
時々持っていた	25	25.0%	45	31.7%	31	26.3%	101	28.1%	
持っていなかった	39	39.0%	53	37.3%	53	44.9%	145	40.3%	
これまでに男性とセックス（キスやフェラチオ、アナルセックス等）をしたことがありますか？									
ある	97	97.0%	140	98.6%	112	94.9%	349	96.9%	0.23
ない	3	3.0%	2	1.4%	6	5.1%	11	3.1%	
これまでに男性とアナルセックスをしたことがありますか？									
ある	91	91.0%	127	89.4%	110	93.2%	328	91.1%	0.57
ない	9	9.0%	15	10.6%	8	6.8%	32	8.9%	

表18 GCQ アンケート 配布地域別 HIV 抗体検査行動

	配布地域						合計 N=360	Pearson カイ2乗	
	2018年度 沖縄 N=100		2018年度 大阪 N=142		2019年度 東京 N=118				
これまでにHIV抗体検査（エイズ検査）を受けたことはありますか？									
ある	62	62.0%	111	78.2%	92	78.0%	265	73.6%	0.01
ない	38	38.0%	31	21.8%	26	22.0%	95	26.4%	
HIV抗体検査（エイズ検査）を受けなかった理由はどれにあてはまりますか？(複数回答) ¹⁾									
結果を知るのが怖い	10	26.3%	5	16.1%	6	23.1%	21	22.1%	0.59
HIVに感染している可能性がない	9	23.7%	14	45.2%	3	11.5%	26	27.4%	0.01
あいまいなままにしておきたい	0	0.0%	0	0.0%	1	3.8%	1	1.1%	0.26
どこで検査を受けたら良いか分からない	10	26.3%	8	25.8%	3	11.5%	21	22.1%	0.31
機会（時間や場所など）がなかった	16	42.1%	11	35.5%	11	42.3%	38	40.0%	0.82
お金がかかるから	1	2.6%	1	3.2%	1	3.8%	3	3.2%	0.96
HIVに感染しているのではないかと疑われる	2	5.3%	1	3.2%	0	0.0%	3	3.2%	0.50
ゲイ・バイであると説明するのが面倒	3	7.9%	1	3.2%	0	0.0%	4	4.2%	0.29
検査場所が知り合いに会う可能性がある	4	10.5%	1	3.2%	2	7.7%	7	7.4%	0.51
その他	7	18.4%	1	3.2%	7	26.9%	15	15.8%	0.04
これまでに何回HIV抗体検査（エイズ検査）を受けたことがありますか？									
1回だけ	15	15.0%	28	19.7%	27	22.9%	70	19.4%	0.17
2回	11	11.0%	23	16.2%	13	11.0%	47	13.1%	
3回	8	8.0%	14	9.9%	11	9.3%	33	9.2%	
4回以上	28	28.0%	46	32.4%	41	34.7%	115	31.9%	
生涯なし	38	38.0%	31	21.8%	26	22.0%	95	26.4%	
過去1年間にHIV抗体検査（エイズ検査）を受けたことはありますか？									
ある	40	40.0%	65	45.8%	47	39.8%	152	42.2%	0.55
ない	60	60.0%	77	54.2%	71	60.2%	208	57.8%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けた場所はどこですか？(複数回答) ²⁾									
病院	9	22.5%	23	35.4%	21	44.7%	53	34.9%	0.10
診療所・クリニック・医院	6	15.0%	13	20.0%	6	12.8%	25	16.4%	0.57
保健所・保健センター	25	62.5%	24	36.9%	18	38.3%	67	44.1%	0.02
南新宿検査・相談室	1	2.5%	0	0.0%	6	12.8%	7	4.6%	<0.01
chat CAST なんば	0	0.0%	11	16.9%	0	0.0%	11	7.2%	<0.01
自宅/郵送検査（HIV検査キット）	0	0.0%	5	7.7%	3	6.4%	8	5.3%	0.21
HIVcheck（東京/akta）	0	0.0%	0	0.0%	4	8.5%	4	2.6%	0.01
クリニック検査キャンペーン（大阪・岡山）	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%	1	0.7%	0.51
NLGR+検査会（名古屋）	0	0.0%	1	1.5%	4	8.5%	5	3.3%	0.05
M検（名古屋・岐阜）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
distaでピタッとちえっくん（大阪）	1	2.5%	3	4.6%	0	0.0%	4	2.6%	0.32
とうかさん・レッドリボンdeエイズ検査（広島）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
SHIP HIV性感染症検査（横浜）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
mabuiで HIV&梅毒検査!!（沖縄）	2	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.3%	0.06
その他	2	5.0%	3	4.6%	2	4.3%	7	4.6%	0.99
これまでにかかったことのある性感染症はどれですか？(複数回答)									
梅毒	11	11.0%	22	15.5%	24	20.3%	57	15.8%	0.17
A型肝炎	3	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.8%	0.02
B型肝炎	5	5.0%	14	9.9%	9	7.6%	28	7.8%	0.38
C型肝炎	0	0.0%	3	2.1%	1	0.8%	4	1.1%	0.29
クラミジア	11	11.0%	14	9.9%	11	9.3%	36	10.0%	0.92
尖圭コンジローマ	3	3.0%	9	6.3%	2	1.7%	14	3.9%	0.13
淋病	3	3.0%	11	7.7%	6	5.1%	20	5.6%	0.27
HIV感染症	1	1.0%	13	9.2%	12	10.2%	26	7.2%	0.02
赤痢アメーバ	0	0.0%	1	0.7%	1	0.8%	2	0.6%	0.67
毛じらみ	24	24.0%	32	22.5%	19	16.1%	75	20.8%	0.29
性器ヘルペス	1	1.0%	5	3.5%	3	2.5%	9	2.5%	0.47
その他	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	1	0.3%	0.36
いずれもない	57	57.0%	76	53.5%	64	54.2%	197	54.7%	0.86

1)これまでにHIV抗体検査を受検したことがない人を対象 2)過去1年間にHIV抗体検査を受検したことがある人を対象

表19 GCQ アンケート 配布地域別 性行動および予防行動

	配布地域						合計 N=328	Pearson カイ2乗	
	2018年度 沖縄 N=91		2018年度 大阪 N=127		2019年度 東京 N=110				
一番最近にアナルセックスをしたのはいつですか？									
現在から過去6ヵ月間の間	62	68.1%	98	77.2%	74	67.3%	234	71.3%	0.49
過去6ヵ月間から過去1年間の間	10	11.0%	8	6.3%	8	7.3%	26	7.9%	
1年以上前	16	17.6%	16	12.6%	21	19.1%	53	16.2%	
覚えていない	3	3.3%	5	3.9%	7	6.4%	15	4.6%	
一番最近にアナルセックスした相手はどれにあてはまりますか？									
彼氏や恋人	34	37.4%	32	25.2%	29	26.4%	95	29.0%	0.07
友達やセクフレ	30	33.0%	39	30.7%	39	35.5%	108	32.9%	
その場限りの相手	27	29.7%	53	41.7%	36	32.7%	116	35.4%	
その他	0	0.0%	3	2.4%	6	5.5%	9	2.7%	
一番最近にアナルセックスした相手と、どこで知り合いましたか？									
ゲイバー	12	13.2%	8	6.3%	7	6.4%	27	8.2%	<0.01
ゲイナイト	1	1.1%	6	4.7%	1	0.9%	8	2.4%	
出会い系サイト	25	27.5%	14	11.0%	15	13.6%	54	16.5%	
IT系SNS	1	1.1%	4	3.1%	5	4.5%	10	3.0%	
mixi	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	1	0.3%	
facebook	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	1	0.3%	
twitter	6	6.6%	7	5.5%	11	10.0%	24	7.3%	
スマートフォンのゲイ向けアプリ	19	20.9%	39	30.7%	19	17.3%	77	23.5%	
ゲイ向けサークル	6	6.6%	0	0.0%	1	0.9%	7	2.1%	
ゲイ向け合コン	2	2.2%	2	1.6%	1	0.9%	5	1.5%	
ゲイの乱バ	0	0.0%	2	1.6%	0	0.0%	2	0.6%	
有料ハッテン場	7	7.7%	28	22.0%	31	28.2%	66	20.1%	
野外ハッテン場	5	5.5%	1	0.8%	1	0.9%	7	2.1%	
学校、習い事	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	
その他	1	1.1%	11	8.7%	9	8.2%	21	6.4%	
覚えていない	5	5.5%	4	3.1%	8	7.3%	17	5.2%	
一番最近にアナルセックスした時、コンドームを使いましたか？									
使った	54	59.3%	74	58.3%	62	56.4%	190	57.9%	0.23
使わなかった	26	28.6%	47	37.0%	41	37.3%	114	34.8%	
覚えていない	11	12.1%	6	4.7%	7	6.4%	24	7.3%	
過去6ヶ月間に男性とアナルセックスをしたことがありますか？									
ある	-	-	98	77.2%	74	67.3%	172	72.6%	0.09
ない	-	-	29	22.8%	36	32.7%	65	27.4%	
過去6ヶ月間にアナルセックスした相手はどれにあてはまりますか？ ¹⁾									
彼氏や恋人	-	-	24	24.5%	25	33.8%	49	28.5%	0.18
友達やセクフレ	-	-	41	41.8%	34	45.9%	75	43.6%	
その場限りの相手	-	-	49	50.0%	23	31.1%	72	41.9%	
その他	-	-	0	0.0%	1	1.4%	1	0.6%	
過去6ヶ月間にアナルセックスした時にコンドームをどのくらい使いましたか？ ¹⁾									
常用	-	-	28	28.6%	25	33.8%	53	30.8%	0.46
非常用	-	-	70	71.4%	49	66.2%	119	69.2%	

1)過去6ヶ月間にアナルセックスをしたことがある人を対象

*これまでに男性とアナルセックスをしたことがある人を対象として分析

表 2 0 GCQ アンケート 配布地域別 薬物併用および金銭授受を伴う性行動

	配布地域						合計 N=360	Pearson カイ 2 乗	
	2018年度 沖縄 N=100		2018年度 大阪 N=142		2019年度 東京 N=118				
過去6ヶ月間に、セックスの時に使用したものはありますか？(複数回答)									
ハンドクリーム	5	5.0%	1	0.7%	5	4.2%	11	3.1%	0.11
水溶性ローション	66	66.0%	112	78.9%	85	72.0%	263	73.1%	0.08
ぼっ起薬	3	3.0%	9	6.3%	15	12.7%	27	7.5%	0.02
ラッシュ	0	0.0%	1	0.7%	2	1.7%	3	0.8%	0.38
ゴメオ	0	0.0%	1	0.7%	1	0.8%	2	0.6%	0.67
スピードなど	1	1.0%	1	0.7%	3	2.5%	5	1.4%	0.42
その他の合ドラ	1	1.0%	0	0.0%	1	0.8%	2	0.6%	0.51
脱法ハーブ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
静脈注射のドラッグ	0	0.0%	1	0.7%	2	1.7%	3	0.8%	0.38
違法ドラッグ	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	1	0.3%	0.36
PrEP	0	0.0%	1	0.7%	3	2.5%	4	1.1%	0.17
PEP	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	1	0.3%	0.36
いずれも使用していない	29	29.0%	27	19.0%	27	22.9%	83	23.1%	0.19
過去6ヶ月間のセックス時の薬物併用経験(再掲)									
いずれもなし	96	96.0%	132	93.0%	100	84.7%	328	91.1%	0.04
バイアグラのみ使用	2	2.0%	7	4.9%	13	11.0%	22	6.1%	
併用	2	2.0%	3	2.1%	5	4.2%	10	2.8%	
過去6ヶ月間に、相手からお金をもらって、セックスをしたことがありますか？									
ある	6	6.0%	4	2.8%	9	7.6%	19	5.3%	0.21
ない	94	94.0%	138	97.2%	109	92.4%	341	94.7%	
過去6ヶ月間に、相手にお金を払って、セックスをしたことがありますか？									
ある	6	6.0%	8	5.6%	4	3.4%	18	5.0%	0.61
ない	94	94.0%	134	94.4%	114	96.6%	342	95.0%	

よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討
成人前期（20 歳代）MSM での HIV 予防・認識と性行動に関する面接調査研究

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学健康科学部）

研究協力者：井上洋士（国立がん研究センターがん対策情報センター）、塩野徳史（大阪青山大学健康科学部）、金子典代（名古屋市立大学看護学部）、高橋良介（ANGEL LIFE NAGOYA）、後藤大輔（MASH 大阪 / コミュニティセンターdista）、舩石翔馬（福岡コミュニティセンター Haco）

A. 研究目的

日本では、20 歳代の MSM が、HIV 予防についてどのように考えており、どのような行動をとっているのかについては、明確な調査がなされていない。

また、セックス相手との出会い方や、性行動の実態についても明確とは言い難い。

そのため、これらの対象について、まずは話を聞き、普段どうしているのかをつぶさに訊ねることで初めて、今後どういった施策や介入などが必要なのか、その一端が明らかになると考えられる。

以上から、本研究では、20 歳代の MSM を対象に調査を実施・分析をすることによって、性行動や出会いの現状について明らかにすることにより、同世代を対象とした HIV 予防あるいは検査の促進の一助とすることを目的とした。

B. 研究方法

1) 調査方法

調査方法は、FGI（フォーカス・グループ・インタビュー）である。名古屋、福岡、大阪で FGI（フォーカス・グループ・インタビュー）を実施した。

いずれの地域でも、コミュニティセンターの担当者を通じて、調査対象者を募集してもらった。

参加する対象者として、20 歳代の MSM で性に関して他の人の前で話をすることができる人、性交渉経験がこれまでである人というクライテリアを設けた。また 1 か所について、概ね 5～7 人程度の参加者を想定するものとした。

日時や場所については、参加者らが集まりやすいことを前提に設定を依頼した。

FGI 開始時に、文書による IC を実施、同意書への署名で調査参加という形式をとった。

調査方法については、ファシリテーター 1 人が、インタビューガイド（IG）を用意し、それに基づき話題を投げかけ、自由に答えてもらう形をとった。

IG には以下の内容を含めた。

- ・年齢、自己紹介
- ・セックスの相手をどこでどう見つけているか。
- ・やり取りから出会うまでどのようなプロセスを経ているのか。
- ・出会い方が面倒だったり、もっとこんな形で出会えたらいいのに、というようなこと。
- ・セックスのときに自分の健康のことを考えて自分自身で心掛けていること。
- ・セックスのときに、相手に気を付けてもらいたいこと。
- ・セックスをするときに、これって健康にいいんだろうかと悩んだり考えたりしながらやっていること。
- ・HIV 予防と聞いて、どんなことが思い浮かぶか。
- ・コンドームの使用状況。使わないのはどんなときか。
- ・コンドーム以外で HIV 予防としてやっていること。
- ・HIV 以外の性感染症として何を思い浮かべるか。
- ・HIV 予防の情報をどこから手に入れているか。
- ・それらの情報は役に立っているか。
- ・HIV 予防についてもっとどんな情報が欲しいか。
- ・どこで情報を手に入れるのがよいと思うか。

実施日時とインタビュー所要時間は以下の通り。平均所要時間は105分だった。

- ・名古屋 2019年3月 1時間42分
- ・福岡 2019年6月 1時間53分
- ・大阪 2019年8月 1時間40分

2) 分析方法

FGIの内容はICレコーダーにより録音し、トランスクリプトを作成した。そしてトランスクリプトの内容を分析対象とした。

分析については、研究目的(リサーチクエスチョン)に合わせて、それらの指示的箇所を特定し、それらの内容を抽出したうえで、内容を端的に示すラベル付けをし、分類していく方法を採用した。これは、M-GTAの手法の一部に倣ったものである。

3) 倫理的配慮

大阪青山大学の研究倫理審査委員会に申請し承認を得た。

研究成果の公表にあたっては、トランスクリプトの一部を引用することとしたが、個人が特定されそうな恐れがある場合には、抽象化したり記号化したりすることで、特定化できないように十二分に配慮した。

C. 研究結果

1) 分析対象者とその年齢(表1)

17人が参加。うち、11人(64.7%)が20歳代前半。1人は10歳代であったが、状況からして年齢以外はクライテリアを満たしていること、またリクルートのプロセスからして参加してもらおうとよいと判断して、特例として調査対象者として加わっている。なお、以下では、それぞれの調査対象者に調査IDとして、アルファベット2文字を当てており、それらを示しながら、分析結果を報告する。

表1 調査対象者

場所・人数	名古屋・6人	福岡・6人	大阪・5人
日程	2019年3月	2019年6月	2019年8月
参加者	NA (22歳)	FA (28歳)	OA (28歳)
総計17人	NB (24歳)	FB (22歳)	OB (24歳)
10歳代 1人	NC (23歳)	FC (24歳)	OC (26歳)
20歳代前半 11人	ND (18歳)	FD (24歳)	OD (22歳)
20歳代後半5人	NE (27歳)	FE (21歳)	OE (23歳)
	NF (27歳)	FF (22歳)	-

2) 分析結果

以下、分析結果を示す。うち斜字は、調査対象者の語りを引用したものであり、語りの後のカッコ内には、調査対象者のIDと年齢を示す。

(1) 相手を見つける場として挙げられた場など(表2)

多様な場が挙げられ、セックスの相手を見つける場が多様化していることが見て取れた。

表2 相手を見つける場として挙げられた場など

ネット関連	ネットの他
9 monsters	ハッテン場(有料)
AMBERD	ハッテン場(屋外)
Twitter	公園
Twitter(表アカ)	ナイト
Twitter(裏アカ)	ゲイバー
爆サイ	銭湯
掲示板	映画館
Men's Net	トイレ
Kakao	プール
Cool Boys!	ビデオボックス
k@toom	勉強会
Tumblr	研修会
VERO	サークル
Mixi	
インスタ	

(2) セックス相手を見つける場としてのネットツール

ネットツールについては、どういった相手を探すかによって、使い分けをしていることが述べられていた。1例としては、遊びたい・デートしたい、という場合にはTwitterを利用、セックスしたい、という場合には、出会い系アプリとTwitterを利用しているとしていた。

会う目的によりますよね。最初普通にご飯とか話したい、遊びたいだけで会うパターンと、最初からもうそういうセックス含めて会いたいと思う方の2択になると思うんですよね。お話しとかしたりとかご飯とかだったらTwitter、セックスだけの目的だったらN(出会い系アプリ)とかTwitter。(FF・22歳)

出会い系アプリとTwitterの違いとして、Twitterでは履歴から相手の人間性がわかるという点が指摘されていた。

アプリは人間性が知れないからっていうの

が大きいし、アプリだと簡単に成り済ませるけど、Twitterだと過去のツイートの履歴が残るからなかなか成り済ましとかも難しいっていうので。会ってみたらつまらない人だったとかいうのが少ないのは圧倒的にTwitterですね。(FA・28歳)

Twitterですよ。N(出会い系アプリ)とかだともうやりたいだけの関係ならすぐ見つかるんですけど、そこからパートナーってなったら、相手もNしてるってことだから、そういう他の人たちと会う機会が多いじゃないですか。Twitterだと、こういう人間なんだってのが分かった上で会って、そこから深めていけるというか。(FF・22歳)

リアルで出会うのとネットツールを活用して出会うのは、全く別なものではなく、むしろ、両者をうまく組み合わせ活用しているようであった。1例として、ナイトに出て相手を見て出会い系アプリで確認する→Twitterで履歴を確認してやりとり→実際に個別に会う、というような方法もあると述べられていた。

基本アプリですけど、個人的にナイトによく出るんで。そこ(アプリ内の人)が結構来るんでね、人が。で大阪だけじゃなくて、名古屋とか、東京とか、博多とか行くんで、そのときに、その場では声掛けられるか、掛けられないか、五分五分なんですけど、後でTwitterで連絡来て、よかったらとか。会ったり。それが今多いです、現状は。「ナイトで見ました、かわいかったから」って。(OB・24歳)

語りの中には、こうしたやり取りが次第に面倒になって、出会いのためにN(出会い系アプリ)とかTwitterを使わなくなったというものもあった。

僕は何か面倒くさいなと思っちゃう、さっきの話。俺は何かだからV(アプリ)やらないのかも。何かNとTwitterだけでもうそんな、さっきのメッセージのやりとりじゃないけど。(NB・24歳)

釣り針を多く投げとけば。そこに知らないうちに掛かってればいいやぐらいの。(NF・27歳)

(3)セックスのときに気を付けていること

HIVや性感染症の予防に関連してどんな方法をとっているのかたずねたところ、様々なものがあげられたが、それらは、個人的な考えや

経験に基づいたものであったり、口コミにより情報入手したりして、予防に効くかどうか判断していることが多いということが示された。以下は、方法として挙げられたものの一部を要約したものである。

- ・カウパー的なものは飲まない
- ・口に精液が入った場合には水を大量に飲んで流しこむ
- ・口内炎のときにはセックスをやめておく
- ・口に精液を含んで、自分がいってからすぐ口から出す
- ・体調が悪い時にはセックスしない
- ・(タチの場合) ゴムが破れたら排尿する
- ・(ウケもタチも) 爪を切る、アナルをよく広げて慣らすことで出血を防ぐ

以下の要約のように、コンドームを使わなければならない、と感じる大きなインパクトのある出来事に出会ったときに、使うようになるという語りもいくつかあった。

- ・性感染症罹患経験からゴムをつけるようになった
- ・昔はゴムをつけていなかったが、セックスの相手がHIV陽性だったことがあり、それからつけるようになった

相手のことがよくわかってきたら、あるいは付き合うことになったら、もしくはセフレになったら、コンドームを使わない「ナマ解禁」にするという発言が比較的多くみられた。以下は、語りの一部を要約したものである。

- ・不潔と感じた相手とはやらない
- ・相手を調べちゃんとその人となりを知ってからやる
- ・ゴムをつけると嫌われると思ったらつけない
- ・セフレに昇格してからいわゆるリスク行為をするようにしたりバニラから卒業したりする
- ・付き合うことになったらナマでいいと判断
- ・ナマでやる相手については限定しておく

一方でコンドームを使わない「ナマ派」の人やHIV陽性者、あるいはその可能性がでてきそうな人を避けるという発言もあった。以下、一部要約である。

- ・ナマ派の人を避ける

・検査に行っていてネガティブということがわかっている人を選ぶ

- ・不特定多数とやっている人を守る
- ・みだりにそういう行為(アナルセックス)をしている人を守る
- ・爪を切っていない人、臭いがする人、不潔な人を守る
- ・アナル舐めは避けてもらう・避ける

(4) 情報・スキル

セックス前の準備については、語りの中では多様なものが挙げられたが、これらは、人から教わったり、系統だった情報を入手したわけではなく、概ね、自分自身の経験からこうした準備をするようになっていた。以下、一部要約。

- ・事前にご飯は食べない
- ・セックス前には食べ物に気を付ける(ニンニクなど刺激が強いものを守る)
- ・辛いものを食べない
- ・クーラーをつけない(お腹の調子を考えて)
- ・勃起するように3日前から溜めておく
- ・毛の処理をする
- ・シャワーを浴びる
- ・相手の性器をよくチェックする
- ・数種類の大きさのゴムを準備しておく
- ・自分にあったローションを手に入れておく
- ・シャワ流をする

たとえば、シャワ流については、ネットなどから自分なりに情報を仕入れている場合もあったが、セックスの相手に見せてもらったり、口コミを集めたりして、自分なりに模索している場合も少なくなかった。

自分がそういうホテルとか家とか、タチするときに、相手がシャワ流してたら、一緒にお風呂入っていい? みたいな感じで。恥ずかしいから嫌だって言う人か、あ、いいよって言う人、2択だと思うんですけど。いいよって言うんだったらどういうふうにしようかっていうのを見れば。(FF・22歳)

結構初体験のときじゃないですか。「分からないよって言ったら教えてくれる感じ。相手が。実際に横に立ってとかじゃないんですけど、こうやって、こうやってみたい。 (OB・24歳) 10代の時わかんなかった。何かどれが正しいんだろうって、いつも思ってた。でもこういう場だと、やっぱり何かある意味先輩みたいな人がいて聞くことはできるから、すごい自分は助

かってるし、友達とかの話聞いてても。(NB・24歳)

また、アナルセックス以外についての情報が欲しいという、以下のような語りもあった。

情報って言ったら、たぶん(精液などを)舐めないのが一番なんですけど、舐めてしまったときの予防とか、そういう、とか、万が一とか、やってるときに破れてしまったときの対処法とか、何ですかね、後からの応急処置とかを、意外と情報ないんで。(FE・21歳) :

(4) 性感染症について

概ね、性感染症については、少なくとも名前については、多くのものを網羅的に知っている状況にあった。

ヘルペスとクラミジアと梅毒と肝炎、A・B・Cの肝炎と、あと何かあったかな。(FE・21歳)

B型肝炎。(NA・22歳)

あとC肝もそうだよ。(NE・27歳)

C肝もそうなの?(NB・24歳)

あとヘルペスとか、何だっけ、コンジローマだっけ。(NE・27歳)

僕は、すいません、梅毒とA型、B型ぐらいですね。(NC・23歳)

淋病。(NF・27歳) :

毛じらみ。(NB・24歳)

ケツなめで、B型肝炎とか。それをN(出会い系アプリ)の広告とかで見て。(OC・26歳)

性感染症を学んだ場所としては、圧倒的に保健体育の授業が挙げられていた。ただし、内容の詳細は忘れ去られている様子であった。今はインターネットなどから情報収集をしていたものの、その情報が信用できるかどうかについては、現時点で20代に入っても保健体育の教科書に戻っている状況がうかがえた。

中学校で一回習って、高校でも復習的な感じで軽く習ってみたい感じだったんで。だいたい説明も軽くあって、表みたいになってて、期末試験の時にその表を埋めて、で、しかもその表を埋めるのが結構配点高かったみたいなやつ、記憶があります。(FE・21歳) 写真付きでしたよね。写真付きで、説明文が載っててみたいなので、こういうリスクがありますとか。(FD・24歳) :

(今は) たまにネットとかで調べたりとか、保健の教科書引っ張り出して見たりとかもあったんですけど。ほんとにあれ大丈夫かなって急に不安になったり。(FE・21歳)

僕は情報は人から聞くのが一番ですよ。ネットは分からない。(FF・22歳)

ってなってくると、一番信用できるのが保健の教科書なんです。(FE・21歳)

(5) コンドーム使用をどこで学んだ？

コンドームを使うことが必要だということは学校で習っていたようだが、他人ごと・現実味のないこととして受け止められていた。その理由として、以下の語りに代表されるように、コンドームの使用の前提として、男女間での話になっていたこと、そして避妊という話であったためでもあるとしていた。

学校とかでも、授業とかでこうしようとかあったんですけど、いまいち自覚してなかったとか、現実味を帯びてなかったとか。(OB・24歳)

他人事。(OC・26歳)

そう、他人事ですね。で、もう、同じく、自分なるわけがないと思ってたんで。検査にも行かなかったんですよ、長いこと。本当人生で2回くらいしか行ってないですけど。でも、自分の中で不安要素が募ってたんで、だいたい使っていました。20歳、22とか、21くらいからは。10代はあんまり使ってなかったです。(学校の授業は)もう本当、ぼーっと聞いてたんで。今となっては聞いてけばよかったなって思います。(OB・24歳)

学校の授業も、男女の恋愛を前提としてやってるから、余計他人事に。(OC・26歳)

妊娠とかないし。(OE・23歳) :

(6) HIV や予防はどこで学んだ？

学校の保健体育の授業、インスタ、保健所、コミュニティセンター、出会い系アプリ、映画などが挙げられていた。

学校の保健とかで習ったりとかは、どういう病気かっていうのは習ったりはしたんですけど、漠然と怖い病気だかっていうだけで、詳しくはどうなんだろうっていうのはちょっとありますね。何だろう、今はどうか分かんないんですけど、かかったら治らないだとか。(ND・18歳)

インスタもそうですね。(OE・23歳)

コミュニティセンター。(OB・24歳)

インスタか、保健所か、それくらい？(OC・26歳) :

いろいろ、(コミュニティセンターには)リーフレットみたいなものが置いてて、自由に見れるようになってて、それ読んだり。(OC・26歳)

あの空間にいただけで、結構入ってきますよね。(OB・24歳)

うん、入ってくる。(OC・26歳)

人から聞いたりとか、学生のときは学校の授業みたいな、ありましたけど。(OE・23歳)

N(出会い系アプリ)の最初の表紙とか。(OA・28歳)

FGIの最初のうちに、自分がHIV陽性であることを打ち明けた調査対象者がいた。この方は、学校でHIVの授業がきちんとなされていたために、後にHIV陽性判明してもあまり慌てなかったと語っていた。ここではIDは示さず、語りの一部を紹介しておく。学校教育を充実させることによる将来的な好影響を示す一例と言える。

うちの場合は中学校で、クラスごとだったんですけど、先生たちが集まって、HIVはこういう病気ですっていうのを2コマ分の授業使ってやりました。そこで、この方はこういうふうにならなくて亡くなられたとか、いろんな俳優さんとか出されて教わりました。なんで、自分がいざ19歳になってHIVかかった時に、今は死なないんだっていうのをそこでも確認できましたし、また20歳になって成人式で先生と会った時に、自分HIVにかかったんですよって、その時に先生たちから勉強してたのであんまり悩まずに今過ごせてますっていう話をしたりとかしましたね。

(ファシリテーター:その時の先生の対応とか反応っていうのは。)

泣いてましたね。私たちがちゃんと教えてたおかげであんまり深く悩まずに、話してくれるようになったのがすごいうれしいって言われて、ちゃんと教えててよかったって言ってましたね。もし教えてなかったら自分だけで悩んだりとか、自殺してたかもしれない状況まで行ってたかもしれないと思ったら不安で仕方がないって話されて。今はもう当たり前ようになってきてるHIVでも、昔の偏見からしたら気持ち悪い存在だったりとか、性感染症の一番死に

やすいとか、そういう偏見があるので、偏見とかをなくすための授業をもっと増やしていけたらなっての思っています。

(7) HIV 検査について

以下の要約のような要望等が語られていた。

- ・他の性感染症とまとめてやってもらうのはよい
- ・いろいろ聞かずにシンプルに終えてほしい
- ・利便のよい時間帯に頻繁に検査の機会を創ってほしい
- ・ハッテン場で検査できるようにしたらどうか
- ・1回検査に行ったら定期的に行くようになる
- ・筋トレみたいな感じ。1回行っちゃうと、もう次も行かないと。

(8)セックスについて話す機会

日常生活のなかで、セックスについて話す機会はほぼないと各地で話されていた。この調査で初めて知ったことも多いとも言われており、FGI 自体が、セックスについて語り合う実践の場として受け止められていたところもあった。

それほど(セックスについての話は)せんもんな。(OA・28歳)

こういうする場には、多分。(OE・23歳)

かしこまってはしない。(OC・26歳)

かしこまってはしないです。(OB・24歳)

それこそ掲示板とか、アプリとかで会って、これからどうするってなったときはするかもしれないけど、友達とはあんまり(セックスについては)話さない。(OA・28歳)

D. 考察

20 歳代のセックス相手との出会い方は、多様であるが、その時々のお会い系アプリ等ネットツールやリアルのお場の状況を見つつ、マメな使い分けや組み合わせた使い方をしていた。どのように出会っているのかを常に把握し続けながら、HIV や性感染症の情報支援や介入をしていく効果的な場を求める必要があると考えられる。

15 年ほど前の先行研究で、相手との関係性のなかでコンドーム使用有無を決定していく(砂川, 2002) というものがあるが、「いま」の 20 歳代でも、相手との関係性のなかで、ナ

マでやるかどうかを決める場合が見られることが明らかとなった。これについては、そのような状況に 20 歳代の MSM 層がなっていくメカニズムについて、今後探索していく必要があるだろう。

一方、中学校・高校での HIV や性感染症の授業で学んだことは、その後 20 代に至っても記憶に残っており、また教科書はネット情報に比べてより信頼されている状況や、インパクトも大きいことが示された。HIV や性感染症については、MSM を意識した授業展開をしていく必要があること、教科書に入れ込む内容や授業内容を充実させることは、文科省等に働きかけてもいいポイントと考えられる。

シャワ流やセックス前の準備なども含め、20 代のセックスについての情報は口コミや各自の経験から模索しているところも大きいことも明らかとなった。さらに、HIV や性感染症に限らず、セックスについての情報提供をしたり、セックスについての意見交換をする場を設けるとよりよいとも思われた。

また HIV や STI 検査機会の充実・拡大は 20 歳代でも要望されていた。

以上が、今回の 3 つの FGI を通して明らかとなった点に対する考察となる。

本研究の限界として、名古屋、福岡、大阪という限定された地域での調査であること、性生活についてグループインタビューで話をしてもいいという対象者という偏りがあることがあげられる。今後は、対象者の幅を広げて調査をすること、可能であれば量的調査をすること、地域別や年齢別の分析をして差を解明することなどが今後の課題と言えるだろう。さらに、先行文献をレビューし本調査研究結果と比較検討することも求められる。将来的には 20 歳代を組み込む形でアクションリサーチあるいはそれに類するものがなされるとよいのではないかと示唆された。

E. 結論

20 歳代を中心とした 17 人の参加のもと、3 件のフォーカスグループインタビューを、名古屋、福岡、大阪で実施した。その結果、出会い系アプリなどのネットツールでの出会い方や、出会い系アプリなどのネットツールとリアルとの両者を駆使しながら出会っている状況の一端が明らかになった。また、学校教育における HIV や性感染症の授業内容が 20 歳代になってからも重要になりうること、コンドーム使用については現時点では MSM 層ではかえって他人事と感じられる学校教育の場になっている

ことがうかがえた。その一方で、HIVについて学校で明確な情報提供をした場合には、万一その後生徒が HIV 陽性と判明しても、メンタルヘルスの極度な低下を避けられ落ち着ける状況になっている好事例も見受けられた。さらに、HIV 検査への期待や、セックスについて話す場の必要性もうかがわれた。

このように、20 歳代 MSM での性行動や出会いの状況、性感染症や HIV の予防行動について垣間見ることができたが、今後もさらに調査研究を進め、将来的には 20 歳代を組み込む形でアクションリサーチあるいはそれに類するものがなされるとよいのではないかと示唆された。

F. 研究発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

なし

令和2年3月25日

厚生労働大臣 殿

機関名 公立大学法人
名古屋市立大学

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 郡 健二郎



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
- 研究課題名 MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究
(H29 - エイズ - 一般 - 001)
- 研究者名 (所属部局・職名) 大学院看護学研究科・准教授
(氏名・フリガナ) 金子典代・カネコノリヨ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	名古屋市立大学看護学部	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2020年 3月 12日

厚生労働大臣 殿

機関名 特定非営利活動法人akta

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 岩橋恒太



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業

2. 研究課題名 MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究
(H29 - エイズ - 一般 - 001)

3. 研究者名 (所属部局・職名) 特定非営利活動法人akta 理事長
(氏名・フリガナ) 岩橋恒太 イワハシコウタ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	名古屋市立大学看護学研究科	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合はその理由：現在継続して検討中である)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関：名古屋市立大学)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容：)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年3月31日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人琉球大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 西田 睦 印



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
- 研究課題名 MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究
(H29 - エイズ - 一般 - 001)
- 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学研究科 准教授
(氏名・フリガナ) 健山 正男 (タテヤマ マサオ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	琉球大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年3月4日

厚生労働大臣 殿

機関名 川崎医科大学
所属研究機関長 職名 学長
氏名 福永 仁夫



次の職員の令和元年度 厚生労働科学研究費補助金 の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
2. 研究課題名 MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・教授
(氏名・フリガナ) 和田 秀穂 ・ ワダ ヒデホ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	川崎医科大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年 3月 31日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)—殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 大阪青山大学
所属研究機関長 職名 学長
氏名 久田 敏彦



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
2. 研究課題名 MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 大阪青山大学 講師
(氏名・フリガナ) 塩野 徳史・シオノ サトシ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	大阪青山大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。